

高知県立大学年報

令和4年度



高知県立大学

目 次

I	理念・使命・方針	
1	高知県立大学の理念	1
2	使命	1
3	基本方針	1
II	沿 革	
1	概要	3
2	沿革図	3
3	主要年表	4
4	名称及び所在地	7
III	組織及び教職員	
1	組織	8
2	教員（令和4年度）	12
IV	教育及び研究	
1	学部・大学院の概要（3つの方針）	28
2	受講者の状況	54
3	科目等履修生・特別聴講学生の状況	68
4	教員免許状取得状況・国家資格等合格状況	69
5	学位及び大学賞・学長賞等の授与状況	71
6	S D・F D活動実施状況	78
V	学 生	
1	行事実績	83
2	入学の状況	85
3	学生数（令和4年5月1日現在）	88
4	休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況	89
5	課外活動	91
6	授業料等の納入状況	92
7	日本学生支援機構奨学金受給状況（令和5年3月1日現在）	93
8	卒業（修了）者状況	94
VI	総合情報センター	
1	概要	96
2	組織・委員会	96
3	図書等受入状況	97
4	図書館利用状況	98
5	学内LAN状況	98
VII	地域教育研究センター	99
VIII	健康長寿センター	105
IX	健康管理センター	109

X	国際交流	
1	正規学生（留学生）数の推移	1 1 4
2	協定校数の推移	1 1 4
3	協定校一覧	1 1 4
4	協定大学への派遣実績	1 1 4
5	協定大学からの受入実績	1 1 5
6	外国人学生に対するプログラム	1 1 5
7	海外機関との共同研究・教育事業支援	1 1 5
8	本学学生への留学・奨学金等の支援	1 1 5
XI	開かれた大学	
1	公開講座等実施状況	1 1 6
2	学会役員等の状況	1 1 9
3	学外提供用刊行物作成状況	1 3 5
XII	財 務	
1	はじめに	1 3 7
2	貸借対照表	1 3 7
3	損益計算書	1 4 0
4	外部資金導入の状況	1 4 1
5	学長助成事業等の状況	1 5 1
XIII	キャンパス	
1	土 地	1 5 2
2	建 物	1 5 2

I 理念・使命・方針

1 高知県立大学の理念

本学は、平和な社会の発展及び人々の生活の質向上に向け、知の創造に寄与する学術研究を行うとともに、地域志向の教育研究を通じ、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に貢献することを理念とします。

2 使命

これまで本学は、学生の主体的な学びと他者を尊重する姿勢を育み、地域に開かれた知の拠点として、地域社会の課題解決に貢献する教育研究活動を展開してきました。この歴史を継承し、人口構造の変化、科学技術の発展、グローバル化の進展など、急激な変化の中で社会の要請に常に応えつつ、未来を拓く実践力を育成する大学、知識基盤社会を支えていく新たな知を創出する大学、地域と共に育ち地域に育てられる大学を目指します。

「多様性の尊重」、「連携の強化」、「戦略的な挑戦」を大学運営の基盤とし、恒常的な評価活動を行いながら、教育改革の推進、学術研究の質向上、社会連携活動の強化に取り組みます。

3 基本方針

1. 学生受入れの方針を定め、多様な学生を受入れ、豊かな人間性と倫理観を育む教育を行います。
2. 本学の伝統を紡ぎつつ、学生中心の教育、自己実現を支える教育を通して、未来社会を生き抜くことができる人材を育成します。
3. 最新の学術の動向を踏まえて、学術力・研究力を高め、産学官民との連携を推進し、専門性を追求する研究や実践的研究に挑戦的に取り組み、創出した知を社会に還元します。
4. 地域志向の教育研究活動を展開し、地域の人々と協働して、グローバル社会、持続可能な社会、多様で豊かな社会、安全・安心な社会づくりに取り組みます。
5. 社会の変化や県民のニーズを踏まえ、社会との接続を常に意識し、社会の期待に応える大学として機能を果たします。
6. 学部・大学院・センターの力の結集や教職協働の推進に戦略的に取り組み、知識基盤社会を支える知の拠点としての役割を果たします。

教育の方針

1. 幅広い教養と専門的な知識を活用して課題をグローバルで複眼的な観点から分析し探究できる人材を育成します。
2. 地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて活躍できる人材を育成します。
3. 地域志向の教育を通して、地域社会や現場の課題を人々と協働して解決できる人材を育成します。
4. 大学院においては、専門性に基づいて変革をもたらす実践的な知のプロフェッショナル(高度専門職業人・研究者・教育者)を育成します。

学生支援の方針

1. 一人ひとりの学生が自らの専門性を高め、その人らしく自己実現ができるよう、多様な学生のニーズに応える教育支援を行います。
2. 学生との対話を重視し、学生が主体的に学ぶことができるよう、教職協働で教育環境を整えます。

3. 心身ともに健康で安心して学業に専念し、豊かな人間性を育むことができるよう、学生生活への支援を行います。

学術研究の方針

1. 専門領域の発展・知の創造に向けて、関連機関と協働して、教員の多様な研究志向を尊重しつつ、専門的研究、学際的研究及び国際的研究を推進し、その成果を社会に発信します。
2. 地域の文化の発展、健康・福祉に関わる課題の解決に向けた実践・地域志向の研究を戦略的に推進し、地域社会の研究拠点としての役割を果たします。

社会連携の方針

1. 知の拠点として、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて、県民の学び直しや専門職者のキャリア向上に取り組みます。
2. 域学共生の理念のもと、地域との協働体制を強化し、課題解決や活性化に地域のみなさまと共に取り組みます。
3. 地域や産学官民との連携を図り、南海トラフ地震などの災害への対応や健康長寿県の実現に向けた健康福祉に関する活動を積極的に行います。

国際交流・連携の方針

1. 海外の提携大学を拡大し、国際交流の活性化、教育・研究の国際化を推進します。
2. 地域社会に根ざした国際交流・国際連携を推進し、地域社会と世界をつなぎ、外国人材の受入れや共生社会づくりを支援する拠点としての役割を果たします。

II 沿革

1 概要

高知県立大学は、高知県立女子専門学校(昭和22年設立認可)を母体とする、家政学部生活科学科の単科大学である高知女子大学(昭和24年設立認可)を前身とする。その後、昭和31年に文学部を新設して2学部体制となった。

平成10年4月には、21世紀を展望し、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学を目指して大規模な改組を行い、生活科学部・文化学部・看護学部・社会福祉学部の4学部6学科体制となるとともに、大学院看護学研究科を新設した。平成22年には、生活科学部食物栄養学科が健康栄養学部健康栄養学科へと学部に昇格した。平成26年4月には生活科学部を廃止し、平成28年3月には健康生活科学研究科を廃止し、看護学研究科及び人間生活学研究科をそれぞれ博士前期課程と博士後期課程からなる体制へと変更を行った。

平成23年には公立大学法人化を行い、男女共学化とともに、名称も高知女子大学から高知県公立大学法人高知県立大学へと校名変更を行った。平成27年には公立大学法人高知工科大学と法人統合を行った。

2 沿革図

昭和19年

高知県立女子医学専門学校設立認可



昭和22年

高知県立女子専門学校設立認可



昭和24年

高知県立高知女子大学設立認可

【学部】

家政学部

生活科学科



昭和27年

家政学部

生活科学科

看護学科



昭和31年

家政学部

文学部

生活科学科

看護学科

国文学科

英文学科



(S34 看護学科 → 衛生看護学科に改称)

昭和39年

家政学部

文学部

家政学科

食物栄養
学科

生活
理学科

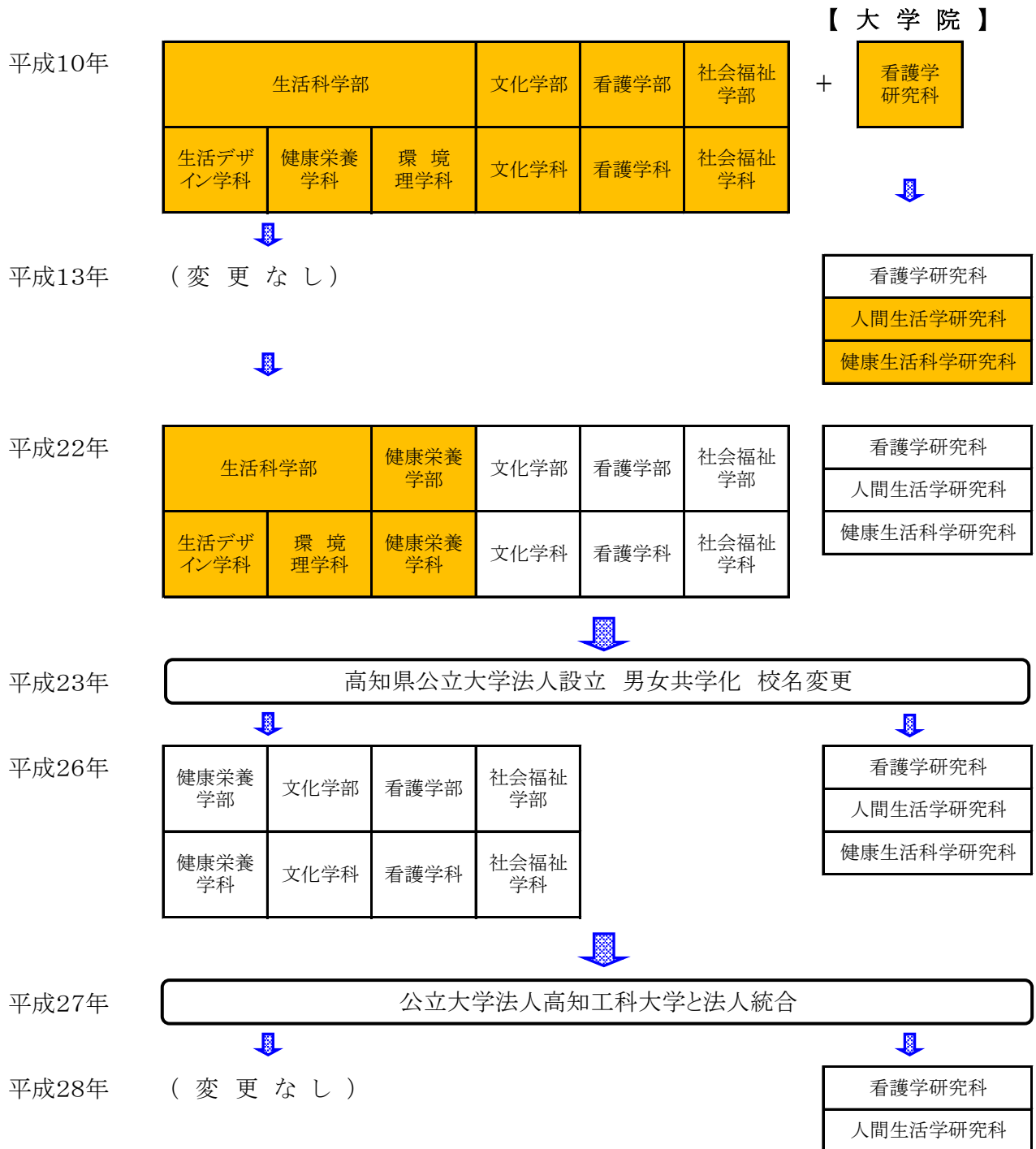
衛生看護
学科

国文学科

英文学科



(S56 衛生看護学科 → 看護学科に改称)



3 主要年表

昭和19年12月29日	高知県立女子医学専門学校設立認可
昭和20年 8月 8日	高知県立女子医学専門学校開学式及び入学式(同年1月8日学則発表)
昭和22年 3月31日	高知県立女子専門学校(生活科・生物科・英文科)設立認可 (県議会で2月25日女子医学専門学校廃止、女子専門学校設置の決議)
昭和24年 2月21日	昭和22年創立の県立女子専門学校を母体とし、県立高知女子大学 (家政学部:生活科学科・生物学科)設立認可
昭和24年 4月 1日	初代学長岡本重雄就任
昭和25年 4月 1日	家政学部生活科学科を栄養士養成施設として指定

昭和26年 3月31日	教職課程を設置、中学校・高等学校教諭(家庭)免許状授与資格を取得させるための課程として認定
昭和27年 2月20日	家政学部看護学科増設認可
昭和27年 3月18日	学長岡本重雄退職、教授福田俊治学長事務取扱に就任
昭和27年 9月22日	看護婦学校として指定
昭和27年10月 1日	第二代学長志波清時就任
昭和29年 3月21日	学長病気のため教授中村慶三郎学長代理に就任
昭和29年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を中学校・高等学校教諭(理科、保健、家庭、英語)・養護教諭の免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和30年 3月29日	保健婦学校として指定
昭和30年 9月10日	第三代学長中村慶三郎就任
昭和31年 3月 1日	文学部(国文学科、英文学科)増設認可
昭和32年 4月 1日	正規の課程を中学校・高等学校教諭(国語)免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和34年 4月 1日	家政学部看護学科を衛生看護学科に改称
昭和34年12月 1日	第四代学長紫藤貞一郎就任
昭和38年 8月 3日	学長紫藤貞一郎退職、教授田中亮学長事務取扱に就任
昭和39年 4月 1日	家政学部生活科学科を家政学科・食物栄養学科・生活理学科に改称
昭和39年 4月10日	第五代学長徳田弥就任
昭和41年 3月31日	附属図書館新館落成
昭和42年12月10日	家政学部実験棟新館落成
昭和43年 4月10日	第六代学長藤本薫喜就任
昭和43年10月15日	管理棟及び講義棟新館落成
昭和44年 9月10日	講堂兼体育館落成
昭和45年 4月 2日	第七代学長安中正哉就任
昭和46年 3月31日	学生寮落成 集団給食実習室落成
昭和46年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を高等学校教諭(看護)免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和47年 3月31日	作法室落成
昭和48年11月 7日	運動場完成
昭和50年 1月10日	高知女子大学保育短期大学部認可
昭和50年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部開学
昭和55年 4月 2日	第八代学長岡崎正一就任
昭和55年10月 7日	南学舎改築学生会館新築落成
昭和56年 4月 1日	家政学部衛生看護学科を看護学科に改称
昭和59年 4月 2日	第九代学長木原正雄就任
昭和62年11月15日	情報処理施設設置
昭和63年 6月28日	附属図書館増改築落成
平成 2年 3月26日	聴講生の課程を中学校・高等学校教諭(国語)免許状授与資格を取得させるための課程として認定
平成 2年 3月27日	弓道場落成
平成 2年 4月 2日	第十代学長池川順子就任

平成 8年 4月 2日	第十一代学長成田十次郎就任
平成10年 3月31日	池校舎落成
平成10年 4月 1日	改組 生活科学部(生活デザイン学科・健康栄養学科・環境理学科) 文化学部(文化学科) 看護学部(看護学科) 社会福祉学部(社会福祉学科) 大学院看護学研究科 教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成10年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部廃止
平成12年 4月 1日	教育職員免許法改正による教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成12年 8月29日	社会福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成13年 4月 1日	大学院研究科の増設 人間生活学研究科(修士課程) 健康生活科学研究科(博士課程後期) 二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格として認定
平成14年 9月 5日	精神保健福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成14年10月15日	学長成田十次郎退任、副学長吉野公喜学長事務代理に就任
平成15年 1月22日	第十二代学長吉野公喜就任
平成15年 4月 1日	第十三代学長青山英康就任 生活科学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成16年 4月 1日	高等学校教諭(福祉)免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成17年 4月 1日	栄養教諭免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成19年 4月 1日	第十四代学長山根洋右就任 看護学部看護学科を助産師学校として指定
平成21年11月30日	看護福祉棟新築落成
平成22年 2月28日	本部・健康栄養学部棟新築落成
平成22年 4月 1日	健康栄養学部健康栄養学科の設置(届出) 本学本部機能を池校舎に移転 社会福祉学部社会福祉学科に介護福祉士養成課程を新設し、介護福祉士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を栄養士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成22年10月31日	共用棟増改築落成
平成23年 4月 1日	大学の設置者を高知県公立大学法人に変更(許可) 男女共学化により大学名称を高知県立大学に変更(届出) 初代学長南裕子就任
平成24年 4月 1日	学芸員資格取得教育課程の廃止 地域教育研究センターの設置
平成25年 4月 1日	中学校・高等学校教諭(英語)専修免許状及び栄養教諭専修免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定

平成26年 4月 1日	大学院課程の増設 ・看護学研究科看護学専攻(博士後期課程) ・人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期課程) ・看護学研究科共同災害看護学専攻(博士課程) 生活科学部の廃止
平成27年 4月 1日	公立大学法人高知工科大学と法人統合 永国寺キャンパス教育研究棟落成 文化学部を拡充(夜間主の設置)
平成28年 3月31日	健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)を廃止
平成29年 3月	永国寺キャンパス体育館・食堂、図書館落成 池キャンパスさくら寮落成
平成29年 4月 1日	第二代学長野嶋佐由美就任
平成30年 3月23日	永国寺キャンパス整備完了(永国寺キャンパス西側敷地に緑の広場とモニュメント、学生会館の改修完了)。お披露目式を開催。モニュメント「詩の翼」は同窓会しらすぎ会からの寄贈
令和 4年 3月 7日	永国寺キャンパスあふち寮落成

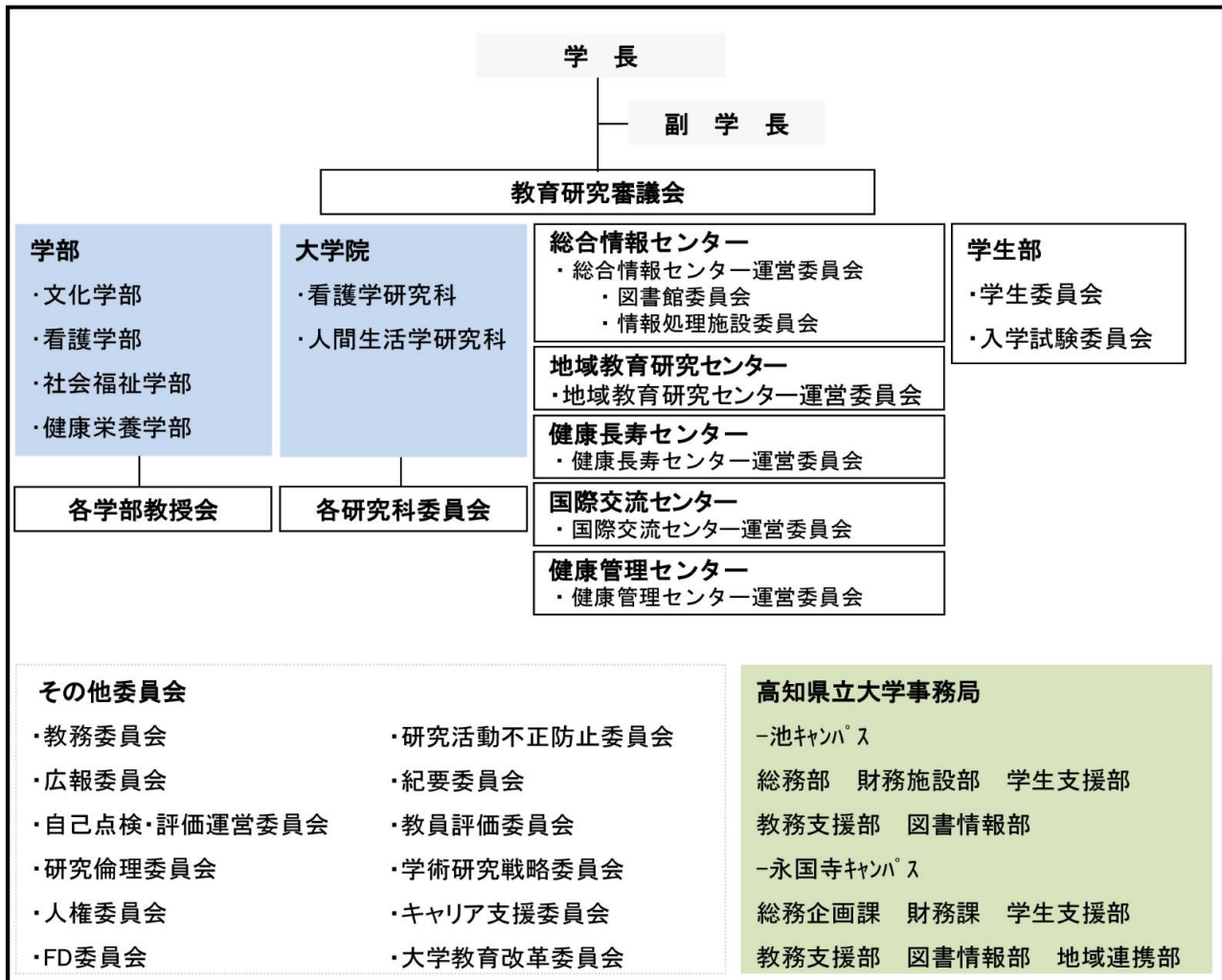
4 名称及び所在地

名 称		所 在 地	TEL・FAX
池 キ ャ ン パ ス	看護学部	〒781-8515 高知市池2751-1	TEL: 088-847-8700 (代表) FAX: 088-847-8670
	社会福祉学部		
	健康栄養学部		
	大学院看護学研究科		
	大学院人間生活学研究科 (栄養・生活学領域、社会福祉学領域)		
	事務局		
	附属図書館		
永 国 寺 キ ャ ン パ ス	文化学部(夜間主含む)	〒780-8515 高知市永国寺2-22	TEL: 088-821-7104 (代表) FAX: 088-821-7103
	大学院人間生活学研究科 (文化学領域)		
	事務局		
	附属図書館		

III 組織及び教職員

1 組織

(1)組織図



(2)教職員構成

(令和4年5月1日現在)

(単位:人)

区分	教 員								事 務 局 職 員					合 計	
	学 長	副 学 長	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計	局 長	事 務 職 員	司 書	保 健 師	計		
現 員	1	2	40	31	12	31	2	119	1	60	1	2	64	183	
内 訳	学 長	1							1						
	副学長		2							2					
	文化学部			10	13	1	0	0	24						
	看護学部			16	8	5	20	1	50						
	社会福祉学部			6	5	3	6	0	20						
	健康栄養学部			4	4	2	4	1	15						
	大学院			0	0	0	0	0	0						
	地域教育研究センター			4	0	1	0	0	5						
	総合情報センター			0	1	0	1	0	2						
	健康長寿センター			0	0	0	0	0	0						

(3)令和4年度新規採用教員数

(単位:人)

	学 長	副学長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
学長	0	0						0
文化学部			0	0	0	0	0	0
看護学部			0	0	0	2	1	3
社会福祉学部			0	0	0	0	0	0
健康栄養学部			1	0	0	0	0	1
看護学研究科			0	0	0	0	0	0
人間生活学研究科			0	0	0	0	0	0
地域教育研究センター			0	0	1	0	0	1
総合情報センター			0	0	0	0	0	0
健康長寿センター			0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	1	0	1	2	1	5

(4)名誉教授

現在までに名誉教授の称号を授与された教授は、67名である。

高知女子大学

(平成23年3月31日現在)

	氏名	所属(退職時)	授与年月日		氏名	所属(退職時)	授与年月日
1	正木 喬	文学部	昭和46年7月12日	26	岡崎 芳子	家政学部	平成9年4月1日
2	田中 亮	家政学部	昭和48年5月7日	27	宇久 真雄	文学部	平成9年4月1日
3	市川 一夫	家政学部	昭和48年5月7日	28	徳満 澄雄	文学部	平成9年4月1日
4	笹原 邦彦	家政学部	昭和50年5月19日	29	中山 喜代子	家政学部	平成10年4月1日
5	山崎 良幸	文学部	昭和50年5月19日	30	金谷 嘉郎	文化学部	平成11年4月1日
6	丸山 和雄	文学部	昭和50年5月19日	31	岡本 健児	文学部	平成12年4月1日
7	和井 兼尾	家政学部	昭和51年12月20日	32	橋本 名正	文化学部	平成12年4月1日
8	深瀬 亀美	家政学部	昭和52年6月27日	33	秋田 利彦	生活科学部	平成12年7月7日
9	三宮 慎助	文学部	昭和54年4月19日	34	濱田 美智	社会福祉学部	平成13年4月1日
10	安中正 哉	学長	昭和55年4月10日	35	藤田 加代	文化学部	平成14年4月1日
11	山本 壽春	家政学部	昭和55年4月10日	36	坂本 肇	文化学部	平成14年4月1日
12	岩 貞 好	家政学部	昭和55年4月10日	37	寺内 アヤ子	生活科学部	平成14年4月1日
13	赤沢 時之	家政学部	昭和56年4月10日	38	山崎 美恵子	看護学部	平成14年4月1日
14	芝田 不二男	家政学部	昭和59年4月10日	39	津曲 裕次	社会福祉学部	平成14年4月1日
15	畠中 幸	文学部	昭和60年4月10日	40	今西 一實	社会福祉学部	平成14年4月1日
16	作田 芳次	家政学部	昭和62年4月10日	41	松本 女里	看護学部	平成15年4月1日
17	平見 嘉彦	家政学部	平成3年5月10日	42	生田 勝彦	文化学部	平成15年4月1日
18	児平 文雄	家政学部	平成4年4月1日	43	阿部 捷男	生活科学部	平成16年4月1日
19	松崎 淳子	家政学部	平成4年4月1日	44	山口 俊治	文化学部	平成18年4月1日
20	山崎 智子	家政学部	平成6年4月1日	45	原 絢子	生活科学部	平成18年4月1日
21	市村 金次郎	文学部	平成7年4月1日	46	松田 眞一	社会福祉学部	平成18年4月1日
22	矢野 昭典	文学部	平成8年4月1日	47	住友 弘一	文化学部	平成19年4月1日
23	藤村 千賀	家政学部	平成8年4月1日	48	山根 久之助	文化学部	平成20年4月1日
24	池川 順子	学長	平成8年4月1日	49	川崎 育郎	社会福祉学部	平成21年4月1日
25	松崎 沙和子	家政学部	平成9年4月1日				

	氏名	所属(退職時)	授与年月日		氏名	所属(退職時)	授与年月日
1	青山英康	学長	平成23年5月19日	10	前山智	社会福祉学部	平成26年5月1日
2	成田十次郎	学長	平成23年5月19日	11	井本正人	文化学部	平成27年4月1日
3	山根洋右	学長	平成23年5月19日	12	逸見幾代	健康栄養学部	平成27年4月1日
4	北川明	文化学部	平成23年5月19日	13	荻沼一男	健康栄養学部	平成28年4月1日
5	大久保茂男	生活科学部	平成24年5月31日	14	森下利子	看護学部	平成28年4月1日
6	青木晴男	文化学部	平成26年4月1日	15	南裕子	学長	平成29年4月20日
7	佐藤恵里	文化学部	平成26年4月1日	16	芋生裕信	文化学部	平成30年4月1日
8	宮武陽子	看護学部	平成26年4月1日	17	宇野浩三	地域教育研究センター	平成30年4月1日
9	川村美笑子	健康生活科学研究科	平成26年4月1日	18	時長美希	看護学部	令和4年10月20日

2 教員(令和4年度)

(1)学部

○文化学部 文化学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	五百蔵 高浩	兵庫教育大学大学院 連合博士課程単位取得退学	博士(学校教育学) (兵庫教育大学)	英語音声学、英語科教育法Ⅰ、教職実践演習	英語音声学・音韻論 コーパス言語学的アプローチによる語法研究 第二言語学習者の音声習得
教授	井上 次夫	大阪外国語大学大学院 外国語学研究所日本語学専攻修士課程修了	修士(言語・文化) (大阪外国語大学)	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ、日本語教育学概論	国語科教育におけるICT活用法及びオンライン授業教材開発 日本語における様式的位相の研究
教授	岩倉 秀樹	広島大学大学院社会科学部法律学専攻博士課程後期単位取得退学	法学修士 (広島大学)	日本国憲法、文化と人権、文化と統治システム、情報化社会と法文化	表現の自由 選挙法
教授	宇都宮 千穂	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了	博士(経済学) (京都大学)	地域づくり論、地域学概論、文化政策論	近現代における企業城下町形成 都市的生活様式とコミュニティ形成に関する研究 地方移住政策と移住者
教授	大井 方子	東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位修得退学	修士(経済学) (東京大学)	経済学、文化と経済、地域産業論、社会調査論	技術革新、教育と労働に関する実証研究
教授	大村 誠	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	博士(理学) (京都大学)	地域防災論、地域文化論、観光と自然環境、自然災害と防災の科学	防災全般(防災教育、地域防災、災害看護支援) 人工衛星/航空機搭載合成開口レーダー(SAR)の応用 理科・科学教育、サイエンスコミュニケーション
教授	高西 成介	広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学	修士(文学) (広島大学)	中国文学講読(散文)、中国文学史	六朝志怪小説、唐代伝奇小説、六朝詩、唐詩の解説、およびそれらの作品を通して当時の社会・文化、および人々の心性の解明
教授	橋尾 直和	東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学	教育学修士 (鳴門教育大学)	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ、日本語学概論、日本語音声学・音韻論	東アジアにおける地域言語(日本語諸方言・アイヌ語・琉球語)の文化環境言語学的研究
教授	東原 伸明	国学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学	博士(文学) (名古屋大学)	平安朝文学演習、古典文学講読、基礎古典、日本語文章構成論、日本文学史(古典)	土左日記、竹取物語、伊勢物語、源氏物語の語りと言語・テキスト分析
教授	三浦 要一	大阪府立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了	博士(学術) (大阪府立大学)	住文化論、景観文化論	伝統的集落・町並みの保存と生活空間計画 歴史的建造物の復元に関する調査研究 大阪の都市空間に関する住居史的・都市史的研究
教授	ヨース・ジョエル	ルーヴェンカトリック大学日本学科博士課程修了	博士(日本学) (ルーヴェンカトリック大学[ベルギー])	国際日本学、日本思想史	自由民権運動、明治時代の思想と文化、日本の歴史と社会を英語で表現する
准教授	飯高 伸五	東京都立大学大学院社会科学部博士課程単位取得退学	博士(社会人類学) (東京都立大学)	文化人類学、民俗学、観光文化論	ミクロネシア地域における日本統治経験 アジア・太平洋戦争の記憶と戦跡観光 同郷者集団のネットワーク
准教授	オバーク・アンドリュース	ウェールズ大学文学研究科哲学博士課程修了、レーディング大学文学研究科語学教育課程修士修了	博士(哲学) (ウェールズ大学) 修士(応用哲学) (ウェールズ大学) 修士(英語教育) (レーディング大学)	異文化理解、教育法、英語ライティング、英語スピーキング	宗教の現象学(哲学)、応用哲学
准教授	梶原 太一	同志社大学大学院商学研究科商学専攻博士課程後期課程修了	博士(商学) (同志社大学)	NPO論、キャリアデザイン論、キャリア形成論、ビジネスリテラシー	投資の見返り(ROI)の多様な計算方法 複式簿記情報と資本コスト情報の固有価値 人間の計数能力形成と発達に関する歴史・制度的研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	金澤 俊吾	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了	博士(情報科学) (東北大学)	英語学概論、英語文法論、英語学専門演習	英語における形式と意味との対応関係に関する研究 英語における形容詞が関わる構文の意味的ネットワークに関する研究
准教授	菊池 直人	京都産業大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(法学) (京都産業大学)	文化と権利、生活と法文化、地域社会と法文化	生命保険契約における保険金受取人の法的地位 被保険利益と生命保険契約 消費者教育
准教授	清水 直樹	立命館大学大学院政策科学研究科政策科学専攻博士課程後期課程修了	博士(政策科学) (立命館大学)	政治学、地域分析論、地方自治論、地域づくりフィールドスタディなど	政治制度が公共政策や社会経済に与える影響
准教授	白岩 英樹	大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士後期課程修了	博士(芸術文化学) (大阪芸術大学)	米文化・文学史、米文化・文学論、国際文化専門演習	比較文学、比較芸術、比較思想
准教授	田中 裕也	同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程後期課程修了	博士(国文学) (同志社大学)	日本文学概論、日本文学史(近代)、近代文学講読、現代文学講読	三島由紀夫文学における思想系テキスト受容の研究 戦後文学における〈人間〉と〈美〉の表象研究 文学の検閲 解釈学と生成論
准教授	友原 嘉彦	広島大学大学院総合科学研究科博士後期課程修了	博士(学術) (広島大学)	観光学総論、観光まちづくり論Ⅰ、観光まちづくりフィールドスタディ、観光産業論Ⅰ	リフレクシブツーリズム(再帰を目的とした旅)やクリエイティブツーリズム(創造性の涵養を目的とした旅)の研究
准教授	鳥飼 真人	関西大学大学院文学研究科英文学専攻後期博士課程修了	博士(文学) (関西大学)	英文化・文学史、英文化・文学論、国際文化専門演習	近現代英文学 現代文学理論 比較文化 East-West Studies
准教授	根岸 忠	上智大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学	修士(法学) (法政大学)	労働契約と法文化、社会保障と法文化	介護労働者の労働条件保護 ワーク・ライフ・バランスに関する法的研究
准教授	向井 真樹子	ニューカッスル大学大学院 School of English & Linguistics修了	博士(言語学) (ニューカッスル大学)	対照言語学、比較言語研究、言語教育実践論Ⅱ、英語学専門演習、英語コミュニケーションⅠ、日本語Ⅱ	生成文法における英語 スカンディナヴィア諸言語族 ロマンス諸語 日本語の複合語の普遍的特徴 外国語学習者の言語特徴と習得理論(特に生成文法)
准教授	吉川 孝	慶應義塾大学大学院文学研究科哲学倫理学専攻後期博士課程修了	博士(哲学) (慶應義塾大学)	哲学、倫理学	現象学派の倫理学 生き方の哲学 ケアの哲学
講師	田中 康代	関西学院大学院法学研究科後期課程単位取得中退	修士(法学) (甲南大学)	社会秩序と法、文化と裁判	国際人権法から見た精神障害者の処遇

○看護学部 看護学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	畦地 博子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	行動科学、保健行動論、 人間と看護、看護研究方 法論、看護哲学と倫理	精神科看護を中心とした専門職のケア技術に関する研究
教授	池添 志乃	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	養護概説、学校保健、臨 床看護論Ⅱ、家族関係 論、教職実践演習、小児 看護学の動向と課題、養 護実習、看護哲学と倫 理、看護研究方法論	さまざまな健康レベルにある子どもと家族の生きる力を支えるケア についての研究 家族の生活の再構築に関する研究
教授	池田 光徳	岡山大学大学院医学 研究科博士課程修了	博士(医学) (岡山大学)	医学の世界、診断学、治 療学総論、人体のしくみ の乱れⅠ・Ⅱ、臨床看護 論、医学と看護の統合	代謝異常症 角化細胞の生物学 皮膚アレルギー 転写因子 褥瘡 皮膚機能検査
教授	内田 雅子	日本赤十字看護大学 大学院博士課程 単位修得満期退学	博士(看護学) (日本赤十字看護 大学)	看護学総論、治療援助 論、慢性期看護論、慢性 期看護援助論、治療と看 護、慢性期看護学の動 向と課題、総合看護実習 (慢性期)、看護と政策、 看護実践能力開発実 習、慢性看護論、慢性看 護対象論、慢性看護方 法論ⅠⅡ、慢性疾患診 断治療学ⅠⅡ、慢性看 護学実践演習ⅠⅡⅢⅣ Ⅴ、慢性看護課題研究、 臨床看護教育、慢性看 護ケア研究、成人看護 学ⅠⅡ、看護学特別研 究ⅠⅡⅢ	高知県血管病ハイリスク者への慢性看護ケアシステム 高知県血管病調整看護師の役割開発と人材育成 慢性病患者へのケア・コーディネーション 慢性看護実践における省察的事例研究
教授	瓜生 浩子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	生活援助論、フィジカル アセスメント、看護過程 論、看護援助の動向と課 題、看護基盤実習、総合 看護実習、看護研究	高次脳機能障害者とともに生きる家族の体験と支援に関する研 究 家族レジリエンスを促す看護に関する研究 家族看護実践力強化のための教育に関する研究
教授	大川 宣容	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	急性期看護論、回復期 看護援助論、急性期看護 実習、総合看護実習、急 性期看護の動向と課題、 バイオリジカルナーシ ング、治療援助論Ⅰ	エンドオブライフケアに関する研究 クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシーに関する研究 治療期にある患者・家族の体験に関する研究 シミュレーション教育に関する研究
教授	木下 真里	名古屋大学大学院医 学系研究科博士課程 修了	博士(医学) (名古屋大学)	グローバルヘルス、看護 と文化Ⅰ・Ⅱ、災害と看 護Ⅰ・Ⅱ、看護セミナー Ⅲ(病をもつ人の理解と 看護)、看護実践能力開 発実習、最新専門看護 実践講座Ⅰ、グローバル 社会と看護Ⅰ・Ⅱ、看護 セミナーⅡ、災害看護実 践論	外国人HIV感染者支援 四国HIV/AIDSケア体制の整備 ミャンマー母子保健支援 災害時被災者安否健康状態把握システムCOACHES開発研究
教授	久保田 聡美	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	特別講義(看護学研究 科)、管理者研修、看護 管理者研修、コーデ ィネット能力習得研修(退 院支援事業)看護サー ビス論、看護システム論、 看護管理の動向と課題	災害に強い専門職育成に関する研究 看護職のストレスマネジメントに関する研究 慢性疾患や禁煙支援、学生やスタッフ支援における動機付け面 接(MI)の臨床活用
教授	田井 雅子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	精神看護学総論、精神 の健康と看護、精神看護 の動向と課題、総合看護 実習、看護と政策	精神障害者の地域生活に向けた援助 認知症をもつ方の家族に関する研究 家族のレジリエンスを促進する看護に関する研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	竹崎 久美子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	老人看護学総論、老人 看護援助論、老人看護 の動向と課題、災害と看 護Ⅰ・Ⅱ、ふれあい看護 実習、人間と看護、看護 と政策	高齢者の「居がい」について 小規模デザイナーズ場づくりとケア効果 高齢患者の自宅退院支援プログラムの開発 認知症高齢者の術後安静をより安楽に保つためのケア開発 南海トラフ巨大地震準備期における災害看護
教授	長戸 和子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	生活援助論、生活と看 護、看護援助の動向と課 題、総合看護実習	病者特に慢性疾患患者とその家族への看護 家族マネジメント力に関する研究
教授	中野 綾美	日本赤十字看護大学 大学院看護学研究科 博士課程満期退学	博士(看護学) (日本赤十字看護 大学)	小児看護学総論、看護 研究方法論、看護と政策	命に向き合う子どもと親のエンドオブライフケアへの看護に関する研究 災害後における家族レジリエンスを促す看護に関する研究 家族との共働方エンドオブライフケア実践能力を高める看護遠隔 教育プログラムに関する研究
教授	藤田 佐和	聖路加看護大学大学院 看護学研究科博士 後期課程修了	博士(看護学) (聖路加看護大 学)	看護学総論、看護哲学と 倫理、終末期看護援助 論、看護と政策	がんと認知症を併せもつ高齢がん患者の緩和ケアと認知症ケア の統合ケアモデルの開発 外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に 基づく統合ケアモデルの開発
教授	森下 安子	高知県立大学大学院 看護学研究科博士 後期課程満期退学	博士(看護学) (高知県立大学)	在宅看護学総論、在宅 看護援助論、在宅看護リ エゾン論、在宅看護の動 向と課題、人間と看護、 臨床看護論Ⅰ、在宅看 護実習	在宅生活の継続と自立を支援するケアマネジメント技術に関する 研究 在宅移行支援システム構築に関する研究 多職種協働に関する研究 災害看護支援ネットワークに関する研究
教授	山田 寛	東海大学大学院工学 研究科博士課程修了	博士(工学) (東海大学)	看護システム論、人間工 学、看護セミナーⅢ	看護管理システムの分析と設計 看護サービスの質の向上と安定 災害看護支援ネットワークに関する研究
教授	渡邊 聡子	兵庫県立大学大学院 看護学研究科博士 後期課程修了	博士(看護学) (兵庫県立大学)	生命の科学と倫理、災害 と看護、母性看護学総 論、母性看護対象論、母 性看護援助論、母性看 護の動向と課題、助産看 護の動向と課題、母性看 護実習、助産看護実習 Ⅰ、看護研究	妊婦やその家族、および、ケア提供者における災害への備えに 関する研究 災害時の安心創造に向けたケア方略の開発 新型コロナウイルス感染症流行下における健康に関する研究
特任教授	神原 咲子	岡山大学大学院医歯 学総合研究科国際環 境科学講座公衆衛生 学博士課程修了	博士(医学) (岡山大学)	看護と文化Ⅰ・Ⅱ、保健 統計学、災害と看護Ⅰ・ Ⅱ、災害と看護、災害看 護実践論、疫学	平時の地域モニタリングを有する減災看護モデルの構築
准教授	内川 洋子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	看護サービス論、看護管 理の動向と課題、看護管 理実習、チーム医療実 習、看護研究、援助関係 論、対人関係とメンタル ヘルス、看護基盤実習、 看護教育論	看護におけるリーダーシップについて(看護師長、中堅看護師、 看護師のリーダーシップ) 看護におけるチームワークについて 看護師に対するチームワーク教育プログラムの開発、看護教育 に関する研究
准教授	小澤 若菜	高知女子大学大学院 看護学研究科博士 課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	地域の健康と看護、地域 看護援助論、地域看護 実習、地域看護の動向と 課題、保健統計学、疫 学、地域看護学総論	生活習慣病の重症化予防、働く人の健康づくりに関する研究
准教授	川上 理子	高知県立大学大学院 看護学研究科博士 後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	健康とヘルスプロモー ション、環境と看護、生活 援助論Ⅲ、在宅看護対 象論、在宅看護援助論、 在宅看護実習、在宅看 護の動向と課題、在宅介 護リエゾン論	高齢者の在宅療養における家族介護者の看取り 地域を基盤とした在宅移行支援システムの開発 訪問看護師の質保証のためのプログラム検討

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	佐東 美緒	広島大学大学院医学系研究科博士前期課程保健学修士課程修了	修士(保健学)(広島大学)	臨床看護論Ⅲ、小児看護実践論、小児の健康と看護(2回生新カリ、3回生旧カリ)、小児看護援助論、小児看護の動向と課題、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅱ、総合看護実習、助産看護実習Ⅰ、母性看護実習、保健行動論	NICUを退院したこどもとその家族を支える看護に関する研究 看護基礎教育における遠隔授業に関する研究 エンドオブライフケアに関する研究
准教授	嶋岡 暢希	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	母性看護援助論、母性看護実習、母性看護の動向と課題、助産看護学総論、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護管理論、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、助産看護の動向と課題、看護実践論、総合看護実習、看護と政策	乳児期の子どもをもつ親のMastery獲得を促進する看護援助
准教授	高谷 恭子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知女子大学)	小児の健康と看護、小児看護援助論、看護セミナーⅤ、小児看護実習、総合看護実習(小児)、看護研究	病いとともに生きる子どもと家族が辿る軌跡に関する研究 子どもセルフケアに関する研究 エンドオブライフ期における子どもと家族に関する研究
准教授	藤代 知美	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	精神の健康と看護、精神看護援助論、精神看護の動向と課題、精神看護実践論、精神看護実習、看護研究、援助関係論	精神障害者の地域生活移行・定着を促進するための交渉スキル 未治療・治療中断の精神疾患をもつ人の受療行動を促すための交渉スキル
准教授	森下 幸子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知女子大学)	訪問看護、在宅看護援助論、在宅看護実習、臨床看護論Ⅰ、高知県中山間地域等訪問看護師育成講座、最新実践看護講座Ⅰ	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援の研究 ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを高める看護ガイドラインの構築
講師	有田 直子	高知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	人間と看護、小児の健康と看護、小児看護援助論、臨床看護論Ⅲ・Ⅵ、小児看護の動向と課題、総合看護実習、領域実習(小児看護)	病気を持つ子どもと家族の意思決定に関する研究
講師	岩崎 順子	高知女子大学大学院看護学研究科博士課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	母性看護対象論、母性看護援助論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ、母性看護実習、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、総合看護実習	Maternal Confidenceについての研究 Family Confidenceに関する研究
講師	川本 美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	地域看護援助論、地域看護実習、総合看護実習、地域看護学総論、地域の健康と看護、地域看護実践論、地域看護の動向と課題、保健統計学、疫学	中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPlace Attachmentについて 事例検討を活用した保健師の人材育成について 保健婦駐在制度下での保健婦活動について
講師	小原 弘子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	老人の健康と看護、老人看護援助論、看護過程論、老人看護実践論、老人看護の動向と課題、看護研究、生活援助論Ⅲ、症状と看護、看護基盤実習、ふれあい看護実習	高齢者ケアに関すること 訪問看護師対象のシミュレーション教育に関すること

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
講師	山中 福子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	健康とヘルスプロモーション、生活援助論、慢性期看護論、慢性期看護援助論、慢性期看護の動向と課題、慢性期看護実習、看護研究、慢性期看護実践論、症状と看護	慢性心不全をもつ人への看護に関する研究
助教	池内 香	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	精神看護実習、総合看護実習、精神看護援助論	精神疾患をもつ人に対する看護ケア 精神疾患をもつ人と家族の力
助教	神家 ひとみ	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	治療援助論Ⅰ、看護過程論、看護基盤実習、ふれあい看護実習、急性期看護実習、総合看護実習、家族看護実習、急性期看護援助論	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群に関する研究
助教	源田 美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	家族関係論、臨床看護論Ⅱ(家族と健康)、看護基盤実習、在宅看護実習、総合看護実習、治療援助論Ⅰ	先天性の心臓病のある子どもと共に生きる家族の対処行動発達障害をもつ子どもとその家族の家族ストレス
助教	坂元 綾	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	地域学実習Ⅰ、治療援助論Ⅰ、フィジカルアセスメントⅡ、看護過程論、ふれあい看護実習、看護基盤実習、家族看護実習、チーム医療実習、看護実践能力開発実習、急性期看護実習、生活援助論Ⅱ	病棟看護師長のスタッフ育成における役割に関する研究 在宅酸素療法を要するCOPD患者の社会参加の促進に関する研究 2型糖尿病患者のフットケアにおけるエビデンスに関する研究
助教	塩見 理香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	看護基盤実習、地域学実習Ⅰ、ふれあい看護実習、能力開発実習、生活援助論、看護過程論	地域で生活する精神障がい者に関する研究
助教	高橋 真紀子	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	領域別実習(地域)、総合看護実習、看護管理実習、看護地域フィールドワーク、地域看護援助論、保健行動論	地域住民のケアリングに関する研究 地域で生活する精神障がい者に関する研究 医療的ケア児と家族を支える看護職のgood practiceに関する研究
助教	竹中 英利子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	生活援助論、生活援助論Ⅲ、在宅看護援助論、在宅看護実習、看護基盤実習、地域学実習Ⅰ	慢性疾患患者の外来看護に関する研究
助教	田之頭 恵里	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	小児の健康と看護、フィジカルアセスメントⅠ、臨床看護論Ⅲ、看護セミナーⅣ、総合看護実習、領域実習(小児看護)、小児看護実習	臓器移植を受けた子どもや家族に関する研究 手術を受ける子どもや家族に関する研究
助教	田中 雅美	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	急性期看護実習、フィジカルアセスメントⅡ、生活援助論Ⅱ、急性期看護援助論、治療援助論Ⅱ	ICU看護師の成長支援に関する研究
助教	徳岡 麻由	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	母性看護実習、助産看護実習、母性看護援助論	親となることへの支援 子どもを養育する夫婦、共同養育者のcoparenting

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助教	中井 あい	和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程修了	修士(保健看護学) (和歌山県立医科大学)	総合看護実習、看護基盤実習、慢性看護実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習、老人看護援助論	中山間地域の一人暮らし高齢者の栄養と食環境に関する研究 在外中高年者の健康増進に関する研究
助教	中井 美喜子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	看護過程論、フィジカルアセスメントⅡ、治療援助論Ⅰ、地域学実習Ⅰ、看護基盤実習、家族看護実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習、小児看護実習	人工呼吸器を装着した児と家族のヘルスケア機能に関する研究
助教	中井 有里	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程精神看護CNSコース修了	修士(看護学) (高知女子大学)	精神看護実習、総合看護実習、精神看護援助論	一般病床に入院した患者のせん妄ケア
助教	西内 舞里	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	母性看護援助論、母性看護対象論、母性看護実習、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護援助論、助産技術論Ⅱ、助産看護実習ⅠⅡ、母性看護実習、フィジカルアセスメントⅡ、家族関係論	糖尿病合併妊婦と夫の妊娠期の協働に関する研究 助産師の妊娠期ケアにおける臨床判断に関する研究
助教	廣瀬 未央	高知県立大学大学院看護学研究科修士修了	修士(看護学) (高知県立大学)	看護実践能力開発実習、看護基盤実習、慢性期看護実習、治療援助論Ⅱ、終末期看護援助論、フィジカルアセスメント	分子標的治療薬に伴う皮膚障害のある患者の症状マネジメント
助教	藤村 真紀	千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (千葉大学)	総合看護実習(慢性期)、看護基盤実習、慢性期看護実習、慢性期看護援助論	施設に入所している認知症を有する高齢者に関する研究
助教	益 宏実	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	慢性期看護実習、総合看護実習:慢性期、看護実践能力開発実習、慢性期看護援助論、回復期看護援助論	高知県の血管病ハイリスク群への重症化予防推進・看看連携モデルの開発
助教	森本 紗磨美	東京医科歯科大学大学院博士前期課程修了	修士(看護学) (東京医科歯科大学)	生活援助論Ⅲ、急性期看護援助論、総合看護実習(急性期)、看護管理実習、急性期看護実習、急性期看護論、バイオロジカルナーシング	消化器がん患者の周術期ヘルスリテラシー支援プログラムの開発
特任助教	三浦 由紀子	高知女子大学大学院看護学研究科修士修了	修士(看護学) (高知女子大学)	小児看護実習、看護実践能力開発実習、生活援助論、看護管理実習	病気の子どもと家族への看護介入に関する研究 人材育成に関する研究
特任助教	山本 かよ	高知県立大学大学院看護学研究科修了	修士(看護学) (高知県立大学)	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	コロナ禍における ハイフレックス型新任訪問看護師研修
特任助手	横川 奈知	愛媛県立医療技術短期大学 第二看護学科卒業		入退院支援事業	

○社会福祉学部 社会福祉学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	杉原 俊二	香川医科大学大学院医学研究科環境生態系専攻博士課程	博士(医学) (香川医科大学)	心理学理論と心理的支援、実践記録法、発達と老化の理解、面接技法	ナラティブアプローチによる対人援助、自分史分析とその応用
教授	田中 きよむ	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学	経済学修士 (滋賀大学)	社会保障論、地域福祉論Ⅱ、福祉行政と福祉計画、公的扶助論、権利擁護論	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の公共性と持続可能性の両立モデル ・人間発達理論に基づく社会保障制度の再構築 ・「小さな拠点」を軸とする住民主体の共生型地域づくりの形成要因と持続モデル ・地域福祉計画に基づく住民主体の福祉型地域づくりの形成要因と発展プロセス ・ホームレスの把握・支援方法に関する研究
教授	長澤 紀美子	新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程修了	博士(学術) (新潟大学)	社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、国際福祉論、女性福祉論、基礎ジェンダー学	欧米(特にイギリスを中心とした)介護政策の動向と国際比較ケアまたは福祉サービスの行政評価・アウトカム評価 ジェンダー視点での性的少数者の人権擁護と支援
教授	西内 章	関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士(臨床福祉学) (関西福祉科学大学)	相談援助の基盤と専門職、事例研究法、相談援助実習指導、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	多職種連携を活用したソーシャルワークの展開方法に関する研究 エコシステム視座に基づくソーシャルワーク実践の支援ツールに関する研究
教授	宮上 多加子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知女子大学)	介護過程Ⅰ・Ⅱ、認知症の理解	福祉分野の専門職養成教育とキャリア意識
教授	横井 輝夫	広島大学大学院保健学研究科保健学専攻修了	博士(保健学) (広島大学)	精神科リハビリテーション学、精神保健学、こころとからだのしくみ、発達と老化の理解	言語からみた認知症の人の理解
准教授	河内 康文	高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知県立大学)	介護の基本、コミュニケーション技術、障害の理解Ⅱ	介護人材の育成に関する研究
准教授	遠山 真世	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程修了	博士(社会福祉学) (東京都立大学)	障害者福祉論、社会調査の基礎、相談援助実習指導	障害者の雇用促進・就労支援に関する研究
准教授	西梅 幸治	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学) (京都府立大学)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ・Ⅳ	ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究 エコシステム視座に基づくコンピュータ支援ツールの研究
准教授	福間 隆康	広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期マネジメント専攻修了	博士(マネジメント) (広島大学)	福祉サービスの組織と経営	障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究
講師	加藤 由衣	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学) (京都府立大学)	児童・家庭福祉論、子育て支援論、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワークにおける省察的実践の研究
講師	辻 真美	松山大学大学院社会学研究科博士後期課程修了	博士(社会学) (松山大学)	介護の基本、認知症の理解Ⅰ、コミュニケーション技術、生活支援技術	訪問介護における労働特性と専門性に関する研究
講師	行貞 伸二	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(社会福祉学) (大阪府立大学)	社会福祉史、公的扶助論、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習	町村部における福祉事務所設置の実態

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助教	稲垣 佳代	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士(社会福祉学) (高知女子大学)	精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者の就労支援に関する研究
助教	大熊 絵理菜	高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士(社会福祉学) (高知県立大学)	医療ソーシャルワーク論、相談援助実習指導	医療ソーシャルワーカーのアセスメントに関する研究
助教	片岡 妙子	高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻修了	修士(看護学) (高知大学)	医療的ケア、生活支援技術、介護技術、介護総合演習、介護過程Ⅳ	介護福祉士による医療的ケア実施に関する研究
助教	田中 眞希	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士(社会福祉学) (高知女子大学)	生活支援技術、介護総合演習、障害の理解Ⅰ	介護職員の「演じる行為」
助教	玉利 麻紀	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(人間科学) (大阪大学)	対人関係とメンタルヘルス、精神保健福祉援助実習指導、心理学と心理的支援、国際福祉論	精神障害者をはじめとする社会的マイノリティへの偏見軽減アプローチに関する研究
助教	福田 敏秀	鳥取大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了	博士(保健学) (鳥取大学)	高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、対人関係とメンタルヘルス、相談援助実習指導	高齢者とその家族介護者等への支援に関する研究

○健康栄養学部 健康栄養学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	荒牧 礼子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	公衆栄養学、公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習	画像認識による食事調査法に関する研究 勤労者世帯の生活習慣と指導効果に関する研究 若年成人の食物摂取に関する研究
教授	小林 淳	金沢大学大学院自然科学研究科修了	博士(学術)(金沢大学)	公衆衛生学、生化学、地域健康論、生化学実験、環境衛生学実習	環境汚染化学物質の動態把握 食品添加物の分析
教授	村上 尚	熊本大学大学院医学研究科中途退学	博士(医学)(徳島大学)	人体の構造と機能、疾病論、生体科学実験・実習	生活習慣病の細胞生物学的解析
教授	渡邊 浩幸	岩手大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学)(岩手大学大学院)	食品学、食品機能学、食品衛生学	食品に含まれる機能成分の探索と機能評価 ①脂質代謝・エネルギー代謝に関する機能成分と評価 ②脳機能に関する機能成分と機能評価 ③食品の保存と加工
特任教授	笠原 賀子	徳島大学大学院栄養学研究科後期博士課程単位取得修了	博士(保健学)(徳島大学大学院)	栄養教育論実習Ⅱ	管理栄養士養成教育ならびに栄養士の職務に関する研究 楽しい栄養教育の構築と評価に関する研究 青少年の栄養摂取状況とヘルスリテラシーに関連した研究
准教授	島田 郁子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	給食経営管理論	地域食材を活かしたレシピ作成・PR方法 学生を対象にした災害時の備え教育 高齢者の給食喫食率向上の試みー肉軟化剤等による検討ー
准教授	鈴木 麻希子	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻修了	博士(医学)(岐阜大学)	基礎栄養学、応用栄養学	加工食品中のリンの定量 食物アレルギー エピジェネティクス制御と生活習慣病に関する研究
准教授	竹井 悠一郎	徳島大学大学院栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻博士後期課程修了	博士(栄養学)(徳島大学)	臨床栄養学	①動脈瘤の発症予防を目指した医学・栄養学研究 ②炎症性腸疾患の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ③慢性閉塞性肺疾患(COPD)の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ④高齢者の健康を守る食事と運動のアプローチ
准教授	西岡 道子	鳥取大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学)(鳥取大学)	調理学、調理学実習	加熱調理における魚介類のビタミンB ₁₂ について 調理における野菜の葉酸含量について
講師	廣内 智子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	臨床栄養学実習	災害時の栄養管理について
助教	小山 智久	城西大学大学院薬学研究科医療栄養学専攻博士前期課程修了	修士(医療栄養学)(城西大学大学院)	給食経営管理臨地実習、栄養教育論実習等	ポリフェノールの添加が小麦粉の加工特性に及ぼす影響
助教	隅田 有公子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	臨床栄養学実習等、食と介護等	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討
助教	竹本 和仁	武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻博士後期課程修了	博士(食物栄養学)(武庫川女子大学)	栄養学実験、生化学実験、食品学実験	食物アレルギー 高知県の伝統食品の機能性の探索
助教	生川 卓弘	名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士前期課程修了	修士(栄養科学)(名古屋学芸大学)	地域公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習、健康情報論実習、公衆栄養学実習、応用栄養学実習、環境衛生学実習	食用カンナ葉部の化学的・栄養学的特性
助手	彼末 富貴	高知女子大学家政学部食物栄養学科卒業	学士(家政学)	調理学実習、生体科学実験・実習	土佐の伝統食

○看護学部 看護学研究科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
特任教授	野嶋 佐由美	カリフォルニア大学サンフランシスコ大学院 (University of California San Francisco) 博士課程修了	博士(看護学) (University of California San Francisco)	理論看護学Ⅱ	脆弱性を抱えた家族のレジリエンスを促進するケアガイドラインと教育プログラムの構築

【地域教育研究センター】

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	石山 貴章	高知女子大学大学院健康生生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知女子大学)	教育心理学、発達心理学、教育方法論、生徒指導論、教育相談論、特別支援教育概論、教育実習、介護等体験	特別支援教育の授業づくり 障害者の就労支援に関する研究 心理検査/発達検査におけるアセスメントと支援アプローチ 発達障害者における教育支援
教授	一色 健司	京都大学大学院理学研究科博士後期課程 単位取得退学	理学博士 (京都大学)	基礎化学、地球の科学	環境水中の微量元素を指標とした環境動態の解明 微量元素の超高感度分析法・存在状態の解析法の開発
教授	清原 泰治	筑波大学大学院修士課程体育研究科修了	体育学修士 (筑波大学)	健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、地域学実習Ⅰ・Ⅱ、健康とヘルスプロモーション	日本のスポーツ産業の発展史 明治期における地域の自主的運動団体に関する研究 1950～1970年代の高知県における市町村民運動会の社会的機能に関する研究 高知県の中山間地域の活性化と大学教育
教授	鈴木 康郎	筑波大学大学院博士課程教育学研究科 単位取得満期退学	教育学修士 (筑波大学)	教育原理、教師論、道徳教育論、人権教育論、地域学実習	多文化社会におけるマイノリティの文化・教育問題とその改善に向けた教育のあり方に関する理論的・実証的研究 グローバル化の進展により公教育そのものが変容を迫られている状況に着目した基礎教育改革に関する研究 アジアにおける小学校英語教育の実施状況や多様な価値の共存に向けた道徳教育に関する国際比較研究 ボーダースタディーズの手法を用いた国境地域における教育交流の実態に関する研究
講師	秋谷 公博	東洋大学大学院 国際地域学研究科 国際地域学専攻 博士後期課程修了	博士(国際地域学)	地域学実習、チーム形成論、域学共生実習、地域文化資源論	アジアの都市貧困層によるネットワークを通じたまちづくりに関する研究 コンテンツを活用した観光まちづくりに関する研究 TBL及びPBLを活用したアクティブ・ラーニングの教育効果に関する研究

【総合情報センター】

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	風間 裕	北海道大学大学院理学研究科博士課程修了	理学博士 (北海道大学)	物理学通論、量子物理学、物理と自然法則	コンピュータを用いた物理学の教材開発 軽い核の構造解析
助教	名和 真一	京都大学大学院理学研究科博士後期課程 単位取得退学	理学博士 (京都大学)	情報処理概論、コンピュータリテラシ	核力と量子色力学(QCD) 計算機物理

(2) 大学院

○看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
—	教授	畦地 博子	看護理論と実践、看護研究と実践、共創看護学セミナーほか
—	教授	池添 志乃	看護理論と実践、看護学基盤論、学校保健研究ほか
—	教授	池田 光徳	病態生理学、フィジカルアセスメント特論、バイオメトリクス看護学演習ほか
—	教授	内田 雅子	ケア論、慢性看護ケア研究、慢性看護方法論、慢性看護学実践演習ほか
—	教授	瓜生 浩子	家族看護論、家族看護方法論、家族看護学実践演習ほか
—	教授	大川 宣容	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習ほか
—	教授	木下 真里	グローバルヘルス論、災害看護論、グローバル社会看護論、災害国際看護方法論ほか
—	教授	久保田 聡美	看護管理論、システム経営管理論、看護管理の動向と展望、看護学基盤論ほか
—	教授	田井 雅子	精神看護方法論、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
—	教授	竹崎 久美子	看護倫理、臨床倫理、老人看護ケア研究、老人看護論ほか
—	教授	長戸 和子	家族看護論、家族看護方法論Ⅰ・Ⅱ、家族看護学実践演習ほか
—	教授	中野 綾美	看護研究と実践、小児看護論、小児看護方法論Ⅰほか
—	教授	藤田 佐和	看護倫理、がん看護論、がん看護方法論、がん看護課題研究ほか
—	教授	森下 安子	看護マネジメント論、在宅看護論、在宅看護展開論、在宅看護方法論ほか
—	教授	山田 覚	データ分析方法論Ⅰ、システム経営管理論、災害看護管理セミナーほか
—	教授	渡邊 聡子	女性健康看護論、女性健康支援論、母性・助産看護ケア研究ほか
—	教授	大村 誠	環境防災学
—	准教授	内川 洋子	看護管理展開論、看護マネジメント論、看護教育学研究方法ほか
—	准教授	川上 理子	在宅看護方法論、在宅看護展開論、在宅看護学実践演習ほか
—	准教授	佐東 美緒	小児看護対象論、小児看護方法論、小児看護ケア研究ほか
—	准教授	嶋岡 暢希	女性健康支援論、子育てケア包括支援論、母性・助産看護ケア研究ほか
—	准教授	高谷 恭子	看護研究と実践、こころの発達、小児看護論ほか
—	准教授	藤代 知美	看護倫理、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
—	准教授	森下 幸子	在宅リエゾン看護論、在宅リエゾン看護演習
—	准教授	飯高 伸五	学際的研究方法
—	准教授	吉川 孝	学際的研究方法
—	講師	有田 直子	看護コンサルテーション論、小児看護方法論、小児看護学実践演習ほか
—	講師	小原 弘子	老人看護対象論、老人看護展開論Ⅱ、老人ケアシステム論ほか
—	助教	益 宏実	慢性看護対象論、慢性看護方法論Ⅱほか
—	特任教授	神原 咲子	災害看護論、グローバル社会看護論、災害看護活動論（準備期）ほか

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
—	教授	畦地 博子	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、共創看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	池添 志乃	学校保健学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	池田 光徳	医学研究方法論、看護病態生理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	内田 雅子	成人看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	瓜生 浩子	看護倫理学、家族看護学Ⅱ
—	教授	大川 宣容	成人看護学Ⅱ
—	教授	木下 真里	プロフェッショナルライティングほか
—	教授	久保田 聡美	看護経営管理Ⅰ
—	教授	田井 雅子	精神看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	竹崎 久美子	老人看護学Ⅰ・Ⅱ
—	教授	長戸 和子	家族看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	中野 綾美	看護学研究方法Ⅰ、小児看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	藤田 佐和	理論看護学Ⅰ、看護倫理学、がん看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	森下 安子	在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
—	教授	山田 覚	看護学研究方法Ⅱ、看護経営管理Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	准教授	吉川 孝	理論看護学Ⅱ
—	特任教授	野嶋 佐由美	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
—	教授	木下 真里	災害看護リーダーシップ・管理論、インデペンデントスタディ、インターンシップ I・II、災害看護ゼミナールAほか
—	教授	山田 覚	災害看護リーダーシップ・管理論、インデペンデントスタディ、インターンシップ II、災害看護ゼミナールAほか
—	教授	大村 誠	環境防災学 I・II
—	特任教授	神原 咲子	理論看護学 II、災害看護リーダーシップ・管理論、インデペンデントスタディ、災害看護ゼミナールAほか

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
基礎	教授	石山 貴章	教育心理学特論
基礎	教授	清原 泰治	地域スポーツ論
基礎	教授	鈴木 康郎	教育学特論
栄養・生活学	教授	一色 健司	研究方法論 I、データ解析論、環境解析論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	小林 淳	栄養生活統計論、環境生態論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	村上 尚	臨床栄養学特論、健康動態論、栄養・生活特論 I、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	渡邊 浩幸	研究方法論 I、食品製造学特論、食物科学実践演習、栄養・生活特論 II、栄養・生活学課題研究演習ほか
栄養・生活学	准教授	荒牧 礼子	栄養疫学論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	准教授	鈴木 麻希子	栄養学特論、栄養・生活特論 I・II、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	准教授	竹井 悠一郎	臨床栄養学特論、栄養・生活特論 I、栄養・生活学課題研究演習
社会福祉学	教授	杉原 俊二	児童・家庭福祉論 I・II、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	田中 きよむ	社会保障論、福祉行財政論、地域福祉論 I・II、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	長澤 紀美子	国際福祉論 I・II、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	西内 章	研究方法論 II、ソーシャルワーク論、高齢者福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	宮上 多加子	介護福祉論 I・II、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	横井 輝夫	健康リハビリテーション論、福祉リハビリテーション論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	遠山 真世	研究方法論 II、障害者福祉論、データ解析論
社会福祉学	准教授	西梅 幸治	研究方法論 II、社会福祉原論、ソーシャルワーク論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	福岡 隆康	研究方法論 II、地域福祉論 I・II、社会福祉学課題研究演習
文化学	教授	五百蔵 高浩	英語文化論 I、文化学課題研究演習
文化学	教授	岩倉 秀樹	地域文化論 I・II
文化学	教授	宇都宮 千穂	地域文化論 III
文化学	教授	大村 誠	地域文化論 I・III、文化学課題研究演習
文化学	教授	高西 成介	文学 I・III
文化学	教授	橋尾 直和	研究方法論 III、日本文化論 I、日本語文化論
文化学	教授	東原 伸明	文学 I・II、文化学課題研究演習
文化学	教授	三浦 要一	観光文化論 I・II・III、文化学課題研究演習
文化学	教授	ヨース・ジョエル	日本文化論 I・II、国際日本学、文化学課題研究演習
文化学	准教授	金澤 俊吾	英語言語文化論特論 I
文化学	准教授	菊池 直人	研究方法論 III、地域文化論 II
文化学	准教授	白岩 英樹	研究方法論 III、英語文化論 II、英語言語文化論特論 II
文化学	准教授	鳥飼 真人	英語文化論 III
文化学	准教授	吉川 孝	研究と倫理、文化学課題研究演習

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
栄養・生活学	教授	大村 誠	研究デザイン、地球環境解析学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教授	小林 淳	研究デザイン、環境生態学
栄養・生活学	教授	村上 尚	研究倫理、健康動態学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教授	渡邊 浩幸	研究倫理、食品機能学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	准教授	竹井 悠一郎	研究倫理、食品機能学
社会福祉学	教授	杉原 俊二	研究デザイン、研究倫理、障害者福祉学、児童・家族福祉学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教授	長澤 紀美子	研究デザイン、国際福祉政策学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教授	西内 章	研究倫理、地域ソーシャルワーク学
社会福祉学	教授	宮上 多加子	研究倫理、介護福祉学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教授	横井 輝夫	研究デザイン、福祉リハビリテーション学
文化学	教授	五百蔵 高浩	研究倫理、言語文化学Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教授	東原 伸明	研究デザイン、言語文化学Ⅰ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教授	三浦 要一	研究デザイン、地域文化学Ⅰ・Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

(3)非常勤講師・臨床教授・客員教授

	職名	氏名	担当科目		職名	氏名	担当科目
文化学部	非常勤講師	安藤 麻貴	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ、異文化理解Ⅰ	看護学部	非常勤講師	東 洋一郎	薬理学
		池 純子	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ			日高 千晴	人体の構造Ⅰ・Ⅱ
		大谷 俊彦	書道			平野 世紀	病態と治療Ⅱ
		シュテファン・フーク	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ			福井 直樹	病態と治療Ⅰ
		佐藤 洋子	男女共同参画社会論			福永 一郎	地域保健政策
		中村 茂生	観光文化論Ⅰ			藤田 博一	心のしくみ
		細居 俊明	国際関係論、国際開発論			松本 務	在宅医療
		松吉 明子	英語ライティングⅠ			三浦 悠作	病態と治療Ⅰ
		吉本 秋水	言語教育実践論Ⅰ			満田 直美	健康管理論、公衆衛生学
		渡部 淳	日本文化論			南 晋	母性学
		渡辺 裕美	言語学概論			宮澤 真理	小児と疾患
看護学部	非常勤講師	新 良治	病態と治療Ⅱ	臨床教授	宮野 伊知郎	健康管理論、公衆衛生学	
		今井 利	病態と治療Ⅰ		宮本 寛	在宅医療	
		上野 晃子	助産診断論		森田 聡美	母性学	
		浦田 知之	病態と治療Ⅰ		山川 泰明	病態と治療Ⅱ	
		栄徳 勝光	健康管理論、公衆衛生学		山本 寄人	母性学、助産学	
		戎 正司	心のしくみ		澁谷 祐一	臨床講義	
		大上 賢祐	病態と治療Ⅰ		田上 豊資	臨床講義	
		大西 広志	病態と治療Ⅰ		多田 邦子	臨床講義	
		岡林 雄大	病態と治療Ⅱ		田鍋 雅子	医療と経営	
		岡本 宣人	病態と治療Ⅱ		豊田 誠	臨床講義	
		岡谷 恵子	看護と政策		西岡 明人	医療と経営	
		尾崎 和秀	病態と治療Ⅱ	野中 真澄	臨床講義		
		小野 憲昭	医療と経営	山本 克人	臨床講義		
		尾原 義和	病態と治療Ⅰ	吉永 恵子	臨床講義		
		金澤 亜錦	小児と疾患	奥谷 文乃	医学概論		
		川瀬 史愛	母性学	加藤 誠之	更生保護制度		
		川原 由佳里	医療史	鈴木 孝典	精神保健福祉論Ⅱ		
		熊田 孝恒	行動科学	関 草路	生活支援技術Ⅳ		
		小島 優子	生命の科学と倫理	玉里 恵美子	社会学と社会システム		
		児玉 佳奈	健康管理論	三好 弥生	介護過程Ⅲ		
		小松 淳子	母性学、助産学	山崎 正雄	精神医学		
		小松 利広	微生物学	片山 訓博	運動生理学		
		是永 正敬	微生物学	河野 俊夫	フードシステム学		
		齋藤 源顕	薬理学	田中 健二郎	人体の構造と機能		
		佐々木 潔	小児と疾患	宮澤 公栄			
		佐田 憲映	健康管理論	山之内 大			
		澤田 健	心のしくみ	片田 一義	英語コミュニケーション		
		清水 翔吾	薬理学	北川 泰生	英語コミュニケーション		
		清水 孝洋	薬理学	サイモン・クインラン	英語コミュニケーション		
		下嶽 ユキ	公衆衛生学	宮本 祥子	英語コミュニケーション		
		十萬 敬子	医療と経営	ステイーブン・チャー	英語コミュニケーション		
		菅沼 成文	健康管理論、公衆衛生学	ヘルムリンガー・麻美	英語コミュニケーション		
		高橋 成彦	母性学	吉田 祐子	英語コミュニケーション		
		高橋 美枝	病態と治療Ⅰ	松吉 明子	英語コミュニケーション		
		田口 崇文	病態と治療Ⅱ	ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション		
		谷口 睦男	人体の機能Ⅰ・Ⅱ	中嶋 紀子	英語コミュニケーション		
		土本 啓嗣	小児と疾患	ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション		
		土山 芳徳	病態と治療Ⅱ	ショーン・ブルゴワーン	英語コミュニケーション		
		手島 恵	看護学の動向と課題	李 賢珠	英語コミュニケーション		
		土井 彰	病態と治療Ⅰ	野中 陽一朗	心理学		
		砥谷 和人	病態と治療Ⅰ	福住 紀明	心理学		
		所谷 知穂	小児と疾患	谷地森 秀二	土佐の自然と暮らし		
		中島 信恵	地域保健政策	前田 綾子	土佐の自然と暮らし		
		中田 裕生	小児と疾患	有川 幹彦	基礎生物学		
		永野 志歩	心のしくみ	宮本 隆信	健康スポーツ科学		
		永野 史翔	小児と疾患	駒井 説夫	健康スポーツ科学		
		西内 律雄	小児と疾患、病態と治療Ⅱ	鹿嶋 真弓	特別活動論		
林 和俊	母性学、助産学、医療と経営	福石 賢一	教育課程論				
看護学部	非常勤講師	新 良治	病態と治療Ⅱ	社会福祉学部	非常勤講師	奥谷 文乃	医学概論
		今井 利	病態と治療Ⅰ			加藤 誠之	更生保護制度
		上野 晃子	助産診断論			鈴木 孝典	精神保健福祉論Ⅱ
		浦田 知之	病態と治療Ⅰ			関 草路	生活支援技術Ⅳ
		栄徳 勝光	健康管理論、公衆衛生学			玉里 恵美子	社会学と社会システム
		戎 正司	心のしくみ			三好 弥生	介護過程Ⅲ
		大上 賢祐	病態と治療Ⅰ			山崎 正雄	精神医学
		大西 広志	病態と治療Ⅰ			片山 訓博	運動生理学
		岡林 雄大	病態と治療Ⅱ			河野 俊夫	フードシステム学
		岡本 宣人	病態と治療Ⅱ			田中 健二郎	人体の構造と機能
		岡谷 恵子	看護と政策			宮澤 公栄	
尾崎 和秀	病態と治療Ⅱ	山之内 大					
小野 憲昭	医療と経営	片田 一義	英語コミュニケーション				
尾原 義和	病態と治療Ⅰ	北川 泰生	英語コミュニケーション				
金澤 亜錦	小児と疾患	サイモン・クインラン	英語コミュニケーション				
川瀬 史愛	母性学	宮本 祥子	英語コミュニケーション				
川原 由佳里	医療史	ステイーブン・チャー	英語コミュニケーション				
熊田 孝恒	行動科学	ヘルムリンガー・麻美	英語コミュニケーション				
小島 優子	生命の科学と倫理	吉田 祐子	英語コミュニケーション				
児玉 佳奈	健康管理論	松吉 明子	英語コミュニケーション				
小松 淳子	母性学、助産学	ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション				
小松 利広	微生物学	中嶋 紀子	英語コミュニケーション				
是永 正敬	微生物学	ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション				
齋藤 源顕	薬理学	ショーン・ブルゴワーン	英語コミュニケーション				
佐々木 潔	小児と疾患	李 賢珠	英語コミュニケーション				
佐田 憲映	健康管理論	野中 陽一朗	心理学				
澤田 健	心のしくみ	福住 紀明	心理学				
清水 翔吾	薬理学	谷地森 秀二	土佐の自然と暮らし				
清水 孝洋	薬理学	前田 綾子	土佐の自然と暮らし				
下嶽 ユキ	公衆衛生学	有川 幹彦	基礎生物学				
十萬 敬子	医療と経営	宮本 隆信	健康スポーツ科学				
菅沼 成文	健康管理論、公衆衛生学	駒井 説夫	健康スポーツ科学				
高橋 成彦	母性学	鹿嶋 真弓	特別活動論				
高橋 美枝	病態と治療Ⅰ	福石 賢一	教育課程論				
田口 崇文	病態と治療Ⅱ						
谷口 睦男	人体の機能Ⅰ・Ⅱ						
土本 啓嗣	小児と疾患						
土山 芳徳	病態と治療Ⅱ						
手島 恵	看護学の動向と課題						
土井 彰	病態と治療Ⅰ						
砥谷 和人	病態と治療Ⅰ						
所谷 知穂	小児と疾患						
中島 信恵	地域保健政策						
中田 裕生	小児と疾患						
永野 志歩	心のしくみ						
永野 史翔	小児と疾患						
西内 律雄	小児と疾患、病態と治療Ⅱ						
林 和俊	母性学、助産学、医療と経営						
				健康栄養学部	非常勤講師	片山 訓博	運動生理学
				健康栄養学部	非常勤講師	河野 俊夫	フードシステム学
				健康栄養学部	客員教授	田中 健二郎	人体の構造と機能
				健康栄養学部	客員教授	宮澤 公栄	
				健康栄養学部	客員教授	山之内 大	
				共通教育	非常勤講師	片田 一義	英語コミュニケーション
				共通教育		北川 泰生	英語コミュニケーション
				共通教育		サイモン・クインラン	英語コミュニケーション
				共通教育		宮本 祥子	英語コミュニケーション
				共通教育		ステイーブン・チャー	英語コミュニケーション
				共通教育		ヘルムリンガー・麻美	英語コミュニケーション
				共通教育		吉田 祐子	英語コミュニケーション
				共通教育		松吉 明子	英語コミュニケーション
				共通教育		ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション
				共通教育		中嶋 紀子	英語コミュニケーション
				共通教育		ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション
				共通教育	ショーン・ブルゴワーン	英語コミュニケーション	
				共通教育	李 賢珠	英語コミュニケーション	
				共通教育	野中 陽一朗	心理学	
				共通教育	福住 紀明	心理学	
				共通教育	谷地森 秀二	土佐の自然と暮らし	
				共通教育	前田 綾子	土佐の自然と暮らし	
				共通教育	有川 幹彦	基礎生物学	
				共通教育	宮本 隆信	健康スポーツ科学	
				共通教育	駒井 説夫	健康スポーツ科学	
				課程職	非常勤講師	鹿嶋 真弓	特別活動論
				課程職	非常勤講師	福石 賢一	教育課程論

	職名	氏名	担当科目		職名	氏名	担当科目
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	常風 興平	臨床薬理学	看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	濱田 暁	クリティカルケア診断治療学Ⅰ
		森田 靖代	臨床薬理学			盛實 篤史	クリティカルケア診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		吉岡 三郎	臨床薬理学			齋坂 雄一	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		柳林 信彦	看護教育論Ⅰ			竹内 慎哉	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		小寺 栄子	看護教育論Ⅱ			西村 裕之	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		Ngatu Nlandu Roger	疫学研究方法論			金澤 亜錦	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		尾形 裕也	保健医療政策と経済Ⅰ			佐々木 潔	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		岡谷 恵子	保健医療政策と経済Ⅱ、看護学の動向と展望			土本 啓嗣	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		鈴木 志津枝	看護学の動向と展望			所谷 知穂	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		勝原 裕美子	最新専門看護実践講座Ⅰ			中田 裕生	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		畠山 卓也	最新専門看護実践講座Ⅰ			西内 律雄	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		藤田 冬子	最新専門看護実践講座Ⅰ			宮澤 真理	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		亀井 智子	最新専門看護実践講座Ⅱ			永野 啓輔	老年病診断治療学Ⅰ
		宮野 伊知郎	最新専門看護実践講座Ⅱ			山田 光俊	老年病診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ
		中井 寿雄	最新専門看護実践講座Ⅱ			吉本 啓一郎	老年病診断治療学Ⅰ
		熊田 孝恒	学際的研究方法			谷村 正信	老年病診断治療学Ⅱ、在宅療養診断治療学Ⅱ
		武田 祐子	がん看護論			宮本 寛	老年病診断治療学Ⅱ、在宅療養診断治療学Ⅱ
		高山 良子	緩和ケア特論			戎 正司	精神診断治療学Ⅰ
		田代 真理	緩和ケア特論			岡田 俊	精神診断治療学Ⅰ
		島田 安博	がん診断治療学			須藤 康彦	精神診断治療学Ⅱ
		杉本 健樹	がん診断治療学、がん薬理学			中垣 真通	家族療法
		西岡 明人	がん診断治療学			田上 豊資	保健学研究
		根来 裕二	がん診断治療学			中山 洋子	理論看護学Ⅱ
		秦 康博	がん診断治療学			川口 孝泰	イノベーション看護学
		掛田 恭子	がん薬理学			大田 えりか	国際看護学
		北岡 智子	がん薬理学			室崎 益輝	災害社会福祉学
		宮村 充彦	がん薬理学			李 賢珠	professional writing
		池田 幸雄	慢性疾患診断治療学Ⅰ、家族看護対象論				
		浦田 知之	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ				
		高橋 美枝	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ、家族看護対象論			小島 優子	ジェンダー論
		岡本 宣人	慢性疾患診断治療学Ⅱ			鈴木 孝典	精神保健福祉論
		尾原 義和	慢性疾患診断治療学Ⅱ			三好 弥生	介護福祉論Ⅰ
		土山 芳徳	慢性疾患診断治療学Ⅱ				
明石 恵子	クリティカルケア看護論Ⅱ						

IV 教育及び研究

1 学部・大学院の概要(3つの方針)

【学部】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

(汎用的・実践的スキル)

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形

式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。
- (2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。
- (3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。
- (4) この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

(履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

(教育方法)

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕

2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学

ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部[文化総合系(夜間主コース)]が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜(A日程・B日程)

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 専門的知識、技術、科学的論理性及び倫理的判断に基づいて、保健・医療・福祉などのあらゆる場で看護を実践することのできる能力を有している。

(汎用的・実践的技能)

2. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重して、コミュニケーションを取りながら他者と関係性を築くことのできる能力を有している。
3. 地域の健康課題を予測し、リーダーシップを発揮して多職種と協働しながら健康課題を解決することのできる能力を有している。

(態度・志向性)

4. 看護専門職者としてのアイデンティティを培い、生涯にわたって専門性を高めることのできる能力を有している。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

5. 看護の質の向上に資する研究をすることができる基礎的な能力を有している。
6. 国際的及び学際的見地に立って看護学を理解することのできる能力を有している。
7. 看護の専門性を活かして、地域で生活する人々の健康と安全・安心な社会を創造することのできる基礎的な能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
- (4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。
- (2) 看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え、看護技術の修得を目指した科目を置く。
- (3) 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指す。

した科目を置く。

- (4) 総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)

- (1) 入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
- (2) 看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
- (3) 学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
- (4) 看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)

- (1) 本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2) 本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(小論文、面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行きつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだどこころの理解科目」を置いて

いる。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

(教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

(評価)

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的スキルを教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜(後期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

(汎用的・実践的技能)

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。
- (2) 専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
- (3) 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (4) 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。

- (5) 専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (6) 専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
- (7) この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)

- (1) 基礎科目は、1年次に履修する。
- (2) 専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
- (3) 専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
- (4) 専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
- (5) 「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)

- (1) 専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル(栄養教諭)」を提示し、履修指導を行う。
- (2) 「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)

各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。

したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【大 学 院】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人-家族-地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師(以下 CNS)コース、研究コース、及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目(大学院共通科目・専攻共通科目)」と「領域専門科目」の科目群をおく。
2. CNS コースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域に必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学の6領域を設け、各領域に必要な講義・演習・研究を含む専門科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域に必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭(看護)専修免許に必要な科目をおく。

(順序性)

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するために CNS コース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目を学修するように配置し、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を獲得する科目を配置する。

(教育方法)

7. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNS コース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
9. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第 14 条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

(評価方法)

10. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
11. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探究する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程の入学試験は、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の発展に寄与する基礎的能力と看護に対する専門職業人としての能力(看護に関する志向性を含む)について評価します。

専門科目: 基礎的理解力、科学的思考力、看護の専門的能力(専門的知識、基礎的実践能力)及び社会や健康に関わる課題に対する問題意識について評価します。

面接: 看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力について評価します。実践リーダーコースにおいては面接時に提出された研究計画書を活用します。

○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現や QOL の向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、がん看護学、成人看護学、小児看護学、精神看護学、家族看護学、地域看護学、在宅看護学、学校保健学、共創看護学、看護病態生理学、看護経営管理学等の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

(順序性)

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

(教育方法)

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論

文作成指導にあたる。

(評価方法)

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等(最終試験)を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と想像力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学試験は、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力(看護の志向性を含む)と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験: 看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書: 研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価します。

○看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士(看護学)とし、(DNGL: Disaster Nursing Global Leader)を付記した、学位を授与します。

- 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
- 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。

- グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄与する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「看護学の基盤に関する科目群」「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学に関する科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「災害看護学演習」「災害看護学実習」および「災害看護学に関する研究支援科目群」の6つの科目群によって構成する。
- 学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「災害看護学演習」および「災害看護学実習」の科目群に「インディペンデントスタディ」を科目として置く。
- 構成大学院(「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」)は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を行う。
- 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

- 災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
- 災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3(2021)年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

1. 共通ディプロマ・ポリシー

- 1) 専攻領域における研究遂行にとって必要とされる学術的知識を有している。
- 2) 専攻領域以外の領域にわたる幅広く深い学術的学識を有している。
- 3) 地域社会の特性を踏まえて追究すべき研究課題を発見することができる。
- 4) 地域社会をシステムとして捉えた研究を実践することができる。

- 5) 設定した研究課題を科学的視点で捉え、結論を導出することができる。
- 6) 研究を通じて得られた知見や技術を口頭または論文の形で共有化することができる。
- 7) 対象とする研究課題を自律的に遂行することができる。
- 8) 学問の体系化への貢献とあわせて実践的研究を志向し、得られた成果を地域社会に還元することができる。
- 9) 研究倫理についての的確に理解・遵守し学術研究活動を行うことができる。

2. 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

- 1) 生活・栄養の分野における専門的な知識を人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 地域における生活・栄養分野の課題を複雑系科学の視点で捉えるとともに、課題解決のための具体的方策を検証することができる。

(2) 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

- 1) 社会福祉の分野における専門的な知識と技術を人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 地域における福祉分野の課題を科学的視点で捉えるとともに、ミクロ・メゾあるいはマクロの観点から課題解決のための具体的な方策を検証することができる。

(3) 文化学領域 <修士(学術)>

- 1) 文化研究における専門的な知識と技術を、人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 設定した研究課題を人文科学的方法論または社会科学的方法論に則り検証することができる。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

1. 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目(大学院共通科目・人間生活学研究科科目)」「栄養・生活学領域科目」「社会福祉学領域科目」「文化学領域科目」「英語・領域教育コース科目」「栄養・領域教育コース科目」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。
2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎」「地域・国際福祉」「介護・高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。
5. 栄養・領域教育コース科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
6. 英語・領域教育コース科目に「英語・国際文化研究」の科目群をおく。

(順序性)

7. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」(必修)と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(選択必修)を履修させる。

(教育方法)

8. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
9. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価方法)

10. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
11. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

(2) 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

導会を実施する。

(3) 文化学領域 < 修士(学術) >

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学選抜の出願区分として「一般」「社会人」及び「外国人留学生」をおく。選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般(入試)

本区分は、大学を卒業した人及び当該年度に大学を卒業見込みの人などを受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

筆記試験: 小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験: 「研究計画書」に基づく発表と質疑応答をおこない、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。

地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために生かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎知識があるか、などである。

・社会人(入試)

本区分は、大学を卒業した人などで、企業、官公庁、教育機関、研究機関及びその他各種団体での在職経験を有するまたは社会活動経験のある人で、かつ、受験者や受験者の研究テーマに関して理解している個人が推薦する人を受験対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

・外国人(入試)

本区分は、大学を卒業した人などで、日本国籍及び日本における永住資格を有しない人で、かつ「日本語能力試験(N2又は2級)」に合格した人を出願対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

1. 共通ディプロマ・ポリシー

- 1) 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
- 2) 既存の知識や技術の応用に新たな視点を加え、知の創造に繋げることができる。
- 3) 人間生活に変革をもたらす政策開発ならびに意思決定への参画に繋がる研究を行うことができる。
- 4) 自己の研究を自立して展開していく態度と能力を有している。
- 5) 研究倫理に則り研究を完遂できる態度と能力を有している。

2. 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

- 1) 栄養・生活の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 栄養・生活の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3) 高等教育機関における教授者として次世代の栄養・生活の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

(2) 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

- 1) 社会福祉の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 社会福祉の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。
- 3) 高等教育機関における教授者として次世代の社会福祉の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

(3) 文化学領域 <博士(学術)>

- 1) 文化の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 文化の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。
- 3) 高等教育機関における教授者として次世代の文化の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

(評価方法)

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月におこない、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(2) 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(3) 文化学領域 < 博士(学術) >

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識、基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」をおこない、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験: 専攻する領域における外国語(英語)の読解力、設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価する。

領域専門: 社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、これまで行ってきた研究の独創性、資料の完成度、発表の態度、提出され

た研究計画書との整合性及び、質疑応答について評価する。

口述試験:研究計画についての発表と質疑応答をおこない、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書:研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

2 受講者の状況

【学部】

(1) 共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	303	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	15
英語コミュニケーション I B	215	情報処理概論	174
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	93
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	174
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	22	ビジネスリテラシー	24
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	14	日本語表現法	0
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	22		

○看護学部 看護学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	158	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	3
英語コミュニケーション I B	87	情報処理概論	35
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	13
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	74
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	2	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	1
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	3		

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	145	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	2
英語コミュニケーション I B	82	情報処理概論	1
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	27
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	78
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	3	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	2	日本語表現法	4
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	3		

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	78	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーション I B	52	情報処理概論	29
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	21
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	38
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	0
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	0		

教養基礎科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
科学と人間	19	法学	32
基礎化学	34	政治学	94
基礎生物学	205	経済学	115
物理と自然法則	1	倫理学	170
地球の科学	36	哲学	218
数学入門	6	文学	未開講
データサイエンス入門	40	基礎ジェンダー学	230
社会調査基礎論	未開講	心理学	260
日本国憲法	160		

課題別教養科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
生活と社会福祉	130	労働と人権	未開講
現代生活論	100	地域とグローバリゼーション	111
環境と健康と安全	32	家族関係論	211
自然災害と防災の科学	210	異文化理解海外フィールドワーク	18
平和論	44	人権教育論	67
現代人権論	60		
ジェンダーとキャリア	63		

健康・スポーツ科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	255	健康とヘルスプロモーション	85
健康スポーツ科学Ⅱ	257	栄養と健康	5
対人関係とメンタルヘルス	146		

域学共生科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
地域学概論	387	専門職連携論	27
土佐の歴史と文化	87	チーム形成論	63
土佐の経済とまちづくり	15	地域学実習Ⅰ	350
土佐の自然と暮らし	109	地域学実習Ⅱ	267
土佐の食と健康	233	域学共生実習	6

【学 部】

(2) 専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)

(単位:人)

授 業 科 目		受 講 者 数	授 業 科 目		受 講 者 数		
文化学部 共通科目	リテラシー 科目	基礎演習	166	国際文化 領域	異文化理解Ⅲ	5	
		中国語基礎Ⅰ	102		国際日本学	33	
		中国語基礎Ⅱ	101		比較日本学	4	
		ドイツ語基礎Ⅰ	22		国際関係論	37	
		ドイツ語基礎Ⅱ	25		国際開発論	34	
		フランス語基礎Ⅰ	25		国際文化専門演習Ⅰ	30	
		フランス語基礎Ⅱ	25		国際文化専門演習Ⅱ	28	
		日本語Ⅰ	未開講		日本語学 領域	日本語史	68
		日本語Ⅱ	1			日本語音声学・音韻論	82
		情報処理演習	179			日本語学講読	110
		文献調査論	82			日本語文章構成論	60
		基礎読書法	73			国語教育学講読Ⅰ	48
		エッセンシャル 科目	文化哲学			155	国語教育学講読Ⅱ
	文化人類学		151	日本語教育学概論		35	
	文化と権利		155	日本語教育教材論		11	
	文化と裁判		84	日本語学専門演習Ⅰ	30		
	公共哲学		147	日本語学専門演習Ⅱ	30		
	民俗学		143	日本文学 領域	基礎古典	53	
	文化と経済		148		日本文学史(古典)	34	
	日本文学概論		119		日本文学史(近代)	31	
	言語学概論		130		古典文学基礎講読Ⅰ	69	
	日本語学概論		101		古典文学基礎講読Ⅱ	23	
	グローバルスタディー(～2018)		1		古典文学講読Ⅰ	51	
	グローバル平和論		146		古典文学講読Ⅱ	41	
	社会調査論		62		近代文学講読	98	
	域学共生フィールドワーク		3		現代文学講読	56	
	文化学課題研究ゼミナールⅠ		140		中国文学史	49	
	文化学課題研究ゼミナールⅡ		139	中国文学講読(散文)	99		
	文化学課題研究ゼミナールⅢ	141	中国文学講読(韻文)	33			
	文化学課題研究ゼミナールⅣ	161	日本文学専門演習Ⅰ	31			
	形成 カリ ア 科目	キャリアデザイン論	182	日本文学専門演習Ⅱ	35		
		キャリア形成論	181	書道	24		
		企業実習	39	地域文化 領域	地域文化論	71	
文化学部 専門科目	英語学 領域	英語学概論	27		日本思想史	43	
		比較言語研究	19		日本文化論	85	
		対照言語学	14		土佐地域文化資源論(方言)(～2018)	3	
		言語教育実践論Ⅰ	8		地域文化資源論Ⅰ	70	
		言語教育実践論Ⅱ	7		地域文化資源論Ⅱ	80	
		英語文法論	74		文化政策論	114	
		英語ライティングⅠ	26		男女共同参画社会論	45	
		英語ライティングⅡ	13		地域防災論	139	
		英語音声学	28		住文化論	115	
		英語スピーキングⅠ	10		地域文化専門演習Ⅰ	20	
	英語スピーキングⅡ	14	地域文化専門演習Ⅱ	22			
	英語学専門演習Ⅰ	25	地域づくり 領域	地域づくり論	87		
	英語学専門演習Ⅱ	29		地域産業論	143		
	英文化・文学史	52		地域分析論	92		
	英文化・文学論	48		地方自治論	55		
	米文化・文学史	33		NPO論	97		
	米文化・文学論	58		地域づくりフィールドスタディ	54		
	異文化理解Ⅰ	85		地域づくり専門演習Ⅰ	19		
	異文化理解Ⅱ	37		地域づくり専門演習Ⅱ	25		

(その2)

(単位:人)

		授業科目		受講者数			授業科目		受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	121	文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	86
			観光文化論Ⅱ	73				文化と統治システム	79
			景観文化論	121				社会秩序と法	45
			観光と自然環境	128				犯罪と法	116
			観光文化フィールドスタディⅠ	15				情報化社会と法文化	102
			観光文化フィールドスタディⅡ	17				地域社会と法文化	63
			観光フィールド専門演習Ⅰ	36				現代法文化専門演習Ⅰ	8
			観光フィールド専門演習Ⅱ	21				現代法文化専門演習Ⅱ	10
		観光まちづくり領域	観光学総論	124			生活法文化領域	生活と法文化	62
			観光まちづくり論Ⅰ	51				災害と法	120
	観光まちづくり論Ⅱ		未開講	ワーク・ライフ・バランスと法	16				
	観光産業論(～2018)		5	労働契約と法文化	42				
	観光産業論Ⅰ		120	社会保障と法文化	84				
	観光産業論Ⅱ		10	家族関係と法文化	45				
	観光企画論		67	生活法文化専門演習Ⅰ	6				
	観光まちづくりフィールドスタディⅠ		17	生活法文化専門演習Ⅱ	10				
	観光まちづくりフィールドスタディⅡ		38						
	観光産業専門演習(～2018)		1						
	観光まちづくり専門演習Ⅰ	37							
	観光まちづくり専門演習Ⅱ	22							

○看護学部 看護学科

(その1)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
専門 基礎 科目	医学の世界	83	看護 基礎 科目	看護 援助 学	症状と看護	85
	生化学	83			看護援助の動向と課題	未開講
	栄養学	83			ふれあい看護実習	83
	薬理学	未開講			看護基盤実習	81
	微生物学	83			看護実践能力開発実習 I	未開講
	人体の構造 I	83		看護 管理 学	看護システム論	84
	人体の構造 II	84			看護サービス論	80
	人体の機能 I	83			看護教育論	未開講
	人体の機能 II	86			看護管理の動向と課題	未開講
	人体のしくみの乱れ I	83			チーム医療実習	78
	人体のしくみの乱れ II	84	看護管理実習	80		
	心のしくみ	83	看 急 護 性 学 期	急性期看護論	84	
	診断学	88		急性期看護援助論	79	
	治療学総論	84		回復期看護援助論	84	
	病態と治療 I	84		急性期看護の動向と課題	未開講	
	病態と治療 II	85		急性期看護実習	78	
	病態と治療 III	未開講	看 慢 性 学 期	慢性期看護論	85	
	母性学(～2021)	84		慢性期看護援助論	79	
	小児と疾患	79		終末期看護援助論	79	
	公衆衛生学	86		慢性期看護の動向と課題	未開講	
	健康管理論	79		慢性期看護実習	78	
	保健統計学	84	看 護 学 老 人	老人看護学総論	未開講	
	疫学	79		老人の健康と看護	85	
	地域保健政策	80		老人看護援助論	84	
	生命の科学と倫理	58		老人看護の動向と課題	8	
	医療史	6	看 護 臨 床 科 目	精 神 看 護 学	精神看護学総論	84
	社会保障と看護	未開講			精神の健康と看護	84
	心理学と心理的支援	43			精神看護援助論	79
行動科学	12	精神看護の動向と課題			1	
保健行動論	13	精神看護実習			79	
人間工学	27	小 児 看 護 学	小児看護学総論	85		
在宅医療	6		小児の健康と看護	79		
医療と経営	16		小児看護援助論	79		
助産学	15		小児看護の動向と課題	3		
助産診断論	15		小児看護実習	79		
看 護 基 礎 科 目	基 礎 看 護 学	看護学総論	83	母 性 看 護 学	母性看護学総論	84
		人間と看護	83		母性看護対象論	84
		健康と看護	83		母性の健康と看護	未開講
		環境と看護	83		母性看護援助論	79
		看護研究方法論	79		母性看護の動向と課題	未開講
	看護哲学と倫理	80	母性看護実習	78		
	看 護 援 助 学	生活と看護	83	助 産 看 護 学	助産看護学総論	8
		生活援助論Ⅲ(～2021)	85		助産看護診断論	8
		生活援助論	83		助産技術論 I	8
		看護過程論	84		助産技術論 II	8
		援助関係論	83		助産看護援助論	8
		フィジカルアセスメント	83		助産看護管理論	8
		治療援助論 I(～2021)	84		助産看護の動向と課題	8
		治療援助論 II(～2021)	86		助産看護実習 I	8
	治療援助論	未開講	助産看護実習 II	8		

(その2)

(単位:人)

		授業科目		授業科目		
		受講者数		受講者数		
看護 臨床 科目	在宅 看護学	在宅看護学総論	82	総合 科目	グローバル社会と看護Ⅰ	83
		在宅看護対象論	79		グローバル社会と看護Ⅱ	3
		在宅看護援助論	80		異文化理解看護フィールドワーク	5
		在宅看護リエゾン論	未開講		看護地域フィールドワーク	61
		在宅看護の動向と課題	3		看護学の動向と課題	8
		在宅看護実習	80		看護セミナーⅠ	83
		地域看護学総論	84		看護セミナーⅡ	5
	地域 看護学	地域の健康と看護	79		看護セミナーⅢ	1
		地域看護援助論	79		看護セミナーⅣ	79
		地域看護の動向と課題	未開講		看護セミナーⅤ	79
保 学 健 校	学校保健	17	臨床看護論Ⅰ(人間の自立とQOL)	8		
	養護概説	17	臨床看護論Ⅱ(家族と健康)	12		
総合 科目	看護研究	80	臨床看護論Ⅲ(子どもの発達と健康)	38		
	看護と政策	80	臨床看護論Ⅳ(慢性の病と生活)	3		
	がん看護論	79	臨床看護論Ⅴ(健康と病気の探究)	4		
	総合看護実習	80	臨床看護論Ⅵ(看護と倫理的課題)	21		
	総合看護実習Ⅰ	未開講	精神看護実践論	2		
	総合看護実習Ⅱ	未開講	小児看護実践論	7		
	家族看護実習	未開講	老人看護実践論	7		
	看護実践能力開発実習	80	看護実践論Ⅰ	未開講		
	看護実践能力開発実習Ⅱ	未開講	看護実践論Ⅱ	未開講		
	バイオロジカルナーシング	12	看護実践論Ⅲ	未開講		
	治療と看護	未開講	看護実践論Ⅳ	未開講		
	災害と看護	58	医学と看護の統合	80		
	災害看護実践論	5	最新実践看護講座Ⅰ	4		
			最新実践看護講座Ⅱ	3		

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
基本科目	福祉対象入門	75	ソーシャルワーク実践科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	72	
	福祉援助入門	76		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	未開講	
	社会福祉入門演習	75		相談援助実習(～2020)	74	
	社会福祉基礎演習	75		ソーシャルワーク実習Ⅰ	34	
	心理学と心理的支援	77		ソーシャルワーク実習Ⅱ	未開講	
	社会学と社会システム	77		ソーシャルワーク実習Ⅲ	未開講	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	75		事例研究法	18	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	76		実践記録法	18	
	社会福祉史	70		チームアプローチ	6	
	介護技術	16		スーパービジョン	5	
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	75	地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	72	
	社会保障論Ⅱ	75		地域福祉論Ⅱ	73	
	公的扶助論	73		地域福祉活動	4	
	障害者福祉論	72		国際福祉論	75	
	児童・家庭福祉論	71		コミュニティソーシャルワーク	39	
	高齢者福祉論Ⅰ	75		福祉NPO論	47	
	高齢者福祉論Ⅱ	73		子育て支援論	8	
	精神保健福祉論Ⅱ(～2020)	23	虐待防止論	57		
	精神保健福祉の原理	12	社会支援科目	ケアマネジメント論	50	
	精神保健福祉制度論	未開講		ケアマネジメント演習	37	
	福祉行財政と福祉計画(～2020)	79		ケアプラン策定法	5	
	福祉サービスの組織と経営	81		就労支援サービス(～2020)	64	
	権利擁護論	67		精神科リハビリテーション学(～2020)	35	
	更生保護制度	66		精神障害リハビリテーション論	未開講	
保健医療サービス	72	精神保健福祉実践科目		精神保健福祉援助演習(～2020)	17	
女性福祉論	38		精神保健福祉援助演習Ⅰ	未開講		
医療福祉論	55		精神保健福祉援助演習Ⅱ	未開講		
からだとこころの理解科目	医学概論		81	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	22	
	精神医学Ⅰ		24	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	17	
	精神医学Ⅱ		24	精神保健福祉援助実習Ⅰ	17	
	精神保健学Ⅰ	31	精神保健福祉援助実習Ⅱ	17		
	精神保健学Ⅱ	26	介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	12	
	発達と老化の理解Ⅰ	22		介護の基本Ⅱ	21	
	発達と老化の理解Ⅱ	18		介護の基本Ⅲ	18	
	認知症の理解Ⅰ	25		コミュニケーション技術	11	
	認知症の理解Ⅱ	21		生活支援技術Ⅰ	12	
	障害の理解Ⅰ	19		生活支援技術Ⅱ	11	
	障害の理解Ⅱ	21		生活支援技術Ⅲ	21	
	こころとからだのしくみⅠ	12		生活支援技術Ⅳ	21	
	こころとからだのしくみⅡ	11		生活支援技術Ⅴ	18	
	ソーシャルワーク基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		77	介護福祉実践科目	介護過程Ⅰ
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		77	介護過程Ⅱ	21		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		72	介護過程Ⅲ	21		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		72	介護過程Ⅳ	18		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		72	介護福祉理解科目	介護総合演習Ⅰ		11
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		未開講		介護総合演習Ⅱ		21
ソーシャルワークの理論と方法(精神)		未開講		介護総合演習Ⅲ		18
相談援助の理論と方法Ⅳ(～2020)		80		介護総合演習Ⅳ		15
精神保健福祉援助技術総論(～2020)		1		介護実習Ⅰ		11
精神保健福祉援助技術各論(～2020)		23		介護実習Ⅱ		21
面接技法		58		介護実習Ⅲ	18	
医療ソーシャルワーク論		55		医療的ケアⅠ	18	
ソーシャルワーク実践科目		相談援助演習Ⅲ(～2020)		78	医療的ケアⅡ	15
		相談援助演習Ⅳ(～2020)		74	総合科目	福祉研究法入門
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	72	社会調査の基礎(～2020)	80		
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	72	社会福祉調査の基礎	未開講		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	未開講	社会福祉専門演習Ⅰ	79		
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	未開講	社会福祉専門演習Ⅱ	79		
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	未開講	社会福祉専門演習Ⅲ	70		
	相談援助実習指導Ⅲ(～2020)	74	社会福祉専門演習Ⅳ	70		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	72				

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
科基礎	健康栄養学基礎	42	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	44
	健康栄養学応用	45		栄養教育論Ⅱ	39
社会・環境と健康	地域健康論	39		栄養教育論Ⅲ	39
	介護論	39		栄養教育論実習Ⅰ	39
	食と介護	39		栄養教育論実習Ⅱ	39
	保健医療福祉論	39		学校栄養指導論Ⅰ	15
	地域医療論	9		学校栄養指導論Ⅱ	15
	公衆衛生学	39	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	44
	環境衛生学実習	39		臨床栄養学Ⅱ	39
健康情報論実習	42	臨床栄養学Ⅲ		39	
人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	42		臨床実践栄養学	39
	生化学Ⅱ	43		臨床栄養学実習Ⅰ	39
	生化学実験	44	臨床栄養学実習Ⅱ	39	
	人体の構造と機能Ⅰ	42	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	48
	人体の構造と機能Ⅱ	43		公衆栄養学Ⅱ	39
	臨床医科学	10		地域公衆栄養学実習	39
	疾病論Ⅰ	44	給食経営管理論	給食経営管理論	44
	疾病論Ⅱ	44		給食計画論	43
	運動生理学	44		給食経営管理実習Ⅰ	39
生体科学実験・実習	44	給食経営管理実習Ⅱ		39	
食べ物と健康	食品学	42	演習総合	管理栄養士総合演習Ⅰ	39
	食品学実験Ⅰ	42		管理栄養士総合演習Ⅱ	41
	食品学実験Ⅱ	44	臨地実習	給食経営管理臨地実習	39
	食材学	42		臨床栄養学臨地実習Ⅰ	39
	食品の栄養素と機能	43		臨床栄養学臨地実習Ⅱ	39
	食品衛生学	44		地域公衆栄養学臨地実習	39
	食品衛生学実験	44		地域実践栄養学臨地実習	未開講
	フードシステム学	1	他の	企業実習	未開講
	調理学	42		健康栄養フィールドワーク	44
	調理学実習Ⅰ	42	研課題	卒業研究	41
	調理学実習Ⅱ	44			
	調理学実習Ⅲ	13			
	調理科学実験	9			
	栄養基礎	基礎栄養学	43		
基礎栄養学実験		44			
栄養学応用	応用栄養学Ⅰ	44			
	応用栄養学Ⅱ	44			
	応用栄養学実習	44			
	ライフステージ栄養学	44			

【学 部】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授 業 科 目		受講者数	授 業 科 目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	45	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	15
	教育基礎理論	27		教育実習Ⅱ	15
	教師論	80		養護実習	13
	教育社会学	64		学校栄養教育実習	4
	発達心理学	44		教職実践演習(中・高)	16
	教育心理学	54		教職実践演習(養護)	13
	特別支援教育概論	69		教職実践演習(栄養)	4
	教育課程論	66		国語科教育法Ⅰ	14
	道德教育論	69		国語科教育法Ⅱ	14
	特別活動論	46		国語科教育法Ⅲ	10
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	61		国語科教育法Ⅳ	11
	情報通信技術を活用した教育の理論と方法	未開講		英語科教育法Ⅰ	10
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	65		英語科教育法Ⅱ	10
教育相談及びキャリア教育の理論と方法	75	英語科教育法Ⅲ	5		
		英語科教育法Ⅳ	5		

(その2)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数		
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	1	地域看護学領域	地域看護論	0	
		老人看護対象論	0		地域ケアシステム論	0	
		老人看護方法論	0		地域看護展開論	0	
		老人ケアシステム論	0		地域看護課題研究	0	
		老人看護展開論Ⅰ	0		地域フィールド演習Ⅰ	0	
		老人看護展開論Ⅱ	0		地域フィールド演習Ⅱ	0	
		老年病診断治療学Ⅰ	1		地域看護学研究方法Ⅰ	0	
		老年病診断治療学Ⅱ	未開講		地域看護学研究方法Ⅱ	0	
		老人看護課題研究	1		災害・国際看護学領域	災害看護論	2
		老人看護学実践演習Ⅰ	0			グローバル社会看護論	2
		老人看護学実践演習Ⅱ	0			災害・国際看護方法論	2
		老人看護学実践演習Ⅲ	1			感染症看護セミナー	1
		老人看護学実践演習Ⅳ	1			環境衛生看護セミナー	0
		老人看護学実践演習Ⅴ	1			共生社会看護セミナー	0
		精神看護学領域	精神看護論			1	人道支援看護セミナー
	精神看護対象論		1			災害看護管理セミナー	4
	精神看護方法論Ⅰ		1			災害看護活動論(準備期)	10
	精神看護方法論Ⅱ		3			環境防災学	5
	精神看護展開論Ⅰ		0	災害・国際看護学研究方法Ⅰ		2	
	精神看護展開論Ⅱ		0	災害・国際看護学研究方法Ⅱ		4	
	精神看護展開論Ⅲ		1	看護管理学領域	看護管理論	2	
	精神看護展開論Ⅳ		2		システム経営管理論	1	
	精神診断治療学Ⅰ		未開講		看護管理展開論	1	
	精神診断治療学Ⅱ		4		看護管理の動向と展望	1	
	精神看護課題研究		3		看護管理課題研究	0	
	精神看護学実践演習Ⅰ		1		看護管理学実践演習Ⅰ	0	
	精神看護学実践演習Ⅱ		1		看護管理学実践演習Ⅱ	0	
	精神看護学実践演習Ⅲ		3		看護管理学実践演習Ⅲ	0	
	精神看護学実践演習Ⅳ		3		看護管理学研究方法Ⅰ	1	
	精神看護学実践演習Ⅴ	3	看護管理学研究方法Ⅱ		0		
	家族看護学領域	家族看護論	0	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1	
		家族看護対象論	0		老人看護ケア研究	0	
		家族看護方法論Ⅰ	9		がん看護ケア研究	0	
		家族看護方法論Ⅱ	5		小児看護ケア研究	1	
		家族看護実践論Ⅰ	1		慢性看護ケア研究	0	
		家族看護実践論Ⅱ	0		クリティカルケア研究	3	
		家族療法	6		臨床看護管理研究	2	
		家族ケアの開発	1		臨床看護教育研究	2	
		家族看護課題研究	1		母性・助産看護ケア研究	0	
		家族看護学実践演習Ⅰ	0		臨床看護学専門演習	2	
		家族看護学実践演習Ⅱ	0		臨床看護学研究方法Ⅰ	2	
		家族看護学実践演習Ⅲ	1		臨床看護学研究方法Ⅱ	2	
		家族看護学実践演習Ⅳ	1	地域保健学領域	地域ケア研究	0	
		家族看護学実践演習Ⅴ	1		学校保健研究	1	
		家族看護学研究方法Ⅰ	0		家族ケア研究	4	
家族看護学研究方法Ⅱ	0	在宅ケア研究	2				
在宅看護学領域	在宅看護論	1	保健学研究		0		
	在宅看護方法論Ⅰ	1	災害・国際看護ケア研究		2		
	在宅看護方法論Ⅱ	3	地域保健学専門演習	2			
	在宅看護方法論Ⅲ	0	地域保健学研究方法Ⅰ	4			
	在宅ケアシステム論	0	地域保健学研究方法Ⅱ	4			
	在宅看護展開論Ⅰ	1					
	在宅看護展開論Ⅱ	1					
	在宅療養診断治療学Ⅰ	1					
	在宅療養診断治療学Ⅱ	未開講					
	在宅リエゾン看護論	5					
	在宅リエゾン看護演習	0					
	在宅看護課題研究	0					
	在宅看護学実践演習Ⅰ	1					
	在宅看護学実践演習Ⅱ	1					
	在宅看護学実践演習Ⅲ	0					
在宅看護学実践演習Ⅳ	0						
在宅看護学実践演習Ⅴ	0						

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	7	専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	理論看護学Ⅱ	7		精神看護学Ⅱ	1
	看護学研究方法Ⅰ	7		家族看護学Ⅰ	0
	看護学研究方法Ⅱ	7		家族看護学Ⅱ	0
	看護倫理学	7		在宅看護学Ⅰ	0
	イノベーション看護学	5		在宅看護学Ⅱ	0
	国際看護学	7		地域看護学Ⅰ	0
	医学研究方法論	1		地域看護学Ⅱ	0
	インディペンデントスタディ	0		学校保健学Ⅰ	0
	プロフェッショナルライティング	2		学校保健学Ⅱ	0
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	1	科 支 研 目 究 援	災害・国際看護学Ⅰ	0
	共創看護学Ⅱ	0		災害・国際看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	3		看護病態生理学Ⅰ	1
	がん看護学Ⅱ	1		看護病態生理学Ⅱ	0
	成人看護学Ⅰ	1		看護経営管理学Ⅰ	1
	成人看護学Ⅱ	0		看護経営管理学Ⅱ	0
	小児看護学Ⅰ	3		看護学特別研究Ⅰ	12
	小児看護学Ⅱ	0		看護学特別研究Ⅱ	10
	老人看護学Ⅰ	0		看護学特別研究Ⅲ	0
	老人看護学Ⅱ	0			

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講	イン デ イ ペ ン デ ン ト 学 修	災害看護ゼミナールA	0	
	理論看護学	未開講		災害看護ゼミナールB	0	
	危機管理論	0		災害看護ゼミナールC	0	
	環境防災学Ⅰ	0		災害看護ゼミナールD	0	
	環境防災学Ⅱ	未開講		災害看護ゼミナールE	0	
	グローバルヘルス	未開講		インディペンデントスタディⅠ	0	
	災害法制度と政策論	0		インディペンデントスタディⅡ	0	
	専門職連携実践論	0		インディペンデントスタディⅢ	0	
	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	未開講		インディペンデントスタディⅣ	0	
	災害医療学	0		インディペンデントスタディⅤ	0	
	災害心理学	0	科 目 群 研 究 支 援 災 害 看 護	災害看護研究ゼミナール	未開講	
	災害と文化	未開講		実践課題研究	0	
	災害社会福祉学	0		災害看護研究デベロップメント	2(1)	
	Professional writing	未開講		博士論文	8(1)	
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	0				
	Program writing (Program Proposal writing skill)	0				
	災害看護学の専門科目群	災害看護学総論		未開講		
		災害看護活動論Ⅰ(急性期)		未開講		
		災害看護活動論Ⅱ(亜急性期)		未開講		
災害看護活動論Ⅲ(復旧・復興)		未開講				
災害看護活動論Ⅳ(備え)		未開講				
災害看護グローバルコーディネーション論		0				
災害看護リーダーシップ・管理論		0				
災害看護倫理		0				
災害看護理論構築	0					
インターンシップⅠ	2(1)					
インターンシップⅡ	1(1)					

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

(単位:人)

		授業科目		受講者数			授業科目		受講者数	
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理		4	文化学領域科目	日本文化	日本文化論Ⅰ		2	
		教育学特論		未開講			日本文化論Ⅱ		未開講	
		教育心理学特論		4			日本語文化論		2	
		ジェンダー論		未開講			文学Ⅰ		3	
		臨床倫理		1			文学Ⅱ		未開講	
		グローバルヘルス論		1			文学Ⅲ		未開講	
		ケア論		0		英語文化	英語文化論Ⅰ		3	
		看護マネジメント論		0			英語文化論Ⅱ		0	
	人間生活学研究科	研究方法論Ⅰ		3			英語文化論Ⅲ		0	
		研究方法論Ⅱ		5			英語言語文化論特論Ⅰ		0	
		研究方法論Ⅲ		4			英語言語文化論特論Ⅱ		0	
		データ解析論		3			国際日本学		0	
		環境解析論		未開講		英語・領域教育コース科目	英語・国際文化研究	英語学特論Ⅰ		未開講
		地域スポーツ論		未開講				英語学特論Ⅱ		未開講
健康リハビリテーション論		5	英語教育学特論Ⅰ		未開講					
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論		3	英語教育学特論Ⅱ				未開講	
		食品製造学特論		未開講	英語圏文学特論Ⅰ				未開講	
		食物科学論		3	英語圏文学特論Ⅱ				未開講	
		食物科学実践演習		未開講	英語圏文化特論Ⅰ				未開講	
人間栄養学	栄養学特論		未開講	英語圏文化特論Ⅱ				未開講		
	臨床栄養学特論		1	異文化理解特論				未開講		
	健康動態論		未開講	英語言語文化論特論Ⅰ				未開講		
	栄養疫学論		1	英語言語文化論特論Ⅱ				未開講		
生活学・栄養学	栄養・生活特論Ⅰ		2	英語教育実践研究Ⅰ				未開講		
	栄養・生活特論Ⅱ		1	英語教育実践研究Ⅱ				未開講		
	栄養・生活統計論		未開講	栄養・領域教育コース科目	食物科学			食品生化学特論		3
	環境生態論		2			食品製造学特論		未開講		
社会福祉学領域科目	福祉基礎	社会福祉原論				6	食物科学論		3	
		福祉リハビリテーション論				未開講	食物科学実践演習		未開講	
		ソーシャルワーク論				未開講	人間栄養学	栄養学特論		未開講
		社会保障論				4		臨床栄養学特論		1
		福祉行財政論			未開講	食生活論Ⅰ			未開講	
	地域・国際福祉	地域福祉論Ⅰ			5	食生活論Ⅱ			未開講	
		地域福祉論Ⅱ			未開講	食生活論演習			未開講	
		国際福祉論Ⅰ			5	健康動態論		未開講		
		国際福祉論Ⅱ			未開講	栄養疫学論		1		
		高齢者・福祉	介護福祉論Ⅰ			4	生活学・栄養学	栄養・生活特論Ⅰ		2
介護福祉論Ⅱ			未開講		栄養・生活特論Ⅱ			1		
高齢者福祉論			4		栄養・生活統計論			未開講		
障害者福祉	障害者福祉論		未開講	環境生態論		2				
	精神保健福祉論		1	科指研 目導究	栄養・生活学課題研究演習			1		
	精神科ソーシャルワーク論		未開講		社会福祉学課題研究演習		6			
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉論Ⅰ		6		文化学課題研究演習		1			
	児童・家庭福祉論Ⅱ		未開講	/						
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ							未開講	
		地域文化論Ⅱ							2	
		地域文化論Ⅲ							未開講	
		観光文化論Ⅰ							3	
		観光文化論Ⅱ							3	
		観光文化論Ⅲ							未開講	

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
科共 目通	研究デザイン	2	専門 科目	領域 科目 文化学	地域文化学Ⅰ	0
	研究倫理	未開講			地域文化学Ⅱ	0
専門 科目	栄養・生活学 領域科目	地球環境解析学	0	研究 指導 科目	言語文化学Ⅰ	0
		環境生態学	0		言語文化学Ⅱ	0
		人間栄養学	0		栄養・生活学特別研究Ⅰ	2
		食品機能学	0		栄養・生活学特別研究Ⅱ	3
		健康動態学	1		栄養・生活学特別研究Ⅲ	0
		介護福祉学	0		社会福祉学特別研究Ⅰ	0
	社会福祉学 領域科目	障害者福祉学	0		社会福祉学特別研究Ⅱ	2
		児童・家族福祉学	0		社会福祉学特別研究Ⅲ	3
		地域ソーシャルワーク学	0		文化学特別研究Ⅰ	0
		国際福祉政策学	0		文化学特別研究Ⅱ	0
		福祉リハビリテーション学	0		文化学特別研究Ⅲ	0

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの

3 科目等履修生・特別聴講学生の状況

(1) 科目等履修生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
近代文学講読	1		
国語科教育法Ⅱ	1		
地域文化資源論Ⅰ	1		

(2) 特別聴講学生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
災害看護活動論(準備期)	2		
環境防災学	2		

4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

(1) 教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	20	14	15
		中一種免(英語)	9	9	5
		高一種免(英語)	9	9	5
		中一種免(国語)	11	5	10
		高一種免(国語)	11	5	10
	教員就職者数		13	7	7
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	11	9	13
		一種免(養護)	11	9	13
	教員就職者数		7	5	6
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	10	9	4
		一種免(栄養)	10	9	4
	教員就職者数		2	3	0
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免(看護)	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	0	1	0
		中専修免(英語)	0	1	0
		高専修免(英語)	0	1	0
		栄教専修免	0	0	0
合 計	免許状取得者数(実人数)		42	34	33
	教員就職者数		22	15	13

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

(2) 国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受 験 日	区 分	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率
看 護 師	令和5年2月12日	新 卒	80	80	100.0%
		既 卒	0	0	
保 健 師	令和5年2月10日	新 卒	72	70	97.2%
		既 卒	1	0	0.0%
助 産 師	令和5年2月9日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	0	0	
社会福祉士	令和5年2月5日	新 卒	62	54	87.1%
		既 卒	27	13	48.1%
精神保健福祉士	令和5年2月4日 令和5年2月5日	新 卒	17	16	94.1%
		既 卒	1	1	100.0%
介護福祉士	令和5年1月29日	新 卒	14	14	100.0%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和5年2月26日	新 卒	40	37	92.5%
		既 卒	1	1	100.0%

(3) 専門看護師・認定看護管理者合格状況

(単位:人)

専門看護分野名	合格者数
がん看護	1
急性・重症患者看護	2
小児看護	2
精神看護	1
家族看護	3
在宅看護	1
老人看護	2
認定看護管理者	1

5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

(1) 学位等授与状況

○博士

(単位:人)

研究科名	博士	
	令和4年度	累計
看護学研究科(博士後期課程)	1	38
看護学研究科(博士課程)	0	7
人間生活学研究科(博士後期課程)	2	13
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合計	3	108

○修士

(単位:人)

研究科名	修士	
	令和4年度	累計
看護学研究科(博士前期課程)	21	329
人間生活学研究科(博士前期課程)	6	194
合計	27	523

【学位授与者一覧】

○博士

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和 5年 3月20日	博士(看護学)	小澤 若菜	心不全患者の重症化に関連している要因の探求
令和 5年 3月20日	博士(社会福祉学)	笹村 聡	地域ケア会議における作業療法士の連携コンピテンシー
令和 5年 3月20日	博士(社会福祉学)	恒吉 眞希	障害者施設利用者との相互関係に着目した介護職員の「演じる行為」

○修士

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	田中 陽子	壮年期がん患者と配偶者が行う子どもとの情報共有に関する決断
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	稲田 佳奈	災害時医療における看護師の意思決定と影響要因
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	乾 由美	医療処置が必要な高齢者への訪問看護師による在宅移行支援
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	今中 与主安	療養型病院に入院中の高齢者におけるImpaired Skin Integrity

○修 士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	岩本 幸大	表情解析ソフトウェアで推定するインフォームド・コンセントにおける情報の理解度
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	岩本 佐苗	退院支援における病棟看護師の役割認知
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	梅原 朋美	女性技能実習生の妊娠に関する情報 ～セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から～
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	大西 由華	日常ケア場面におけるICU看護師の葛藤
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	加藤 晶子	家族を介護する男性介護者の社会的ネットワーク
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	川谷 美智子	急性期病院で認知症高齢者のケアをする看護師の葛藤
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	小越 美紀	訪問看護師による医療的ケア児を育児する母親の自己効力感を高めるケア
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	後藤 麻友	境界性パーソナリティ障害の看護において精神科病棟看護チームが発揮するチームレジリエンス
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	佐野 みずほ	目標管理における看護スタッフの主体性とその影響要因
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	竹崎 陽子	壮年期成人における重症化した糖尿病足病変の症状体験
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	西山 由加	看護チームの心理的安全性に影響を及ぼす看護師長のリーダーシップ行動
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	藤ノ井 鴻介	長期入院経験のある統合失調症をもつ人に対して精神科訪問看護師が行う臨床判断
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	町田 友里	精神障害者の被災後の生活環境の変化によるストレス
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	Mutiara Syagitta	Nurses' Workload During Coronavirus Disease (COVID-19) Outbreak in Bandung, West Java, Indonesia
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	横關 紗衣	保健室登校をしている学童期の子ども们的ストレンスを高める養護教諭の支援
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	吉岡 あゆみ	認知症治療病棟に入院した高齢者のリロケーションにおける看護ケア
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	依岡 美里	看護師の専門的コミュニケーションスキルとしての沈黙
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	中村 俊介	脳卒中者の感覚障害と他者との会話 ―当事者研究―
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	上杉 麻理	特別養護老人ホームに勤務する生活相談員の介護経験の活用 ―ショートステイ業務における在宅支援を通して―

○修 士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 5年 3月20日	修士(生活科学)	Tian Ganlin	野菜由来成分の抗アレルギー作用
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	山本 芹楽良	スクールソーシャルワークにおける学校アセスメントの意義と課題 — 中学校での不登校支援に向けて—
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	Luo Xiwen	不登校問題とレジリエンスの関係性 — 心理的变化を引き起こす社会資源の活用—
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	和田 万洋	認知症高齢者に対する介護職員の意図的な関わり方 — おむつ交換時の介護職員の意識と抵抗された際の対応—

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)	部 局 内 訳
令和5年3月20日	地域共生推進士	27	文化学部13名、看護学部9名、社会福祉学部5名

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
令和5年3月20日	日本語教員	7

(4)履修証明書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
-	履修証明書	-

※令和4年度は開講せず

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より高い目標、そして向上心と責任感をもって学業に取り組むとともに、周囲の人々と協働関係を築き物事を成し遂げ、特に優秀な成績を修めた。
看護学研究科	人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士後期課程	5	1	入学時より一貫して高い目標を持って学業に取り組み、仕事や家庭の傍ら、研究に対しても真摯な態度により成果を上げ、優秀な成績を修めた。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	内田 実里 川原 千怜 松田 萌日	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生。
		3	石川 桃帆 芝 杏奈 西尾 帆乃夏	
		2	空岡 真理奈 松田 鈴 千頭 紗綾	
看護学部	看護学科	4	多田 帆乃夏 中塔 乙紀	
		3	繁田 佳奈 三原 千廣	
		2	秋山 優香 遠藤 菜央	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	大熨 真 名賀石 真衣	
		3	小笠原 杏樹 東谷 柚香	
		2	植田 愛唯 森岡 ふみ	

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
健康栄養学部	健康栄養学科	4	伊藤 志音里	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生。
		3	橋本 紗希	
		2	宇野 奈津子	

【学長賞】

団体名(人数)	功績	学部	氏名
活輝創生実行委員会	活輝創生実行委員会の代表として、コロナ禍において思うような活動ができない中、メンバーが学内で活動を続けられるよう、定期的に全体会を開催し、活動再開に向けた準備を進め、加えて、主たる活動場所である集落活動センター「たいこ岩」との連絡調整役としてコミュニケーションをとり続けた。その結果、感染が下火になった時には速やかに活動を再開させ、コロナ禍にあっても、先輩たちから引き継いできた「ゼッター現場主義」を守り、後輩たちにつなぐことができた。	文化学部	長野 優来
いけいけサロン活動 (12名)	コロナ禍の影響を受けながらも、『いけいけサロン活動』として池地域の町内会活動に貢献した。特にコロナ禍の活動においては、住民と学生が安全かつ楽しめる方法を模索し、当初想定していたオンラインではなく、定期的なチラシの配布と住民・学生双方の日常を綴る交換日記のやりとりという新たな交流方法を見出すなど、活動継続だけでなく、今後の活動活動の発展を支えるものとなった。加えて、活動を継続するため、コロナ禍に加入したメンバーに対し、自分たちの経験から得たものを伝え、本団体の活動を継続するため、親身になって支えた。	看護学部	池田 侑香 井上 実優 白井 萌愛 杉本 早那 高坂 菜未 銅木 暖々美 長谷川 佳南 花澤 ひとみ 堀 春海 望月 まなみ 森田 菜月 矢野 花恋
グローバルクラブ (4名)	コロナ禍の影響を受けながらも、グローバルクラブとして高知県で暮らす外国人の課題解決や国際交流を続けた。本学生たちが2回生の時には、コロナウイルス感染症拡大により、問題解決のための行動を行うまでには至らなかったが、高知県国際交流協会を通じて情報収集を実施。また、3回生時には、高知県国際交流協会を通じて在留外国人のゴミの分別の課題を把握、その課題に対し、彼らの祖国の文化や背景を学びながら共に考えていくためのワークショップを高知大学学生と共同で開催した。	看護学部	尾崎 百桃 見田 美月 曾木 杏香 藤本 涼

団体名(人数)	功績	学部	氏名
健援隊 (19名)	直接地域に出向く活動が制限される中、地域とのつながりを継続する方法を工夫するとともに新たな活動の場を開拓し、「健援隊」の活動を行った。新たな試みとして、活動拠点の地区住民に対し、健康知識の提供及び自主的な健康管理を目的とした紙媒体の作成を行った。また、新たな活動場所として高知市内の保育園を開拓し、保育園児のセルフケアを育む活動、具体的には発達段階に応じた健康便りの作成を行った。いずれの活動も対象者のセルフケアにつながった。	看護学部	浅木 優里 大久保 萌 大坂 菜摘 岡下 晴音 梶原 妃奈乃 数井 千晴 加茂 樹奈 北添 早彩 小林 あい 芝田 華花 下村 真白 曾木 杏香 田辺 優 中村 果穂 春名 美愛 福田 瑞香 舩木 綾音 松倉 由依 吉田 裕莉華
室戸ボランティアリーダー (3名)	室戸ボランティアリーダーとして小学生を対象とした教育的活動にボランティアとして参加するだけでなく、施設運営者の指導の下、学生が自主企画したイベントやボランティアリーダーの育成研修の企画・実施などに1, 2回生時から現在に至るまで、継続的に参画し、メンバーを先導し、看護学部の学生として授業等で学んだことを活かし、その教育目標の達成に貢献してきた。また、新型コロナウイルス感染症拡大下にあっても先輩達から引き継がれた運営方法や技術を途絶えさせない様、活動を工夫し、安全に活動できるように取り組み、後輩の主体的な活動継続につながった。	看護学部	大森 三那子 野田 有希 横山 瑠奈
個人による顕著な表彰	卒業後、地方自治体で福祉職として勤務することを目指し、社会福祉学部で社会福祉士国家資格取得のための学業に勤しんでいる。その学業のかたわら、まんが創作活動を地道に継続し、集英社が主催する新人漫画賞で佳作を受賞した。	社会福祉学部	香川 あづき
個人による顕著な表彰	コロナウイルス感染症によって生活困窮となった学生に対する食糧支援ボランティアを1年以上にわたって行った。その他、高知市内の高齢者の生活支援を担うNPOにもボランティアとして参加、また、「Pシスターズ」の代表を2年間務め、持続可能な地域づくりに向けて、住民の想いを聞き、その地域ならではの「良さ」を生かしながら、地域の生活課題解決に向けて、地域活動に精力的に取り組むなど、窮状を訴えにくい方々の声に真摯な姿勢で向き合った。	社会福祉学部	三谷 紗蘭

団体名(人数)	功績	学部	氏名
イケあい地域災害学生ボランティアセンター (5名)	『イケあい地域災害学生ボランティアセンター』の第9期幹部として、精力的に活動を継続し、後輩にバトンをつないだ。先輩の元で一連の活動の準備や実施を経験し、2回生として活動の中核を担った令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い社会活動が制限される中、ネット環境を駆使した活動に参加したり、度重なる参加予定行事の中止にもめげず、地域の防災イベントに何とか学生が応援参加できるよう幹部として企画書を作成し続け、後輩が参加・活躍できる場の獲得に尽力した。	健康栄養学部	小川 晶世 武内 真優 長谷川 和美 前川 希 松本 あすか

(6) サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
イタリア ヴェネツィアカ・フォスカリ大学	Campeol Alessandra Favretto Christian Fuggini Michelle Anzil Irene Mantovani Lara Poiesi Leonardo Pozzo Andrea Trioli Chiara	2022年度 国際日本学プログラム 2022年9月12日～12月9日	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学	曾丞緯 張瑋珊	2022年10月1日～2023年3月6日 中国語教育実習	高知県立大学 (文化学部)

6 SD・FD活動実施状況

(1) 全学SD・FD

区分	内容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主催	共催
SD	第2回SD研修会 「高知県の中山間地域の”いま”を聴く～10年ぶりの集落実態調査の結果から～」	安藤 優(高知県中山間振興・交通部中山間地域対策課 課長)	令和4年6月30日	50	高知県立大学	
	第3回SD研修会 「SDGsと大学の役割」	伊藤 恭彦(名古屋市立大学 副学長 教授)	令和4年12月15日	57	高知県立大学	
SFD	2022年度SD・FD研修(情報セキュリティ研修) 「情報セキュリティ対策実践 基礎から学ぶセキュア環境構築・運用入門編」e-learning		令和4年12月16日～ 令和5年2月17日	114		
FD	第28回学際的交流サロン 「栄養アセスメント:画像認識による栄養価計算アプリケーションの有用性を検討する」	荒牧 礼子(健康栄養学部 准教授)	令和4年6月13日	52	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第29回学際的交流サロン 「戦略的研究推進プロジェクトの成果報告会」 ①新型コロナウイルス禍における人々の健康維持に向けたケア方略 ②高幡保健医療圏における精神障害に対応した包括的支援マネジメントモデルの開発	①渡邊 聡子(看護学部 教授) ②瀧 めぐみ(看護学部 助教)	令和4年7月19日	52	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第30回学際的交流サロン 「コーパスに見る新たな英語表現——形容詞表現を中心に」	金澤 俊吾(文化学部 准教授)	令和4年10月12日	39	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第31回学際的交流サロン 「リハビリ・カレッジ高知の取り組みを通して、高知に共同創造(Co-production)の芽を育む」	玉利 麻紀(社会福祉学部 助教)	令和4年12月21日	29	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	全学FD研修会 テーマ:パフォーマンス課題におけるルーブリックの実践例紹介	菊池 直人(文化学部 准教授) 大川 宣容(看護学部 教授) 森本 紗磨美(看護学部 助教) 田中 雅美(看護学部 助教) 神家 ひとみ(看護学部 助教) 河内 康文社会(社会福祉学部 准教授) 廣内 智子(健康栄養学部 講師)	令和5年3月7日	71		

(2) 部局別SD・FD

部署	内容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主催	共催
文化学部	「基礎演習」および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員10名	令和4年7月25日	24	学部FD委員会	
	学術研究分野における個人情報保護の規律の考え方	菊池 直人(文化学部 准教授)	令和5年2月13日	24	人権委員会	学部FD委員会
看護学部	高次リテラシーを育成するためのFDの検討		令和4年6月15日	37	学部FD委員会	
	マザーマップを活用した教員の主体的な学びの支援	藤代 知美(FD委員 准教授)	令和4年6月2日	5	学部FD委員会	
	臨地実習における学生の主体的な学びを言語化するレポート作成の指導	大川 宣容(臨床実習委員長 看護学部 教授)、池添 志乃(看護学部 教授)	令和4年11月8日	21	学部FD委員会	
	実習ルーブリックの活用を通じた教育評価の検討		令和5年3月9日	42	学部FD委員会	
	看護を語る会		令和5年3月9日	41	学部FD委員会	
	PDPプログラム1 ポストコロナ時代と「大学」の(時間)	吉見 俊哉(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)	令和4年6月1日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム2 公立大学政策とその将来像	中田 晃(一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長)	令和4年6月8日	19	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
看護学部	PDPプログラム3 日本の科学研究力失速の現状とその要因	豊田 長康(鈴鹿医療科学大学学 長・三重大学名誉教授)	令和4年6月15日	24	学部FD委員会	
	PDPプログラム4 学生への経済的支援の現状と課題	小林 雅之(桜美林大学総合研究 機構教授)	令和4年6月22日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム5 学習と教育の科学 ー認知理論から大学の授業改革を考えるー	市川 伸一(東京大学)	令和4年6月29日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム6 認知科学と学習の原理・応用	佐伯 胖(信濃教育会教育研究所 長、東京大学名誉教授)	令和4年7月6日	11	学部FD委員会	
	PDPプログラム7 アカデミック・ライティングを指導する ー現状の分析と指導法の提案ー	井下 千以子(桜美林大学)	令和4年7月13日	19	学部FD委員会	
	PDPプログラム8 学びのユニバーサルデザイン(UDL)で 幅広い教育ニーズに対応できる講義を	川俣 智路(北海道教育大学教職 大学院)	令和4年7月20日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム9 「しまった!!」とならないために ーICT時代の教育で押さえておきたい法ー	三石 大、金谷 吉成(東北大学)	令和4年7月27日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム10 授業デザインとシラバス作成	串本 剛(東北大学)	令和4年8月3日	24	学部FD委員会	
	PDPプログラム11 インストラクショナルデザインへの誘い	鈴木 克明(熊本大学)	令和4年8月24日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム12 Transforming Classrooms for Active and Collaborative Learning	Andy Leger(カナダ・クイーンズ大 学)	令和4年8月31日	8	学部FD委員会	
	PDPプログラム13 学力形成と教育マネジメントの役割 ー金沢工業大学の実践ー	西村 秀雄(金沢工業大学)	令和4年9月7日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム14 学生が成長する環境とは何か ーボーダーフリー大学の現実をふまえてー	葛城 浩一(香川大学)	令和4年9月14日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム15 学習効果を高めるICTの活用法 ～反転授業も含めた授業設計～	向後 千春(早稲田大学)	令和4年9月21日	14	学部FD委員会	
	PDPプログラム16 授業づくり: 準備と運営	邑本 俊亮(東北大学)	令和4年9月28日	14	学部FD委員会	
	PDPプログラム17 Designing Your Courses for More Significant Learning	Dee Fink(高等教育コンサルタント)	令和4年10月5日	10	学部FD委員会	
	PDPプログラム18 世界の高等教育政策	杉本 和弘(東北大学)	令和4年10月19日	21	学部FD委員会	
	PDPプログラム19 グローバル化する高等教育における 国際化戦略・政策・実践	太田 浩(一橋大学)	令和4年10月26日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム20 研究評価の手法とマネジメント	林 隆之(大学改革支援・学位授与 機構)	令和4年11月2日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム21 大学教育改革のトレンドと日本が 目指すべき21世紀の学士課程教育像	小笠原 正明(北海道大学)	令和4年11月16日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム22 大学教員の役割とキャリアステージ	羽田 貴史(東北大学)	令和4年11月30日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム23 Ethical Conduct in Research Supervision - Principles, Policies, and Procedures	Gabriele Lakowski(メルボルン大 学)	令和4年12月7日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム24 大学教育論: 教養と専門の二項対立を越えて	小笠原 正明(北海道大学名誉教 授)	令和4年12月14日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム25 歴史から見た大学: 中世から現代まで	寺崎 昌男(立教学院)	令和5年1月18日	16	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
看護学部	PDPプログラム26 学術分野の男女共同参画とポジティブ・アクションの課題—憲法学者としての歩みにふれて	辻村 みよ子(東北大学)	令和5年2月1日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム27 コーチングを活用した院生指導	出江 紳一(東北大学)	令和5年2月15日	20	学部FD委員会	
	PDPプログラム28 リカレント教育の今、そしてコロナ後に果たすべき大学の役割	出江 紳一(東北大学)	令和5年2月22日	24	学部FD委員会	
	PDPプログラム29 大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望	乾 喜一郎(白百合女子大学非常勤講師)	令和5年3月1日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム30 課題を考える—大学教育の課題とデータサイエンス学部の挑戦	竹村 彰通(滋賀大学)	令和5年3月8日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム31 発表倫理を考える	山崎 茂明(愛知淑徳大学)	令和5年3月22日	15	学部FD委員会	
	青年期・成人期への移行期の発達をふまえた教育	西垣 順子(大坂市立大学 大学教育研究センター 教授)	令和4年7月2日	17	高知看護教育研究会	
	学生と教員のインタラクティブなやり取り	高畑 貴志(高知大学 学び創造センター准教授)、杉田 郁代(高知大学 学び創造センター准教授)	令和4年12月12日	1	高知看護教育研究会	
社会福祉学部	外部資金獲得に向けた申請書作成	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和4年5月23日	19	学部FD委員会	
	高次脳機能障害の症状と対策～基本知識の基礎の基礎～	宮本 寛(南国中央病院副院長)	令和4年10月24日	23	学部FD委員会	
	東日本大震災の教訓と地域再生—サポートセンターの実績とその後—	芳賀 潤(岩手県大槌町らふたあビルズ理事長)	令和4年11月10日	16	学部FD委員会	
	ルーブリック評価の分析と検討	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和4年12月26日	15	学部FD委員会	
	論文の書き方に関する研修会	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和5年2月10日	14	学部FD委員会	
	リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み	羽田 貴史(東北大学 教授)	令和5年2月27日	18	学部FD委員会	
	研究を生み出すしつけ作り—ゼミのいろいろ—	宮上 多加子(社会福祉学部 教授)	令和5年3月3日	16	学部FD委員会	
健康栄養学部	食物アレルギーへのアプローチ～研究の軌跡～	竹本 和仁(健康栄養学部 助教)	令和4年10月24日	13	学部FD委員会	
	栄養アセスメント:画像認識による栄養価計算アプリケーションの有用性を検討する	荒牧 礼子(健康栄養学部 教授)	令和4年11月21日	13	学部FD委員会	
	合同災害訓練の振り返り及び情報共有	廣内 智子(健康栄養学部 講師)、島田 郁子(健康栄養学部 准教授)	令和4年12月12日	14	学部FD委員会	
地域学実習II 地域学実習IIの理想と現実	一色 健司(地域教育研究センター教授)	令和5年2月28日	5	センターFD委員会		

(3)全学人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
全学	第1回SD研修会 「事例から考えるハラスメント」	高木 佳代子(愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 課長)	令和4年5月30日	107	高知県立大学	高知県立大学人権委員会

(4) 部局別人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
学文 部化	学術研究分野における個人情報保護の規律 の考え方	菊池 直人(文化学部 准教授)	令和5年2月13日	24	学部人権委員 会	学部FD委員会
看 護 学 部 ・ 研 究 科	看護学部第1回人権研修 ハラスメント		令和4年5月18日	35	学部人権委員 会	
	看護学部第2回人権研修 キャンパス・ハラスメ ント		令和5年2月8日 令和5年3月15日	48	学部人権委員 会	
社社 会会 部福	高次脳機能障害当事者の不安と生活の不自由、 そしてその不自由を克服する工夫	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)、 吉良 正輝(人間生活学研究科博士 前期課程)	令和5年1月23日	19	学部人権委員 会	学部FD委員会
事 務 局	令和4年度事務職員向け人権研修会 ～テーマ～ 「大学のハラスメント防止対策について」	丸山 史晃(MS&AD インターリスク 総研株式会社危機管理コンプライ アンスグループ 上席コンサルタント)	令和5年2月15日～ 令和5年3月17日	41	事務局人権委 員会	

(5) 学外研修

部 署	内 容	期 間	参加者数 (人)	主 催
学文 部化	令和4年度公立大学の研究活動促に資するた めの勉強会 アドバンスセミナー(第2回)～海 外からの研究者招聘編～	令和4年7月27日	1	一般社団法人公立大学協会
看 護 学 部	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	令和4年度公立大学の研究活動促に資するた めの勉強会 アドバンスセミナー(第2回)～海 外からの研究者招聘編～	令和4年7月27日	1	一般社団法人公立大学協会
	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月29日	2	一般社団法人公立大学協会
社社 会会 部福	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月15日	1	一般社団法人公立大学協会
養健 学康 部栄	授業について考えるランチセミナー	令和4年6月9日～令和5年2月16日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
地 域 ン 教 育 タ ー 研究 セ	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	教学IR実践のヒント(前編) 「教学IRを活用した内部質保証の取組事例～ 広島市立大学の取組を基に～」	令和4年11月30日	1	一般社団法人公立大学協会
事 務 局	初任者研修①	令和4年4月1日	1	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和4年4月8日	1	高知県公立大学法人
	初任者研修③	令和4年4月15日	1	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修(基礎①)	令和4年4月14日	1	高知県
	新規採用職員研修(基礎①) (受講方法:オンライン)	令和4年4月21日～5月20日	1	高知県
	公立大学に関する基礎研修 (受講方法:オンライン)	令和4年5月10日	2	一般社団法人公立大学協会

部署	内容	期間	参加者数(人)	主催
事務局	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(新任職員) (受講方法:オンライン)	令和4年5月12日～5月14日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	新規採用職員研修(基礎②) (受講方法:オンライン)	令和4年5月16日～6月16日	1	高知県
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会(第1回) (受講方法:オンライン)	令和4年5月26日	3	一般社団法人公立大学協会
	避難所運営研修(第1回)	令和4年5月31日	54	高知県立大学
	新規採用職員研修(基礎②)	令和4年6月2日	1	高知県
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会(第2回) (受講方法:オンライン)	令和4年6月15日	4	一般社団法人公立大学協会
	新規採用職員研修(基礎③)	令和4年6月24日	1	高知県
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会(第3回) (受講方法:オンライン)	令和4年7月13日	4	一般社団法人公立大学協会
	避難所運営研修(第2回)	令和4年7月11日・7月14日	63	高知県立大学
	避難所運営研修(第3回)	令和4年8月22日・9月2日	49	高知県立大学
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会 アドバンスセミナー(第2回) ～海外からの研究者招聘編～ (受講方法:オンライン)	令和4年7月27日	4	一般社団法人公立大学協会
	教学IRにおけるGoogle Workspaceの利用事例 ～名桜大学の取り組み～ (受講方法:オンライン)	令和4年7月29日	3	一般社団法人公立大学協会
	タイムマネジメント入門講座 (受講方法:オンライン)	令和4年9月12日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	SPODフォーラム2022 (受講方法:オンライン)	令和4年8月24日～8月26日	7	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	「次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)」開放講義	令和4年9月21日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	避難所運営研修(第4回) (受講方法:対面・オンライン)	令和4年9月27日	48	高知県立大学
	避難所運営研修(第5回)	令和4年11月16日・21日・24日	54	高知県立大学
新規採用職員研修(基礎④)	令和4年11月24日	1	高知県	

V 学生

1 行事实績

令和4年

4月 2日(土) ~ 4月 3日(日)	健康診断 : 池キャンパス(2~4回生)
4月 4日(月)	入学式
4月 5日(火) ~ 4月 6日(水)	新入生ガイダンス・在学生ガイダンス
4月 7日(木)	前期授業開始
4月10日(日)	健康診断 : 永国寺キャンパス(2~4回生)
4月14日(木)	履修登録締切
4月21日(木)	創立記念日
4月22日(金) ~ 5月 2日(月)	前期履修登録変更期間
4月24日(日)	健康診断 : 永国寺キャンパス(1回生)
5月13日(金)	定例学生大会(午後)
5月25日(水) ~ 5月31日(火)	前期履修中止届出期間
7月 8日(金) ~ 7月28日(木)	後期英語コミュニケーション科目履修希望調査
7月23日(土)	ウェブオープンキャンパス
8月 1日(月) ~ 8月 8日(月)	補講・試験期間
8月 9日(火) ~ 9月11日(日)	夏季休業期間
8月31日(水)	前期成績提出締切
9月 7日(水)	前期成績開示日
9月12日(月) ~ 9月30日(金)	集中講義期間
9月17日(土) ~ 9月18日(日)	大学院第一次学生募集選抜
9月26日(月)	9月卒業式・修了式
9月27日(火)	前期成績判定日
10月 3日(月)	後期授業開始
10月11日(火) ~ 10月18日(火)	後期履修登録変更期間
11月 5日(土) ~ 11月 6日(日)	大学祭(紅葉祭)
11月19日(土) ~ 11月20日(日)	学校推薦型選抜・社会人選抜・3年次編入学選抜
11月24日(木) ~ 11月30日(水)	後期履修中止届出期間
12月19日(月) ~ 12月23日(金)	集中講義期間
12月25日(日) ~ 1月 4日(水)	冬季休業期間

令和5年

1月 5日(木)	授業開始、月曜日授業
1月13日(金)	休講(大学入学共通テスト準備のため)
1月14日(土) ~ 1月15日(日)	大学入学共通テスト
1月21日(土)	大学院第二次学生募集選抜
1月22日(日)	私費外国人留学生選抜
2月 1日(水) ~ 2月20日(月)	次年度前期英語コミュニケーション科目履修希望調査
2月10日(金) ~ 2月22日(水)	補講・試験期間
2月24日(金) ~ 3月17日(金)	集中講義期間
2月24日(金)	後期成績提出締切(4回生)
2月25日(土) ~ 2月26日(日)	一般選抜(前期日程)
2月27日(月)	後期成績開示日(4回生)
3月 1日(水)	後期成績提出締切(1~3回生)
3月 3日(金)	卒業判定会議
3月 8日(水)	成績開示日(1~3回生)
3月12日(日) ~ 3月13日(月)	一般選抜(後期日程)・社会人選抜
3月20日(月)	卒業式・修了式
3月22日(水) ~ 3月31日(金)	春季休業期間
3月24日(金)	後期成績判定日(1~3回生)

2 入学の状況

(1) 令和5年度入学者選抜結果(令和4年度実施)

(単位:人)

学部・学科名	区分	募集人員 a	志願者数b		志願倍率 b/a	受験者数c		受験倍率 c/a	合格者数d		合格倍率 c/d	追加合格者数		入学者数	
			全体	(県内)		全体	(県内)		全体	(県内)		全体	(県内)	全体	(県内)
文化学部	文化学科 [言語文化系/ 地域文化創造系]	推薦	県内	30	42 (42)	1.4	42 (42)	1.4	34 (34)	1.2			34 (34)		
			全国	8	16 (0)	2.0	16 (0)	2.0	10 (0)	1.6			10 (0)		
		個別	前期	72	204 (61)	2.8	184 (56)	2.6	87 (21)	2.1	0 (0)	0 (0)	74 (17)		
			後期	10	215 (62)	21.5	54 (19)	5.4	13 (2)	4.2	2 (0)	0 (0)	10 (1)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-			0 (0)			
		私費外国人留学生	若干名	6	-	6	-	2	3.0			1			
		1年次計	120	483 (165)	4.0	302 (117)	2.5	146 (57)	2.1	2 (0)	0 (0)	129 (52)			
		3年次編入	5	3 (1)	0.6	3 (1)	0.6	1 (0)	3.0	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
	合計	125	486 (166)	3.9	305 (118)	2.4	147 (57)	2.1	2 (0)	0 (0)	130 (52)				
	文化学科 [文化総合系 (夜間主コース)]	推薦	県内	10	5 (5)	0.5	5 (5)	0.5	5 (5)	1.0			5 (5)		
		社会人A	10	8 (3)	0.8	8 (3)	0.8	6 (2)	1.3	0 (0)	0 (0)	6 (2)			
		社会人B	10	24 (13)	2.4	16 (9)	1.6	14 (7)	1.1	0 (0)	0 (0)	11 (7)			
		1年次計	30	37 (21)	1.2	29 (17)	1.0	25 (14)	1.2	0 (0)	0 (0)	22 (14)			
		3年次編入	3	2 (0)	0.7	2 (0)	0.7	1 (0)	2.0	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
合計		33	39 (21)	1.2	31 (17)	0.9	26 (14)	1.2	0 (0)	0 (0)	23 (14)				
看護学部	看護学科	推薦	県内	25	46 (46)	1.8	46 (46)	1.8	25 (25)	1.8			25 (25)		
			全国	5	39 (1)	7.8	39 (1)	7.8	6 (0)	6.5			6 (0)		
		個別	前期	45	131 (25)	2.9	120 (24)	2.7	48 (11)	2.5	0 (0)	0 (0)	46 (10)		
			後期	5	187 (34)	37.4	71 (15)	14.2	5 (1)	14.2	0 (0)	0 (0)	4 (1)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-			0 (0)			
		私費外国人留学生	若干名	1	-	1	-	1	1.0			1			
		合計 (1年次計)	80	404 (106)	5.1	277 (86)	3.5	85 (37)	3.3	0 (0)	0 (0)	82 (36)			
社会福祉学部	社会福祉学科	推薦	県内	20	18 (18)	0.9	18 (18)	0.9	18 (18)	1.0			18 (18)		
			全国	10	13 (0)	1.3	13 (0)	1.3	10 (0)	1.3			10 (0)		
		個別	前期	35	78 (14)	2.2	70 (12)	2.0	42 (6)	1.7	0 (0)	0 (0)	34 (5)		
			後期	5	68 (20)	13.6	27 (8)	5.4	9 (4)	3.0	0 (0)	0 (0)	7 (4)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-			0 (0)			
		私費外国人留学生	若干名	3	-	3	-	3	1.0			3			
		合計 (1年次計)	70	180 (52)	2.6	131 (38)	1.9	82 (28)	1.6	0 (0)	0 (0)	72 (27)			
健康栄養学部	健康栄養学科	推薦	県内	12	24 (24)	2.0	24 (24)	2.0	13 (13)	1.8			13 (13)		
			全国	5	20 (0)	4.0	20 (0)	4.0	5 (0)	4.0			5 (0)		
		個別	前期	23	51 (14)	2.2	43 (13)	1.9	27 (7)	1.6	0 (0)	0 (0)	23 (6)		
		社会人	若干名	2 (0)	-	2 (0)	-	0 (0)	-			0 (0)			
		私費外国人留学生	若干名	3	-	1	-	0	-			0			
		合計 (1年次計)	40	100 (38)	2.5	90 (37)	2.3	45 (20)	2.0	0 (0)	0 (0)	41 (19)			
学部計 (夜間主を除く)	推薦	県内	87	130 (130)	1.5	130 (130)	1.5	90 (90)	1.4			90 (90)			
		全国	28	88 (1)	3.1	88 (1)	3.1	31 (0)	2.8			31 (0)			
	個別	前期	175	464 (114)	2.7	417 (105)	2.4	204 (45)	2.0	0 (0)	0 (0)	177 (38)			
		後期	20	470 (116)	23.5	152 (42)	7.6	27 (7)	5.6	2 (0)	0 (0)	21 (6)			
	社会人	若干名	2 (0)	-	2 (0)	-	0 (0)	-			0 (0)				
	私費外国人留学生	若干名	13	-	11	-	6	1.8			5				
	1年次計	310	1,167 (361)	3.8	800 (278)	2.6	358 (142)	2.2	2 (0)	0 (0)	324 (134)				
	3年次編入計	5	3 (1)	0.6	3 (1)	0.6	1 (0)	3.0	0 (0)	0 (0)	1 (0)				
総合計	315	1,170 (362)	3.7	803 (279)	2.5	359 (142)	2.2	2 (0)	0 (0)	325 (134)					
学部総合計 (夜間主も含む)	1年次総合計	340	1,204 (382)	3.5	829 (295)	2.4	383 (156)	2.2	2 (0)	0 (0)	346 (148)				
	3年次編入総合計	8	5 (1)	0.6	5 (1)	0.6	2 (0)	2.5	0 (0)	0 (0)	2 (0)				
	総合計	348	1,209 (383)	3.5	834 (296)	2.4	385 (156)	2.2	2 (0)	0 (0)	348 (148)				
看護学研究科		26	18 (12)	0.7	16 (12)	0.6	16 (12)	1.0	0 (0)	0 (0)	15 (11)				
人間生活学研究科		21	13 (10)	0.6	12 (9)	0.6	11 (8)	1.1	0 (0)	0 (0)	8 (6)				
研究科計		47	31 (22)	0.7	28 (21)	0.6	27 (20)	1.0	0 (0)	0 (0)	23 (17)				

(2)出身地別入学状況

【学部】

○一般選抜

(単位:人)

学部	文化学部		看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	合 計			
	文 化		看 護		社会福祉		健康 栄養				
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	計	割合
北海道	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
青森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
岩手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
宮城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
山形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
茨城	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
群馬	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
埼玉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
千葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
神奈川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
新潟	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
富山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
石川	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
福井	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
山梨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
岐阜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
静岡	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
愛知	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
三重	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1.5%
滋賀	0	0	1	0	0	0	1	2	0	2	1.0%
京都	3	0	1	0	0	0	2	6	0	6	3.0%
大阪	1	1	2	0	1	0	3	7	1	8	4.0%
兵庫	8	1	3	1	2	0	3	16	2	18	9.1%
奈良	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
和歌山	1	1	3	0	1	0	0	5	1	6	3.0%
鳥取	0	1	2	0	3	0	1	6	1	7	3.5%
島根	2	1	1	0	0	0	0	3	1	4	2.0%
岡山	3	0	3	0	3	0	2	11	0	11	5.6%
広島	8	1	6	0	2	0	1	17	1	18	9.1%
山口	2	0	0	0	0	0	1	3	0	3	1.5%
徳島	7	2	1	0	3	1	0	11	3	14	7.1%
香川	0	0	1	1	1	0	2	4	1	5	2.5%
愛媛	1	1	7	0	3	1	0	11	2	13	6.6%
高知	17	1	10	1	5	4	6	38	6	44	22.2%
福岡	3	0	1	0	0	0	0	4	0	4	2.0%
佐賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長崎	2	0	1	0	0	0	0	3	0	3	1.5%
熊本	1	0	0	1	0	0	0	1	1	2	1.0%
大分	1	0	0	0	7	0	0	8	0	8	4.0%
宮崎	3	0	1	0	1	0	0	5	0	5	2.5%
鹿児島	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0.5%
沖縄	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
合計	74	10	46	4	34	7	23	177	21	198	100%

○学校推薦型選抜

(単位:人)

学部	文化		看護	社会福祉	健康栄養	合計	割合
	文化学科 言語文化系/地域文化創造系	文化学科 文化総合系 (夜間主コース)	看護	社会福祉	健康栄養		
岩手	0	0	0	1	0	1	0.8%
滋賀	0	0	1	0	0	1	0.8%
京都	0	0	0	0	1	1	0.8%
兵庫	0	0	0	0	1	1	0.8%
岡山	2	0	2	1	0	5	4.0%
徳島	0	0	0	2	1	3	2.4%
香川	2	0	0	0	0	2	1.6%
愛媛	5	0	2	5	1	13	10.3%
高知	34	5	25	18	13	95	75.4%
佐賀	0	0	0	0	1	1	0.8%
長崎	0	0	1	0	0	1	0.8%
大分	1	0	0	0	0	1	0.8%
沖縄	0	0	0	1	0	1	0.8%
合計	44	5	31	28	18	126	100%

【大学院】

(単位:人)

研究科	看護学研究科		人間生活学研究科		合計	割合
	看護学専攻		人間生活学専攻			
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		
千葉	2	0	0	0	2	8.7%
東京	0	0	1	0	1	4.3%
島根	0	1	0	0	1	4.3%
岡山	1	0	0	0	1	4.3%
香川	0	0	1	0	1	4.3%
高知	7	4	5	1	17	73.9%
合計	10	5	7	1	23	100%

3 学生数(令和4年5月1日現在)

(単位:人)

学部・学科・専攻		1回生			2回生			3回生			4回生			5回生以上			合計		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
文化学部 (昼)	文化学科	57	75	132	65	61	126	52	68	120	54	87	141	/	/	/	228	291	519
	編入生	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	/	/	/	1	1	2
	小計	57	75	132	65	61	126	53	68	121	54	88	142	/	/	/	229	292	521
文化学部 (夜間主)	文化学科	16	14	30	16	7	23	16	15	31	26	13	39	/	/	/	74	49	123
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	/	/	/	2	1	3
	小計	16	14	30	16	7	23	16	15	31	28	14	42	/	/	/	76	50	126
看護学部	看護学科	46	37	83	34	51	85	32	49	81	32	51	83	/	/	/	144	188	332
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	0	0	0
	小計	46	37	83	34	51	85	32	49	81	32	51	83	/	/	/	144	188	332
社会福祉学部	社会福祉学科	30	45	75	29	44	73	29	49	78	33	41	74	/	/	/	121	179	300
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	0	0	0
	小計	30	45	75	29	44	73	29	49	78	33	41	74	/	/	/	121	179	300
健康栄養学部	健康栄養学科	15	27	42	14	29	43	18	22	40	13	29	42	/	/	/	60	107	167
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	0	0	0
	小計	15	27	42	14	29	43	18	22	40	13	29	42	/	/	/	60	107	167
学部合計	学部合計	164	198	362	158	192	350	147	203	350	158	221	379	/	/	/	627	814	1,441
	編入生合計	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	4	/	/	/	3	2	5
	合計	164	198	362	158	192	350	148	203	351	160	223	383	/	/	/	630	816	1,446
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)	9	6	15	14	9	23	/	/	/	/	/	/	/	/	/	23	15	38
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)	1	6	7	4	4	8	5	9	14	/	/	/	/	/	/	10	19	29
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	1	1	1	1	2	1	2	3
	人間生活学研究科(博士前期)	4	1	5	10	0	10	/	/	/	/	/	/	/	/	/	14	1	15
	人間生活学研究科(博士後期)	1	0	1	4	0	4	4	1	5	/	/	/	/	/	/	9	1	10
大学院合計	合計	15	13	28	32	13	45	9	10	19	0	1	1	1	1	2	57	38	95
総計		179	211	390	190	205	395	157	213	370	160	224	384	1	1	2	687	854	1,541

4 休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況

(1) 年次別休学者数

(単位:人)

区 分		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
文化学部	文化学科	13	24	20	24	19	
看護学部	看護学科	3	4	4	4	5	
社会福祉学部	社会福祉学科	3	3	5	5	4	
健康栄養学部	健康栄養学科	0	2	2	4	1	
学 部 合 計		19	33	31	37	29	
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	0	2	3	3	3
		看護学専攻(博士後期)	2	2	6	7	5
		共同災害看護学専攻(博士)	1	1	1	0	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	2	0	1	1	0
		人間生活学専攻(博士後期)	0	0	0	1	1
大 学 院 合 計		5	5	11	12	10	
合 計		24	38	42	49	39	

(2) 年次別退学者数

(単位:人)

区 分		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
文化学部	文化学科	13	13	13	19	16	
看護学部	看護学科	1	1	2	3	2	
社会福祉学部	社会福祉学科	2	1	1	4	4	
健康栄養学部	健康栄養学科	0	2	1	2	0	
学 部 合 計		16	17	17	28	22	
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	0	1	0	1	1
		看護学専攻(博士後期)	0	0	1	0	1
		共同災害看護学専攻(博士)	0	0	1	0	0
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	1	0	0	0	2
		人間生活学専攻(博士後期)	3	0	0	0	2
大 学 院 合 計		4	1	2	1	6	
合 計		20	18	19	29	28	

(3) 修業年限を超えて在籍する学生数(令和4年4月1日現在)

(単位:人)

区 分		5年	6年	7年	8年以上	計
文化学部	文化学科	22	5	4	3	34
看護学部	看護学科	2	0	1	0	3
社会福祉学部	社会福祉学科	1	1	0	0	2
健康栄養学部	健康栄養学科	0	0	0	0	0
学 部 合 計		25	6	5	3	39

(単位:人)

区 分			3年	4年	5年	6年以上	計
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	1	0	1	0	2
		看護学専攻(博士後期)		3	2	4	9
		共同災害看護学専攻(博士)				1	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	1	1	0	0	2
		人間生活学専攻(博士後期)		0	0	0	0
大 学 院 合 計			2	4	3	5	14

(4) 単位互換の状況

(単位:人)

大 学 名	派 遣		受 入	
	人数	科目数(延べ)	人数	科目数(延べ)
高知大学	0	0	0	0
高知短期大学	0	0	0	0
高知学園短期大学	0	0	0	0
高知工科大学	0	0	0	0
名古屋市立大学	0	0	0	0
名桜大学	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

5 課外活動

(単位:人)

文化系 (令和5年3月31日現在)		体育系 (令和5年3月31日現在)	
団体名	部員数	団体名	部員数
3大学合同地域活性化団体Sun-fes	21	FC.SOPHIA	26
COME☆RISH	50	高知県立大学合気道部	11
Society For Everyone	3	弓道部	4
イケあい地域災害学生ボランティアセンター	24	準硬式野球部	11
いけいけサロン活動	20	女子ソフトボール部	5
裏千家茶道部池キャンパス	2	水泳部	3
裏千家茶道部(永国寺)	4	バスケットボール部	22
エスコーターズ	7	バドミントンサークル	19
オーテピアンズ	8	バレーボール部	42
活輝創生実行委員会	19	高知県立大学陸上競技部	3
競技かるた部	7	高知県立大学剣道部	4
かんきもん	72	少林寺拳法部	3
グローカルクラブ	13	高知県立大学卓球サークル	15
軽音楽部RiOT	37	バレーボールサークル	30
国際交流クラブ	15	学生団体コンパスよさこいチーム叢雲	17
☆こどもみらい塾☆	24	学生よさこいチーム粹恋	3
手話サークル	10	高知県立大学卓球サークル	9
池キャンパス吹奏楽部	5	ダンスサークル	5
永国寺キャンパス吹奏楽団	4		
高知県立大学生生活協同組合学生委員会	5		
箏曲部	2		
図書館サークルLibe	6		
ハモ☆イケ	7		
漫画研究部	10		
マンドリンクラブ	3		
JELIE	5		
高知県立大学災害看護学生チーム(SIT)	26		
Pシスターズ	38		
室戸ボランティアリーダー	47		
UOK手話サークル	20		
落語研究会	7		
ことば研究会	4		
LGBTQ支援部	4		
なないろクレヨンUoK!サークル	6		
映画鑑賞サークル	7		
35団体	542	18団体	232
53団体		774人	

6 授業料等の納入状況

(1) 入学料・授業料

(単位:円)

区 分		入学検定料の額	入学料の額		授業料の額	
			県内生	県外生		
学 生	学 部	17,000 夜間主コース:10,000	141,000 夜間主コース:70,500	282,000 夜間主コース:141,000	年 額	535,800 夜間主コース:267,900
		編入:30,000 編入夜間主コース:18,000				
	大学院	30,000				
科目等履修生		4,900	14,100 夜間主コース:7,500	28,200 夜間主コース:14,100	1単位	14,800 夜間主コース:7,400
研 究 生		4,900	42,300	84,600	月 額	29,700

(2) 授業料免除状況①(経済的理由による免除、家計急変等特別な事情による免除)

区 分	学 部			大 学 院			合 計			
	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	
平成30 (2018) 年度	免除者(人)	63	105	168	6	0	6	69	105	174
	免除額(円)	16,877,700	53,580,000	70,457,700	1,607,400	0	1,607,400	18,485,100	53,580,000	72,065,100
令和元 (2019) 年度	免除者(人)	75	89	164	7	4	11	82	93	175
	免除額(円)	20,047,850	46,569,950	66,617,800	1,875,300	1,964,600	3,839,900	21,923,150	48,534,550	70,457,700
令和2 (2020) 年度	免除者(人)	53	74	127	8	6	14	61	80	141
	免除額(円)	12,680,600	22,771,500	35,452,100	2,143,200	3,214,800	5,358,000	14,823,800	25,986,300	40,810,100
令和3 (2021) 年度	免除者(人)	38	43	81	8	6	14	46	49	95
	免除額(円)	9,733,700	18,217,200	27,950,900	2,143,200	3,214,800	5,358,000	11,876,900	21,432,000	33,308,900
平成4 (2022) 年度	免除者(人)	23	41	64	3	6	9	26	47	73
	免除額(円)	6,072,400	16,699,100	22,771,500	803,700	3,214,800	4,018,500	6,876,100	19,913,900	26,790,000

(3) 授業料免除状況②(成績優秀者に対する免除)

区 分	学 部			大 学 院			合 計			
	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	
平成28 (2016) 年度	免除者(人)	10	12	22	-	-	0	10	12	22
	免除額(円)	2,679,000	6,161,700	8,840,700	-	-	0	2,679,000	6,161,700	8,840,700
平成29 (2017) 年度	免除者(人)	11	12	23	-	-	0	11	12	23
	免除額(円)	2,946,900	5,893,800	8,840,700	-	-	0	2,946,900	5,893,800	8,840,700
平成30 (2018) 年度	免除者(人)	12	12	24	-	-	0	12	12	24
	免除額(円)	3,036,200	5,893,800	8,930,000	-	-	0	3,036,200	5,893,800	8,930,000
令和元 (2019) 年度	免除者(人)	12	12	24	-	-	0	12	12	24
	免除額(円)	2,812,950	6,429,600	9,242,550	-	-	0	2,812,950	6,429,600	9,242,550

※平成28年度に制度開始、成績優秀による免除は令和元年度まで

(令和2年度以降は、制度変更により、学長奨励賞 受賞者への副賞として奨励金支給開始)

7 日本学生支援機構奨学金受給状況（令和5年3月1日現在）

【学部】

(単位:人、%)

区 分		文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計	
全学年	給付	119	53	53	24	249	
	給付率(%)	18.4	16.0	17.7	14.4	17.2	
	貸与	1種	183	79	82	52	396
		2種	123	66	52	33	274
		合計	306	145	134	85	670
		併用	46	18	16	12	92
		貸与率(%)※	40.2	38.3	39.3	43.7	40.0
	他奨学金※※	1	13	19	1	34	
	学生数	647	332	300	167	1,446	
1回生	給付	30	16	16	7	69	
	貸与	1種	52	23	21	11	107
		2種	24	18	9	8	59
		合計	76	41	30	19	166
		併用	9	4	2	2	17
他奨学金※※	1	2	1	0	4		
2回生	給付	29	10	18	7	64	
	貸与	1種	47	13	19	12	91
		2種	34	18	19	8	79
		合計	81	31	38	20	170
		併用	14	4	6	3	27
他奨学金※※	0	0	4	0	4		
3回生	給付	30	23	12	5	70	
	貸与	1種	48	20	16	21	105
		2種	41	12	12	9	74
		合計	89	32	28	30	179
		併用	17	7	5	6	35
他奨学金※※	0	6	6	0	12		
4回生	給付	30	4	7	5	46	
	貸与	1種	36	23	26	8	93
		2種	24	18	12	8	62
		貸与合計	60	41	38	16	155
		併用	6	3	3	1	13
他奨学金※※	0	5	8	1	14		

※ 貸与率(%) = [(合計-併用)]/学生数*100 ※※ 他奨学金: 日本学生支援機構以外

【大学院】

(単位:人、%)

区 分		看護学研究科	人間生活学研究科	合計
全学年	1種	6	0	6
	2種	1	1	2
	合計	7	1	8
	併用	0	0	0
	学生数	70	25	95
	貸与率(%)※	10.0	4.0	8.4
	他奨学金※※	0	0	0

※ 貸与率(%) = [(合計-併用)]/学生数*100 ※※ 他奨学金: 日本学生支援機構以外

8 卒業(修了)者状況

(1) 年次別卒業(修了)者数

(単位:人)

区 分		年 度	H30	R1	R2	R3	R4
学部	文化学部	文化学科	137	138	135	160	139
	看護学部	看護学科	82	82	82	81	80
	社会福祉学部	社会福祉学科	70	71	73	74	68
	健康栄養学部	健康栄養学部	42	41	40	41	41
	学 部 計			331	332	330	356
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)		16	11	17	18	21
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)		1	6	3	1	1
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)		1	2	1	3	0
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士前期)		13	7	6	10	6
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期)		0	2	1	1	2
	大 学 院 計			31	28	28	33
合 計			362	360	358	389	358

(2) 令和4年度卒業生 就職状況

学科別産業別就職状況(令和5年5月1日現在)

(単位:人)

区 分	文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
	文化	看護	社会福祉	健康栄養	
卒業者数	139	80	68	41	328
進学・留学決定者数	4	1	0	5	10
就職希望なし	20	0	5	0	25
就職希望者数(A)	115	79	63	36	293
就職決定者数(B)	110	79	63	36	288
就職決定率(B)/(A)%	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%	98.3%
農林水産業・鉱業					0 (0)
建設業	6 (1)				6 (1)
製造業	9 (3)			2	11 (3)
電気・ガス・水道業					0 (0)
情報通信業	6 (1)				6 (1)
運輸業、郵便業	2 (1)				2 (1)
卸売業、小売業	13 (7)			10 (4)	23 (11)
金融業、保険業	17 (12)				17 (12)
不動産業、物品賃貸業	4		1 (1)		5 (1)
学術研究、専門・技術サービス業	4				4 (0)
宿泊業、飲食サービス業	8 (2)		1 (1)	1	10 (3)
生活関連サービス業、娯楽業				2	2 (0)
教育、 学習支援業	学校教育	8 (1)	7 (2)	1	16 (3)
	学習支援	2			2 (0)
医療・福祉	医療・保健	1	62 (22)	12 (6)	16 (8)
	福祉・介護	1		37 (15)	4 (1)
複合サービス事業	6 (3)		1		7 (3)
サービス業 (他に分類されないもの)	9 (1)		3 (2)		12 (3)
公務	14 (9)	10 (6)	7 (2)		31 (17)
上記以外			1 (1)		1 (1)
合 計	110 (41)	79 (30)	63 (28)	36 (13)	288 (112)

注 ()内の数値は高知県内に就職した者
分類は日本標準産業分類による分類

VI 総合情報センター

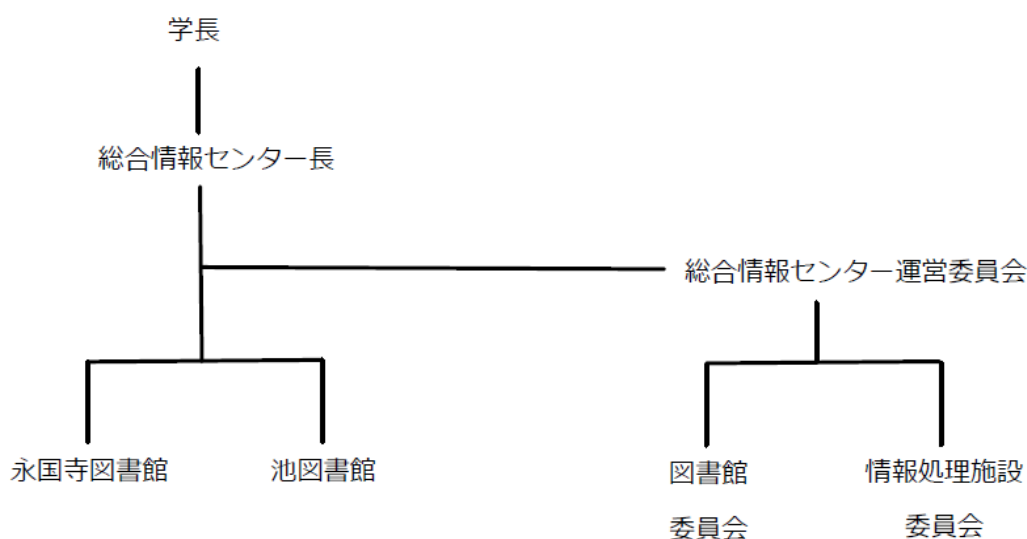
1 概要

総合情報センターのめざすもの

高知県立大学学則第60条に定める図書館及び情報処理施設の管理及び運営を行い、教職員及び学生の教育、研究の支援を行うとともに、地域社会における図書館活動の促進及び地域社会の情報システムとの連携等に取り組み、地域の発展に寄与することを目的とする。

2 組織・委員会

(1) 組織



(2) 委員会

ア 図書館委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(図書館委員会細則第2条:審議事項)

1. 図書館の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 図書館の図書館資料の収集、利用、管理及び調査等に関すること。
3. 学術情報の電子化及び情報発信等に関すること。
4. 図書館の利用者教育に関すること。
5. 図書館所蔵の特別資料の指定に関すること。
6. 他の図書館等との連携に関すること。
7. その他図書館の運営に関し必要な事項

イ 情報処理施設委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(情報処理施設委員会細則第2条:審議事項)

1. 情報処理施設及び設備(以下「情報処理施設等」という。)の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 情報処理施設等の利用及び運用等に関すること。
3. 情報処理施設等の利用者教育に関すること。
4. 他の情報システムとの連携に関すること。
5. その他情報処理施設等の運営に関し必要な事項

3 図書等受入状況

(単位:冊)

図書		永国寺	池	合計
和漢書	令和4年度 受入数	883	1,241	2,124
	令和4年度 除籍等	-678	-70	-748
	蔵書数 (R5年3/31現在)	133,127	85,874	219,001
洋書	令和4年度 受入数	28	146	174
	令和4年度 除籍等	-18	-4	-22
	蔵書数 (R5年3/31現在)	20,185	13,302	33,487
合計	令和4年度 受入数	911	1,387	2,298
	令和4年度 除籍等	-696	-74	-770
	蔵書数 (R5年3/31現在)	153,312	99,176	252,488

(単位:タイトル)

雑誌		永国寺	池	合計
和雑誌	令和4年度 受入数	92	161	253
	令和4年度 受入開始数	0	0	0
	令和4年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R5年3/31現在)	939	944	1,883
洋雑誌	令和4年度 受入数	9	48	57
	令和4年度 受入開始数	0	0	0
	令和4年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R5年3/31現在)	235	204	439
合計	令和4年度 受入数	101	209	310
	令和4年度 受入開始数	0	0	0
	令和4年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R5年3/31現在)	1,174	1,148	2,322

4 図書館利用状況

<図書館利用状況>

(単位:人、冊)

	永国寺	池	合計
入館者数(人)	45,539	38,463	84,002
貸出人数(人)	3,511	3,594	7,105
貸出冊数(冊)	5,594	8,792	14,386

令和4年度末の学外登録者数は、両図書館合わせて11名である。新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年3月より学外利用者の入館を停止しており、新規登録者がおらず、一昨年度(376名)、昨年度(18名)よりも減少している。

<文献複写> (令和5年3月31日現在)

(単位:件)

	依 頼			受 付
	公費	私費	合計	計
永国寺	48	118	166	96
池	272	92	364	387
合計	320	210	530	483

5 学内 LAN 状況

(1) サーバ、ネットワークシステムの概要

ア サーバ

重要サーバ群(教務システム、財務システム等の業務用サーバ)は、高知工科大学と共同利用しているデータセンターに構築している仮想基盤上に配置している。情報演習室のシステムのサーバは永国寺キャンパスに配置している。

イ ネットワークシステム

両キャンパスともに有線・無線LAN環境が整備されている。令和3年8月に池・永国寺無線ネットワーク更改を行った。池キャンパスにおいてはアクセスポイントを倍増(50台→100台)し接続環境が改善された。

(2) 登録ID(教職員、学生、大学院生ごとの内訳)及び接続端末の総数

ア 登録ID総数 1,774名 教職員217名(教員 119名、事務職員 98名)

学生1,557名(学部 1,458名、大学院 99名)

イ 接続端末総数 約690台 永国寺キャンパス 約320台

池キャンパス 約370台

(3) 情報演習室

ア 池情報演習室 2室(利用者用端末 各49台)

イ 池大学院生研究室 3室(利用者用端末 各14台)

ウ 永国寺情報演習室 2室(利用者用端末 130台、48台)

※永国寺情報演習室は高知工科大学と共用している。

VII 地域教育研究センター

地域教育研究センターは、本学が、社会に貢献する大学として、地域コミュニティに根ざし、また、未来を拓く「知の拠点」としての役割の強化並びに本学の教育理念である「地域社会志向教育」を実現するために、平成24年4月に活動を開始した。令和4年には設立10年を迎えた。

1. 地域教育研究センターは、中山間対策など高知県や地域が抱える現状や課題、ニーズを把握し、県・市町村や地域の諸組織、本学卒業生などとともに本学との協働体制を構築し、機能させる仕組みづくりを行い、全学体制で課題解決に取り組む。
2. 地域課題に関する情報を入手できる環境を整備し、学生が主体的に行動できるよう、プログラムや支援体制を充実させる。
3. 公開講座、県民開放授業、履修証明プログラム、科目等履修生制度等を活用し、県民が学び続けることのできる生涯学習プログラムを構築し、実施する。
4. 専門職者を対象とする研修会やリカレント教育を実施し、最新の知識や高度な技術を伝え、専門職者の力量アップを支援する。
5. 地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講座等の学習支援活動を実施する。

<事業実施状況>

【履修証明プログラム】

平成26年度から「履修証明プログラム」を開始している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高知県立大学県民開放授業】

県民開放授業は、平成14年度後期から、文化学部の公開講座の一つとして始まった。平成25年度には、地域教育研究センターが「AERU県民公開授業」を開始した。平成26年度からは、上記2つの事業を統合し、「高知県立大学県民開放授業」を実施している。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高大連携事業】

(1) 小・中・高等学校への出前講座

学問に対する興味・関心を高め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知っていただくことを目的に、高知県内の小・中・高等学校の児童、生徒を対象に、出前講座を実施している。12(1件開催中止)校から要請を受け、派遣した教員数は15人、延べ受講者数396人であった。

No.	学校名	実施日	対象者	テーマ	受講者数(人)
1	大川村立大川小・中学校	令和4年9月1日	中学2年	地域福祉のおもしろさ:住民主体の幸せのまち・むらづくり	6
2	高知県立室戸高等学校(定時制)	令和4年10月12日	高校生 地域の方	巨大地震に備え今すべき食料備蓄	16
3	高知県立室戸高等学校(定時制)	令和4年10月19日	高校生 地域の方	ニセ科学と科学リテラシー	15
4	高知県立安芸高等高校	令和4年10月20日	高校1年 高校2年	生活の中の法律 看護を学ぶということ/看護の専門性 それってほんとに「できない」の?:発達障がい者支援が教えるヒント 食物アレルギー ～一生食べられないの?～	152
5	高知学芸中学・高等学校	令和4年10月21日	中学3年 高校1年	看護学について	75
6	宿毛市立橋上小学校	令和4年10月23日	全学年 保護者	子どもの健康とヘルスリテラシー	26
7	高知市立鏡中学校	令和4年10月24日	全学年	飲み水の作り方	28

No.	学校名	実施日	対象者	テーマ	受講者数 (人)
8	高知県立春野高等学校	令和4年10月28日	高校2年	われわれはなぜ「読む」のか、「学ぶ」のか？	27
9	高知県立山田高等学校	令和4年10月31日	高校3年	生活の中の法律	18
10	高知県立室戸高等学校 (定時制)	令和4年11月2日	高校生	心の健康	8
11	高知県立窪川高等学校	中止	高校生	若者言葉と土佐ことば	-
12	高知県立宿毛高等学校	令和4年12月19日	高校生	地域で活躍する若者たち 看護の仕事	25

(2) 高校生のための公開講座

高校生が、大学の教育・研究に触れ、学問に対する興味・関心を深め、学びの楽しさについて知っていただくことを目的に実施している。全4回開催し、延べ受講者数175人であった。

	実施日	テーマ	対象者	受講者数 (人)
県 大 立 志 塾 2 0 2 2	令和4年6月19日	海洋プラスチックはどこから、そして、どこへ	高校生	53
	令和4年9月11日	摂食・嚥下障害とその栄養管理～摂食・嚥下機能に合わせた食事について～	高校生	36
	令和4年12月11日	有権者になっても選挙に行かない人は多いのか：低投票率の問題と対策	高校生	25
	令和5年2月5日	日本一の健康長寿県構想の実現に向けた高知県の課題～医療と介護の一体的な改革にむけて～	高校生	61

【「知の拠点」としての多様な生涯学習の機会の提供】

地域の人々の知の探究を支援する事業の展開及び地域の教育力向上のための活動を行っている。

1. 公開講座

(1) 県民大学公開講座

「知の拠点」として、県民を対象とした公開講座を随時開催している。YouTubeを利用したオンラインで開催した。延べ受講者数386人。

	テーマ	実施日	対象者	受講者数 (人)
豊 か な 暮 ら し に つ な が る 学 び	① 楽しく学ぶ異文化理解	令和4年7月19日-7月25日	県民他	53
	② 豊かな暮らしとはなにか ―陶淵明の詩文から考える―	令和4年7月26日-8月1日	県民他	43
	③ 災害におけるリスク・コミュニケーション	令和4年8月2日-8月8日	県民他	61
	④ 地域で権利擁護を支える仕組み ―市民後見人を中心に―	令和4年8月9日-8月15日	県民他	50
	⑤ 「ケアする経験」から学ぶ	令和5年1月17日-1月23日	県民他	37
	⑥ 地域との関わりで育つ学生たち ―高知県から何を学んだか―	令和5年1月24日-1月30日	県民他	44
	⑦ こころ健やかに暮らすために	令和5年1月31日-2月6日	県民他	53
	⑧ 海洋プラスチックゴミはどこから、そして、どこへ	令和5年2月7日-2月13日	県民他	45

(2) 第39回本山町・高知県立大学公開講座「夜學」

本山町と本山町老人クラブ連合会、本学の3者で公開講座協定書を締結し、10回の公開講座を行った。受講者延べ199人、7講座以上受講した方に、修了証書を発行した。

No.	公開講座「夜學」講座内容	実施日	対象者	受講者数 (人)
1	再発見ゼヨ!!土佐ことば	令和4年5月19日	本山町民他	24
2	知ってびっくり!意外に知らない土佐の食材にまつわる雑学	令和4年6月13日	本山町民他	23
3	認知症を知り、地域づくりをはじめよう	令和4年7月1日	本山町民他	24
4	ロコモティブシンドローム	令和4年7月20日	本山町民他	22
5	おうちで毎日「健康体操」～体操を日常に取り入れて、転びにくくなる身体をつくっていきましょう!～	令和4年9月7日	本山町民他	27
6	終活、人生会議	令和4年9月16日	本山町民他	20
7	公開講座 「中山間地域の持続可能な『健幸づくり』に向けた小さな拠点のあり方を考える」 (地域教育研究センター設立10周年記念地域活性化シンポジウムに参加)	令和4年10月29日	本山町民他	11
8	福祉と介護の仕事	令和4年10月21日	本山町民他	15
9	農福連携による地域活性化	令和4年11月1日	本山町民他	15
10	自己って何だろう	令和4年12月22日	本山町民他	18

(3) 安芸市シルバー短期大学

安芸市と本学との包括連携協定に基づく連携事業の一つとして、安芸市社会福祉協議会が開催している「安芸シルバー短期大学」に本学教員が講師として登壇した。

No.	テーマ	実施日	対象者	受講者数 (人)
1	あなたの地域を元気にするためのまちづくり	令和4年5月27日	安芸市民他	25
2	食品の安全確保の必要性と理由	令和4年6月24日	安芸市民他	25
3	「土佐ことば」で生き生きゾネ!!	令和4年11月25日	安芸市民他	25
4	健康寿命を延ばすために	令和5年1月27日	安芸市民他	22

(4) 地域教育研究センター設立10周年記念地域活性化シンポジウム

10年の歩みを振り返るとともに、高知県立大学の域学共生を推進し、さらなる充実を期して地域活性化シンポジウムを開催した。

テーマ:「中山間地域の持続可能な『健幸づくり』に向けた小さな拠点のあり方を考える」

日 時: 令和4年10月29日(土)14:00～17:00

場 所: 永国寺キャンパスA105講義室

開催方法: 対面、Zoomによるオンラインライブ配信のハイブリッド開催

参加者数: 156人

第一部 基調講演

「過疎地域の地域づくりにおける大学の役割 ―東洋大学能登ゼミの経験から―

東洋大学副学長 国際教育センター長 国際学部教授

高橋 一男 氏

第二部 パネルディスカッション

事例報告

(1)「集落活動センターの10年の軌跡」

高知県中山間振興・交通部中山間地域対策課長 安藤 優 氏

(2)「中山間地域の持続可能な地域づくり ～集落の再生からコミュニティネットワークによるまちづくりに挑戦～」

農村交流施設「森の巣箱」施設長 大崎 登 氏

(3)「フレイル予防を基軸とした持続可能なまちづくり ～仁淀川町ハツラツツ～」

NPO法人フレイルサポート仁淀川理事 小松 仁視 氏

(4)「学生が変わる・地域が変わる ～中山間地域における域学共生と小さな拠点～」

高知県立大学社会福祉学部教授 田中 きよむ 氏

コーディネーター: 高知県立大学地域教育研究センター講師 秋谷 公博 氏

【「県民大学」学生プロジェクト 立志社中】

平成25年度から、地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせた。10年目となる令和4年度は、7プロジェクト、194人の学生が地域活動に参画した。「立志のたまご」は、次年度に「立志社中」の新プロジェクトとして申請することを目指し、その準備期間として大学が立ち上げを支援した。

(1) 令和4年度採択プロジェクト「立志社中」

No.	プロジェクト名	チーム名	活動エリア	参加学生数(人)	交付額(利息含) [執行額]
1	「みんなのたいこ岩」プロジェクト	活輝創生実行委員会	佐川町	22	163,560円 [11,233円]
2	伝統と発展―中土佐町の風景の復元と民具の活用―	from ZERO	中土佐町	7	200,000円 [8,407円]
3	健援隊 Smileプロジェクト	健援隊	高知市、香美市	29	70,000円 [49,288円]
4	池地域まるごとサロン活動「池地域Reはじめまして活動」	いけいけサロン活動	高知市	20	80,000円 [66,620円]
5	住民と学生による持続可能な地域づくり	Pシスターズ	高知市、安芸市、三原村、仁淀川町	42	154,965円 [81,709円]
6	～「学生」が変わる～、～「地域」が変わる～	かんきもん	高知市、安芸市、土佐市、四万十市	70	71,976円 [31,271円]
7	【立志のたまご】 高知で一番元気なまちづくり	おおとよ探検隊	大豊町	4	49,246円 [20,840円]

(2) その他の活動

No.	事業名等	テーマ等	概要
1	プレゼンテーション及び審査会	【立志社中】プレゼンテーション及び審査会 日時: 令和4年5月22日	応募のあった6件のプロジェクトについて、プレゼンテーション及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
2	面接及び審査会	【立志のたまご】審査会 日時: 令和4年6月19日	応募のあった1件のプロジェクトについて、面接及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
3	第1回スキルアップセミナー	テーマ:「高知県の中山間地域の現状～10年ぶりの集落実態調査～」 日 時: 令和4年7月22日-8月31日 講 師: 高知県中山間振興・交通部中山間地域対策課 課長 安藤 優 氏	本学の授業「地域学概論」にゲストスピーカーとしてお越しいただき、「集落実態調査」の調査結果についてのご講演を録画し、後日、立志社中及び立志のたまごの学生が動画を聴講した。
4	第2回スキルアップセミナー	テーマ:「『これやりたい!』を語り合うワークショップ」 日 時: 令和5年1月13日 講 師: 株式会社 わらびの 代表取締役 畠中 智子 氏	地域活動についての思い、今後の活動プランについて、グループ混合やチームでのワークショップを実施した。23人の学生が参加し、意見を出し合った。
5	活動成果報告会	【立志社中及び立志のたまご】活動成果報告会 日時: 令和5年3月5日	各プロジェクトの活動を報告・評価し、成果や課題を共有することを目的として開催した。

【令和4年度全国公立大学学生大会 LINKtopos2022への参加】

10回目を迎える本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの対面開催となった。全国23の公立大学から約120人の学生・教職員が参加した。本学からは立志社中グループ等から学生3人、職員1人が参加し、全国の公立大学の学生・教職員と交流した。

テーマ : 「ReStart」

日 時 : 令和4年8月31日(水)～9月2日(金)

場 所 : 福知山公立大学

【コミュニティサービスラーニング(CSL)サポートデスク】

地域の抱える課題を認識し、課題解決への関心を高めた学生が、専門的な知識や技術など大学での学びの成果を活かして、域学共生の理念に基づき、ボランティア活動を行うコミュニティサービスラーニングを支援するための窓口として、平成28年5月から地域教育研究センターに設置している。

(1) ボランティア情報受付実績

延べ参加者数:44人

No.	概要	団体名	件数	参加学生数(人)
1	小津高校SSH事業課題研究TA	高知県立高知小津高等学校	1	12
2	小・中学校での学習支援(春季)	津野町教育委員会	1	9
3	小・中学校での学習支援(夏季)	三原村教育委員会	1	中止
4	小・中学校での学習支援	高知市教育委員会	1	11
5	ボランティアガイダンス2022の運営業務	NPO高知市民会議	1	12

【包括連携協定】

本協定は、各市町村や企業・NPO法人等の団体と本学が多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることにより、未来を担う人材の育成や活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

協定締結団体との連携

No.	団体名	事業名	期間等	概要	参加者等
1	高知市	学習支援ボランティア	月曜から金曜、 夏期・冬期の休業中	高知市の小・中学校へ学習支援の学生ボランティア募集、取りまとめと高知市との調整を行った。	本学学生 延べ233人
2	三原村	学習支援ボランティア	令和4年8月29日-9月2日	三原村の小・中学校へ学習支援の学生ボランティア募集、取りまとめと三原村との調整を行った。	中止
3	NPO高知市民会議	ボランティアガイダンス2022	令和4年11月13日	ボランティアガイダンス当日の会場設営や受付、司会などの運営業務を行った。	本学学生 12人
4	津野町	学習支援ボランティア	令和5年2月20日-2月24日 令和5年2月27日-3月3日	津野町の小・中学校へ学習支援や学校支援業務の学生ボランティア募集、取りまとめと津野町との調整を行った。	本学学生 延べ12人

【協力団体との連携強化に向けた取り組み】

さらなる連携の強化に向けて、高知県や市町村、学生受入団体等との情報交換を定期的に行っている。

(1) 開催実績

No.	会議名	実施日	概要	対象	出席者数(人)
1	連携推進会議	令和4年10月13日	地域教育研究センター及び健康長寿センターと自治体との連携事例について報告を行い、「集落活動調査の結果と本学との連携」をテーマに、出席者との情報共有や意見交換を行った。	包括連携協定を締結している 県内7市町村	32

VIII 健康長寿センター

健康長寿センターは、本学の学部が連携して、地域の人々の健康長寿の推進および健康長寿社会の構築に貢献する専門職者の最新の知識や技術の向上に努めることを目的として、平成22年4月に設置された。

センターは、平成30年度に改めて活動ポリシー(次表)をまとめ、5つの活動を行っている。

【活動状況】

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
I 高知県民の皆様 に対し健康長寿 を啓発する活動 (域学共生)	1. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(YouTube配信) ①「災害が起きたときー視覚障がい者への支援ー」 第1回 聴覚障がい者？手話？を知ろう！ 第2回 災害時に聴覚障がい者が困る事は？～自分にはできることはあるかな？～ 第3回 実際に手話を体験してみよう！	3	令和4年12月～令和5年1月公開、全3回シリーズ	公開後の閲覧回数 724回 (令和5年3月3日時点)	全ての方
	1. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(YouTube配信) ②「脱水症を予防しよう 一年間を通じて脱水予防のポイントを知ろう」 第1回 脱水症について知ろう 第2回 冬も脱水症を予防しよう 第3回 脱水症を予防しよう 暑い夏を乗り切るために	3	令和4年11月～令和5年2月公開、全3回シリーズ	公開後の閲覧回数 232回 (令和5年3月3日時点)	全ての方
	1. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(YouTube配信) ③「健康づくりのためのフットケアーこれからも元気で歩く「足」のためにー」 第1回 老化は足から！「知識編」	1	令和5年3月末～、全3回シリーズ	公開後の閲覧回数 144回 (令和5年4月4日時点)	全ての方
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ①おうちで毎日「健康体操」～体操を日常に取り入れて、転びにくくなる身体をつくっていきましょう！～(第39回 本山町公開講座 夜學(お昼の特別講座))	1	令和4年9月7日	28人	本山町、本山町老人クラブ連合会
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ②「老いを肯定的に考える～自分にとっての健康的な暮らしとはin津野町～」	1	令和4年12月12日	25人	津野町高野地区の高齢者の方々
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ③「健康寿命を延ばすために おうちで毎日「健康体操」～体操を日常に取り入れて、転びにくくなる身体をつくっていきましょう！～(令和4年度安芸市シルバー短期大学)	1	令和5年1月27日	27人	安芸市シルバー短期大学受講者
	3. 土佐市連携事業 ①とさっ子健診プロジェクト	6	令和4年6月7日 令和4年7月29日 令和4年8月28日 令和4年8月29日 令和4年12月17日 令和4年12月18日	251人	小学5・6年生 中学2・3年生
	3. 土佐市連携事業 ②土佐市地域ケア会議推進プロジェクト	-	通年	-	土佐市地域包括支援センター
	4. 健康長寿文庫(令和4年度72冊収蔵)	-	通年	-	

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
II 高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	1. 高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	4	令和4年7月28日-29日 令和4年10月22日-23日 令和4年12月17日-18日 令和5年2月11日-12日	26人	介護福祉士、介護職員、特別支援学校教員、保育士等、特定の者に対してたんの吸引等の行為を行う必要がある者
	2. 高知県中山間地域等訪問看護師育成講座～令和4年度訪問看護スタートアップ研修～	-	通年	20人	訪問看護ステーションに勤務する新任・新卒訪問看護師及び病院などに勤務する看護師
	3. 入退院支援事業	-	通年	1031人	県内病院・施設・福祉保健所・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ①集合型研修 高校生のためのWEB講座～社会福祉を分かりやすく学べます～	1	令和4年7月23日	141人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ②集合型研修 高校生のためのWEB講座～現場で働く卒業生からのLIVE配信～	1	令和4年9月23日	28人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ③集合型研修 高校生のためのWEB講座 アカデミックに福祉・介護を探求する	1	令和4年11月3日	92人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ④集合型研修 高校生のためのWEB講座 新2・3年生のための入門講座	1	令和5年3月22日	32人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ⑤訪問講座(計11校) 9/27は2校訪問	10	令和4年8月25日 令和4年9月21日 令和4年9月26日 令和4年9月27日 令和4年9月27日 令和4年9月28日 令和4年10月3日 令和4年11月11日 コロナ感染拡大にて中止 令和5年1月16日 令和5年2月8日	286人	高校生・高校教員
	5. 糖尿病保健指導連携体制構築事業	-	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	443人	モデル基幹病院の看護師

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者	
Ⅲ 高知医療センターとの包括的連携を推進する活動	1. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	-	-	-	-	
	2. 高知医療センター地域医療連携研修会の合同開催 「高齢化先進県だからこそできることを一緒に考えよう！」 ～介護現場における介護と医療の連携～	1	令和5年2月18日	63人	医療関係者、県民の方	
	3. 医療コンフリクト・マネジメント研修	1	令和4年12月3日	33人	高知医療センター職員、高知県立大学教職員・大学院生	
	4. 包括連携料理教室 「腎臓病食のポイント(カリウム制限)」(YouTubeによる動画配信)	1	令和5年2月20日-21日	12人	慢性腎臓病の患者とその家族	
	子育て支援事業 赤ちゃん同窓会	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の開催中止				
	教員による若手看護師のキャリア・サポート	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の開催中止				
	「専門職としてのキャリア・デザイン」	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の開催中止				
	病院前妊産婦救護に関するシミュレーションコース BLSO in 高知	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の開催中止				
	慢性疾患を有する患者対象の料理教室	新型コロナウイルス感染症拡大のため、YouTubeに変更				
活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者	
Ⅳ 高知県内の医療・健康・福祉専門職者のスキルアップに資する活動	1. リカレント教育講座 ①看護相談室(リカレント教育等)の広報活動	1	令和4年5月18日	646人	高知県内の看護職	
	1. リカレント教育講座 ②社会福祉学部リカレント教育講座 - ようこそ！知のフィールドへ -	1	令和4年10月16日	47人	保健・医療・福祉従事者・一般県民・高校生	
	2. 看護学部公開講座 フィジカルアセスメント研修	1	令和4年12月17日	4人	県内の卒後3年目まであるいはフィジカルアセスメントに自信がない看護師	
	3. 新任期行政栄養士研修会(1～2年目)	2	令和4年7月8日 令和4年12月9日	16人	高知県・県内市町村に所属する採用1・2年目の行政栄養士	
	4. 新任期保健師研修会	プリセプター能力育成研修	2	令和4年5月13日 令和5年3月13日	310人	高知県・県内市町村に所属する1～4年目の保健師
			2	令和4年11月4日 令和5年2月6日		
		2年目研修・地区診断	2	令和4年6月10日 令和4年12月16日		
			1	令和4年12月13日		
		4年目研修・PDCAサイクル	2	令和4年6月17日 令和5年2月10日		
		2	令和4年6月17日 令和5年2月10日			
新任保健師採血技術向上研修	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の開催中止					
精神看護リカレント教育(日本精神科看護協会 高知県支部西部地区研修会)	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の開催中止					

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
V 高知県の健康長 寿を研究する活 動	1. 研究から得られた知見を高知県内に発信する ①2022年度高知県内における褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査	-	-	-	-
	1. 研究から得られた知見を高知県内に発信する ②健康長寿研究のためのロジスティクス	-	-	-	-
	1. 研究から得られた知見を高知県内に発信する ③健康長寿に係る研究等一覧	-	-	-	-

IX 健康管理センター

【健康管理センター利用状況】

(単位:件、人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池 キャン パス	内 科	3	9	7	4	5	3	3	7	7	4	1	1	54
	外 科	6	10	3	9	0	4	6	5	1	2	2	0	48
	婦人科	2	1	5	6	1	0	4	6	1	0	0	0	26
	メンタルヘルス	41	46	30	16	6	8	31	26	13	19	41	25	302
	健診フォロー	48	24	10	1	1	0	1	0	0	0	0	0	85
	その他	107	76	100	99	55	37	72	144	249	256	74	39	1,308
	合計件数	207	166	155	135	68	52	117	188	271	281	118	65	1,823
	合計人数	195	154	145	124	68	52	110	187	259	274	109	64	1,741
永 国 寺 キャン パス	内 科	3	9	7	4	5	3	3	7	7	4	1	1	54
	外 科	6	10	3	9	0	4	6	5	1	2	2	0	48
	婦人科	2	1	5	6	1	0	4	6	1	0	0	0	26
	メンタルヘルス	29	26	44	37	28	22	58	45	25	26	19	16	375
	健診フォロー	11	18	30	2	1	0	0	0	0	4	0	0	66
	その他	69	78	80	105	35	23	77	88	102	151	31	10	849
	合計件数	120	142	169	163	70	52	148	151	136	187	53	27	1,418
	合計人数	108	112	121	141	57	39	131	138	113	191	57	23	1,231
総計	合計件数	327	308	324	298	138	104	265	339	407	468	171	92	3,241
	合計人数	303	266	266	265	125	91	241	325	372	465	166	87	2,972

【精神科医師によるメンタルヘルス相談】

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		4	4	5	4	/	0	3	2	1	3	1	4	31
永国寺キャンパス		2	2	2	2	/	1	1	1	1	2	4	/	18
合計件数		6	6	7	6	0	1	4	3	2	5	5	4	49

【カウンセラーによるメンタルヘルス相談】

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		2	5	6	4	1	4	5	3	0	1	4	3	38
永国寺キャンパス		3	3	5	10	2	4	7	3	3	2	3	1	46
合計件数		5	8	11	14	3	8	12	6	3	3	7	4	84

【産婦人科医師及び助産師による婦人科相談】

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		/	/	2	3	/	/	/	0	/	/	/	/	5
永国寺キャンパス		/	/	1	0	/	/	/	0	/	/	/	/	1
合計件数		/	/	3	3	/	/	/	0	/	/	/	/	6

【定期健康診断】

①実施内容一覧

月日	4月2日(土)	月日	4月10日(日)
場所 (時間)	池キャンパス (8時50分～16時00分)	場所 (時間)	永国寺キャンパス (8時50分～16時00分)
対象者	看護学部2、4回生 社会福祉学部2、4回生 健康栄養学部2、4回生 研究科(希望者)	対象者	文化学部2、3、4回生 研究科(希望者)
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査:一部学生＞ ※B型肝炎抗体検査 看護学部2回生の一部学生 健康栄養学部4回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査:一部学生＞ ※4種感染症抗体検査 文化学部3回生の一部学生
月日	4月3日(日)	月日	4月24日(日)
場所 (時間)	池キャンパス (8時50分～12時00分)	場所 (時間)	永国寺キャンパス (8時50分～16時00分)
対象者	看護学部3回生 社会福祉学部3回生 健康栄養学部3回生 研究科(希望者)	対象者	看護学部1回生 社会福祉学部1回生 健康栄養学部1回生 文化学部1回生・3年次編入生(夜間主含む) 研究科1回生(希望者)
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査:一部学生＞ ※B型肝炎抗体検査 看護学部3回生の一部学生 健康栄養学部3回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査＞ ※B型肝炎抗原抗体検査・4種感染症抗体検査 看護学部1回生 社会福祉学部1回生 健康栄養学部1回生 看護学研究科1回生(希望者)

※印の内容は、施設実習のために必要な項目であり、定期健康診断時に併せて実施した。

4種感染症:麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎

特記:上記実施日に健康診断できなかった学生に対しては、委託施設にて個別に実施した。

②学年・学科別学部生 健康診断受診状況

学年	学 科	対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査	
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	文化(昼)	132	129	97.7%	129	98.4%	129	98.4%
	文化(夜)	30	30	100.0%	30	100.0%	30	100.0%
	看 護	83	83	100.0%	83	100.0%	83	100.0%
	社会福祉	75	75	100.0%	75	98.6%	75	98.6%
	健康栄養	42	42	100.0%	42	100.0%	42	100.0%
2	文化(昼)	124	120	96.8%	121	98.4%	121	98.4%
	文化(夜)	20	19	95.0%	19	90.3%	19	90.3%
	看 護	85	85	100.0%	85	100.0%	85	100.0%
	社会福祉	73	72	100.0%	72	100.0%	72	100.0%
	健康栄養	43	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%
3	文化(昼)	121	117	96.7%	117	94.9%	116	94.9%
	文化(夜)	28	26	92.9%	26	82.1%	26	82.1%
	看 護	80	80	100.0%	80	100.0%	80	100.0%
	社会福祉	78	78	100.0%	78	98.6%	78	98.6%
	健康栄養	39	39	100.0%	39	100.0%	39	100.0%
4	文化(昼)	133	114	85.7%	114	96.7%	114	96.1%
	文化(夜)	38	25	65.8%	25	60.0%	25	60.0%
	看 護	79	79	100.0%	79	100.0%	79	100.0%
	社会福祉	73	72	98.6%	72	97.4%	72	97.4%
	健康栄養	41	41	100.0%	41	100.0%	41	100.0%
合 計		1,417	1,369	96.6%	1,370	96.7%	1,369	96.6%
前年度		1,439	1,398	97.2%	1,398	97.2%	1,397	97.1%

※受検率は、在籍数から休学者・留学中・中途退学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

③大学院生 健康診断受診状況

学年	研究科	対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査		
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	
1	看護学	13	10	76.9%	10	76.9%	10	76.9%	
	(再掲)	前期課程	11	10	90.9%	10	100.0%	10	90.9%
		後期課程	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学	2	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%	
	(再掲)	前期課程	2	1	50.0%	1	50.0%	3	50.0%
		後期課程	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	看護学	21	11	52.4%	11	52.4%	11	52.4%	
	(再掲)	前期課程	18	11	61.1%	11	61.1%	11	61.1%
		後期課程	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学	11	1	9.1%	1	9.1%	1	9.1%	
	(再掲)	前期課程	8	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%
		後期課程	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	看護学博士後期課程	9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	人間生活学博士後期課程	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
4以上	看護学博士後期課程	3	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	
合計		61	24	39.3%	24	39.3%	24	39.3%	
前年度		53	38	71.7%	39	73.6%	39	73.6%	

※受検率は、在籍数から休学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

【学生精神的健康調査(UPI調査)】

- ・対象者：全学部生(文化学部編入生を含む) 但し、休学中の学生及び科目履修生、外国人留学生(1年未満)、特別聴講学生、委託生、留学中の学生は除く。
- ・調査期間：令和3年4月4日(日)～令和3年7月末日
- ・実施方法：定期健康診断時に実施。
未受診者は、個別受診の説明時に健康管理センターで実施。

学部	学年	対象者数	実施数	実施率
看護学部	1	83	83	100.0%
	2	85	85	100.0%
	3	80	80	100.0%
	4	79	79	100.0%
社会福祉学科部	1	75	75	100.0%
	2	72	72	100.0%
	3	78	78	100.0%
	4	73	72	98.6%
健康栄養学部	1	42	42	100.0%
	2	43	43	100.0%
	3	39	39	100.0%
	4	41	41	100.0%
池キャンパス小計		790	789	99.9%
文化学部	1	132	129	97.7%
	2	124	120	96.8%
	3	121	117	96.7%
	4	133	114	85.7%
文化学部 (夜間主)	1	30	30	100.0%
	2	20	19	95.0%
	3	28	26	92.9%
	4	38	25	65.8%
永国寺キャンパス小計		626	580	92.7%
合計		1,416	1,369	96.7%

X 国際交流

1 正規学生(留学生)数の推移

区分	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
大学院	6	7	5	7	5
学部	9	9	9	12	11
計	15	16	14	19	16

2 協定校数の推移

年	2018 (H30)	2109 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
協定校数	14	16	15	16	15

3 協定校一覧

大学名	国名	締結年月
ゲント大学	ベルギー	2021年10月
慶尚国立大学校	韓国	2021年 6月
開南大 學	台湾	2019年11月
弘光科技大 學	台湾	2019年 4月
ワシントン大学継続教育部	アメリカ	2018年10月
インドネシア大学	インドネシア	2018年 9月
アンダラス大学	インドネシア	2017年 2月
ウボンラーチャタニ大学	タイ	2016年12月
木浦大 學校	韓国	2016年10月
ガジャマダ大学	インドネシア	2013年11月
サバ大学	マレーシア	2012年11月
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	イタリア	2011年12月
文藻外語大 學	台湾	2007年 1月
北京聯合大学旅游学院	中国	2006年11月
エルムズカレッジ	アメリカ	1998年10月

4 協定大学への派遣実績

協定大学	2019(令和元)年度			2020(令和2)年度			2021(令和3)年度			2022(令和4)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北京聯合大学旅游学院	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大 學	6	2	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ガジャマダ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慶尚国立大 學校	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
木浦大 學校	7	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弘光科技大 學	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アンダラス大学	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウボンラーチャタニ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	31	8	7	0	0	0	0	2	0	0	4	0

5 協定大学からの受入実績

協定大学	2019(令和元)年度			2020(令和2)年度			2021(令和3)年度			2022(令和4)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	9	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北京聯合大学旅游学院	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大學	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	9	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0
ガジヤマダ大学	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慶尚国立大學校	15	1	2	0	0	0	0	0	0	28	0	2
木浦大學校	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弘光科技大學	17	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アンダラス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	75	5	8	0	0	0	0	1	0	36	2	2

6 外国人学生に対するプログラム

(1) 協定校からの受入

プログラム名	対象大学	受入数(人)
国際日本学プログラム	ヴェネツィア カ・フォスカリ大学	8

(2) 協定校以外からの受入

事業名	機関	実施期間	受入数(人)
実績なし			

7 海外機関との共同研究・教育事業支援

講義名	主催者	実施日	対象者	参加数(人)
国際学術交流5 アメリカ、エルムズカレッジオンライン交流会	高知県立大学 エルムズカレッジ	令和4年2月23日	高知県立大学の学生	7
			エルムズカレッジの学生	5
国際学術交流6 台湾 弘光科技大學「サマープログラム」 オンライン	弘光科技大學	令和4年7月12日～ 23日	高知県立大学の学生	3
国際学術交流7 カナダ、トロント大学のオンライン研修 Global Citizenship Challenge	トロント大学	令和4年3月6日～ 10日	高知県立大学の学生	12
国際学術交流8 台湾 弘光科技大學との「オンライン交流会 ～多文化共生について～」	高知県立大学国際交流セ ンター	令和4年11月24日	弘光科技大學の学生	6
			高知県立大学の学生	3
国際学術交流9 韓国 慶尚国立大學校との「オンライン交流 会～多文化共生について～」	高知県立大学国際交流セ ンター	令和4年12月21日	慶尚国立大學校の学生	20
			高知県立大学の学生	5

8 外国人留学生を対象とした交流活動

活動名	実施日	参加者
高知県立大学秋のバスハイク	令和4年9月26日	行先: 高知県安芸市内原野焼 (参加者12名、引率2名)
土佐女子中高等学校との交流	令和4年10月27日	イタリア研修生8名

XI 開かれた大学

1 公開講座等実施状況

○公開講座等

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
文化学部	国際日本学レクチャーシリーズ 第59号 「遠いようで近いウクライナと日本歴史と文化のきずな」	1	令和4年11月11日	25	学生・教職員・一般
	国際日本学レクチャーシリーズ 番外編 「これからの学び・ワークプレイス」	1	令和4年11月18日	49	学生・教職員・一般
	国際日本学レクチャーシリーズ 第60号 「カンボジアの伸縮する湖と暮らす人々ー私がトクレーサー湖にわざわざ行く理由ー」	1	令和4年12月2日	16	学生・教職員・一般
学看護部	高校生のための看護学を学ぶ公開講座 「ピアサポートと看護」(看護研究)	1	令和4年12月11日	19	高校生
社会福祉学部	リカバリーカレッジ高知へGO！(体験会、座談会)	2	令和4年7月23日 令和4年7月24日	147	学生・教職員・一般
	リカバリーカレッジ高知 秋講座	6	令和4年9月17日 令和4年9月22日 令和4年10月1日 令和4年10月10日 令和4年10月17日 令和4年10月29日	21	学生・教職員・一般
	リカバリーカレッジ高知 冬講座	6	令和4年12月4日 令和4年12月12日 令和4年12月17日 令和5年1月21日 令和5年2月3日 令和5年2月5日	27	学生・教職員・一般

○リカレント講座

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
看護学部	<がん看護学領域>リカレント教育 第1回「易怒性、認知機能の低下により治療の継続が困難な患者へのかかわり」 第2回「高齢がん患者の在宅療養を支えるがん治療病院と地域の病院・支援者との連携」	2	令和4年10月1日 令和5年2月18日	30	専門職者
	<がん看護学領域>ケア検討会 第1回「精神症状のある再発・進行がん患者へのリラクゼーション法」 第2回「リンパ浮腫のある再発・進行がん患者への緩和ケア」	2	令和4年8月27日 令和5年2月4日	18	専門職者
	<慢性期看護学領域>リカレント教育 第1回「糖尿病足病変に対する看護実践報告の現状と課題 ～CNS 実践事例から得られた介入のヒント～」	1	令和4年7月30日	21	専門職者
	<慢性期看護学領域>ケア検討会 第1回「糖尿病足病変が重症化した壮年期男性～社会環境と家族員としての病体験の影響～」 第2回「看護師を攻撃する患者の背景の理解とケア」	2	令和4年7月30日 令和5年3月10日	32	専門職者
	<急性期看護学領域>リカレント教育 「集中治療後症候群(PICS)予防における専門看護師の専門実践」	1	令和4年9月27日	7	専門職者
	<急性期看護学領域>ケア検討会(看護相談室) 第1回「クリティカルケア看護学ケア検討会」 第2回「クリティカルケア看護学ケア検討会」	2	令和4年6月4日 令和4年10月8日	14	専門職者

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
看護学部	<母性・助産看護学領域> ケア検討会 「長期入院となった切迫早産妊婦へのケア」	1	令和4年11月18日	21	専門職者
	<老人看護学領域> ケア検討会 第1回「事例検討」 第2回「事例検討」	2	令和4年6月14日 令和4年11月8日	20	修了生・在 学生
	<老人看護学領域> リカレント教育 「どうするGero CNS !?」	1	令和5年2月10日	7	大学院生・ 修了生・地 域の看護師
	<精神看護学領域> リカレント教育 本学健康長寿センター・日本精神科看護協会高知県支部との共催で高知県 西部地区研修会を企画し準備を進めていたが、COVID-19 の感染拡大に伴 い中止		中止		
	<精神看護学領域> ケア検討会 (精神看護専門看護師 実践事例検討会) 第1回「CNS と組織」 第2回「コンサルテーション」 第3回「家族看護」 第4回「職員のメンタルヘルス支援」	4	令和4年6月16日 令和4年9月15日 令和4年12月24日 令和5年3月16日	56	本学大学院 生・本学修 了生・他大 学修了生・ 教員
	<家族看護学領域> リカレント教育 第1回「理論で遊ぼう① 家族システム理論」 第2回「事例検討:精神的な不安定さを抱える妊産婦の家族の事例」 第3回「社会の変化と家族の変化と家族看護のあり方(ダブルケア)」 第4回「事例検討:退院後に医療者への不満を表出する家族の事例」 第5回「理論で遊ぼう② 家族発達理論」 第6回「事例検討:虐待が疑われる家族の事例」 第7回「家族支援における倫理調整」 第8回「事例検討:低酸素脳症により介護が必要となった壮年期患者の家族の 事例」	8	令和4年5月20日 令和4年6月17日 令和4年7月15日 令和4年10月15日 令和4年11月18日 令和4年12月16日 令和5年1月20日 令和5年2月17日	75	修了生・大 学院在学 生・教員
	<家族看護学領域> ケア検討会 COVID-19 の感染拡大防止に伴う本学の方針により、学外者の構内立ち入り 制限が継続されていたため、開催を中止		中止		
	<在宅看護学領域> リカレント教育 修了生Web 交流会	1	令和4年8月26日	11	専門職者
	<在宅看護学領域> ケア検討会 第1回「COPD をもつ療養者のライフスタイルの尊重と生活調整に向けたケア」 第2回「終末期にある本人と家族の合意に向けたACP」	2	令和4年11月17日 令和5年2月16日	23	専門職者
	<看護管理学領域> リカレント教育 「コロナ禍でも大切にしたい看護」	1	令和5年2月23日	20	専門職者
	<看護管理学領域> ケア検討会 第1回「スタッフのモチベーション対策と管理者の関わり」 第2回「外部環境の変化に伴う看護管理者の役割～対応困難事例の患者・家 族への支援を通して～」	2	令和4年6月17日 令和4年10月14日	52	専門職者
	<災害・国際看護学領域> リカレント教育 「コロナ禍でも大切にしたい看護」	1	令和5年2月23日	20	専門職者
	<災害・国際看護学領域> ケア検討会 第1回「災害時に病院に押し寄せる傷病者と被災者の対応」 第2回「激甚災害発生時の情報収集と才能マッチング」	2	令和4年6月23日 令和4年11月17日	32	専門職者
	<災害・国際看護学領域> ケア検討会 「土佐まるごとビジネスアカデミー専科シーズ研究内容紹介オンライン講座」	1	令和4年7月～ 令和5年3月		

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
看護学部	<p><地域看護学領域> リカレント教育 高知県保健師人材育成研修会 8回(うち1回は書面指導)</p>	8	令和4年6月10日 令和4年6月17日 令和4年11月4日 令和4年12月13日 令和4年12月16日 令和5年2月6日 令和5年2月10日	199	専門職者
社会福祉学部	社会福祉学部リカレント教育講座ーようこそ知のフィールドへー 講座1「生活と向き合う支援とはーソーシャルワークは何ができるのか」 講座2「介護現場における介護従事者が利用者や家族等から受けるハラスメントについて」(同日2つの講座をオンラインにてライブ配信)	1	令和4年10月16日	47	保健・医療・福祉従事者・一般県民・高校生

2 学会役員等の状況

(1) 学会の理事・幹事

学部	職名	氏名	学会名	理事・幹事の別
文化学部	教授	五百藏 高浩	英語コーパス学会	幹事
			四国英語教育学会	理事、紀要編集委員、査読委員
			大学英語教育学会中四国支部	支部企画研究委員、査読委員
			The Korean Association of English for Specific Purposes	International Cooperation Director & Editor
	教授	井上 次夫	日本語教育学会	審査・運営協力員
	教授	宇都宮 千穂	社会経済史学会中国四国部会	理事
	教授	橋尾 直和	流域圏学会	理事、編集・出版委員
			土佐民俗学会	常任理事
			物部庄谷相・拓の歴史と文化を考える会	副会長
			土佐歴史資料研究会	理事
			いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会	理事
			土佐民俗文化研究会	世話人
	教授	東原 伸明	中古文学会	年度委員
			学術団体物語研究会	委員
	教授	三浦 要一	日本建築学会民家小委員会	主査
	准教授	飯高 伸五	日本オセアニア学会	理事・評議員
	准教授	金澤 俊吾	英語コーパス学会	理事
			日本英文学会	編集委員
			英語語法文法学会	大会運営委員、編集委員
			日本言語学会	学会誌査読者
			日本認知言語学会	大会査読委員
	准教授	梶原 太一	日本会計教育学会	幹事
			日本会計教育学会	全国大会準備委員
			日本会計教育学会	スタディ・グループ委員
	准教授	菊池 直人	総合法政策研究会	副会長
			日本保険学会	関西部会幹事
	准教授	田中 裕也	日本近代文学会	関西支部運営委員
			昭和文学会	編集委員
	准教授	鳥飼 真人	英語英文学会片平会	事務局長
			日本ロレンス協会	評議員
テキスト研究学会			編集委員	
准教授	根岸 忠	アジア法学会	理事、企画委員	
		総合法政策研究会	副会長	
准教授	吉川 孝	日本現象学会	委員・企画実行委員長	
		日本倫理学会	共通課題実施委員	
		実存思想協会	幹事	

学部	職名	氏名	学会名	理事・幹事の別
看護学部	教授	畦地 博子	日本精神保健看護学会	理事・代議員
			日本看護科学学会	代議員
	教授	池添 志乃	日本養護教諭養成大学協議会	副会長
			日本学校保健学会	理事
			日本家族看護学会	評議員
			日本養護教諭教育学会	評議員
			中国・四国学校保健学会	理事
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護倫理学会	代議員
	教授	池田 光徳	日本皮膚科学会高知地方会	幹事
	教授	内田 雅子	日本慢性看護学会	評議員
	教授	瓜生 浩子	日本看護科学学会	代議員
			日本家族看護学会	評議員
	教授	大川 宣容	日本がん看護学会	代議員
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護シミュレーションラーニング学会	理事
			日本看護シミュレーションラーニング学会編集委員会	委員長
	教授	久保田 聡美	日本禁煙学会	特任理事、資格制度委員会委員
			日本クリニカルパス学会	評議員、学術・出版委員
			日本看護科学学会	代議員
	教授	田井 雅子	日本精神保健看護学会	代議員
	教授	竹崎 久美子	日本老年看護学会	評議員
			日本災害看護学会	第24回年次大会大会長
	教授	長戸 和子	日本看護科学学会	代議員
			日本家族看護学会	理事
	教授	藤田 佐和	日本がん看護学会	理事
			日本緩和医療学会	代議員
			日本慢性看護学会	代議員
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護倫理学会	評議員
教授	森下 安子	日本在宅ケア学会	理事	
教授	山田 覚	日本災害看護学会	理事・代議員	
		日本看護科学学会	代議員	
		日本医療・病院管理学会	評議員	
		日本看護管理学会	評議員	
教授	渡邊 聡子	日本災害看護学会	推薦理事	
特任教授	神原 咲子	日本災害看護学会	理事	
		日本国際保健医療学会	代議員	
准教授	川上 理子	日本在宅ケア学会	代議員	
准教授	嶋岡 暢希	高知県母性衛生学会	理事	
講師	有田 直子	日本小児看護学会	評議員	
助教	田之頭 恵里	日本移植・再生医療看護学会	評議員	

学部	職名	氏名	学会名	理事・幹事の別
社会福祉学部	教授	杉原 俊二	KJ法学会	運営委員・編集委員
			日本社会福祉学会	中国四国地域ブロック運営委員(研究担当) 所属学会等の編集協力(査読者)
			日本人間科学研究会	常務理事
	教授	西内 章	日本地域福祉学会	地方委員
	准教授	西梅 幸治	日本学校ソーシャルワーク学会	中国四国ブロック運営委員
			日本学校ソーシャルワーク学会	第17回全国大会実行委員
	講師	辻 真美	日本介護福祉学会	評議員
助教	福田 敏秀	日本認知症予防学会	代議員	
		日本認知症ケア学会	代議員	
健康栄養学部	教授	荒牧 礼子	日本未病学会	評議員
	教授	村上 尚	日本肥満学会	評議員
	教授	渡邊 浩幸	日本食品保蔵科学会	HACCP専任講師
			日本食品保蔵科学会	HACCP委員会委員
			日本栄養・食糧学会	代議員
	特任教授	笠原 賀子	日本栄養改善学会	評議員
			日本栄養・食糧学会	参与
			日本栄養学教育学会	代議員
			日本臨床栄養協会	評議員
			日本健康教育学会	評議員
	准教授	島田 郁子	日本家政学会中国・四国支部	常任幹事・機関幹事
	准教授	竹井 悠一郎	日本栄養改善学会	評議員
			日本栄養・食糧学会	参与
助教	竹本 和仁	日本食品保蔵科学会	HACCP専任講師	
		日本栄養・食糧学会	参与	
研究地域センター教育	教授	石山 貴章	日本職業リハビリテーション学会	理事
	教授	一色 健司	日本分析化学会	中国四国支部常任幹事
			流域圏学会	副会長理事、総務委員長、事務局長
			高知地区分析技術懇談会	会長
	教授	清原 泰治	日本スポーツ産業学会	スポーツ産業史専門分科会運営委員
教授	鈴木 康郎	日本比較教育学会	紀要編集委員会委員	

(2) 教員が受託した審議会・委員会の委員等

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
文化学部	教授	五百藏 高浩	国立大学教育研究評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
			れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会委員	高知市長
			マイプロジェクト発表会審査委員会委員	高知県立嶺北高等学校長
	教授	岩倉 秀樹	高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
			高知県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員	高知県後期高齢者医療広域連合長
			こうち人づくり広域連合情報公開・個人保護審査会委員	こうち人づくり広域連合長
			高知弁護士会懲戒委員会委員	高知弁護士会会長
	教授	宇都宮 千穂	高知市公文書管理検討委員会	高知市長
			高知市立自由民権記念館協議会委員	高知市教育委員会高知市教育長
			高知市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例見守り委員	高知市長
			高知市都市計画審議会委員	高知市長
			高知市住宅審議会委員	高知市長
			高知市建築審査会委員	高知市長
			須崎市図書館等複合施設整備事業プロポーザル審査委員	須崎市長
	繊維産業最低賃金専門部会及び紙産業界内労働部会委員	高知労働局長		
	教授	大井 方子	高知地方最低賃金審議会委員	高知労働局長
			高知県地域職業能力開発促進協議会委員	高知労働局長
			高知県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構高知支部 高知職業能力開発促進センター所長
			高知県職業能力開発審議会委員	高知県知事
			高知県立海岸緑地公園指定管理者審査委員	高知県知事
			高知県立都市公園等指定管理者審査委員	高知県知事
	教授	大村 誠	スーパーサイエンスハイスクール岡山県立津山高等学校運営指導委員会委員	岡山県教育委員会教育長
			令和4年度学校防災アドバイザー	高知県教育長
			寺田寅彦記念賞選考委員	高知県文教協会理事長
	教授	高西 成介	大原富枝文学賞審査員	本山町立大原富枝文学館館長
			高知県出版文化賞選考委員	高知県文教協会理事長
			高知県国際交流協会評議員	高知県国際交流協会代表理事
	教授	橋尾 直和	高知県民俗芸能緊急調査委員	高知県教育長
			高知市文化財保護審議会委員	高知市教育長
	教授	三浦 要一	高知県史編さん編集委員会委員	高知県知事
高知県史編さん文化財専門部会副会長			高知県知事	
高知県文化賞選定委員			高知県知事	
高知県文化財保護審議会第1部会長			高知県知事	
高知県文化財専門委員			高知県知事	
札所詳細調査検討委員会委員長			高知県文化・生活スポーツ部長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
文化学部	教授	三浦 要一	史跡高知城跡整備計画推進委員会委員	高知県文化生活スポーツ部長
			高知市文化財保護審議会副会長	高知市長
			高知出版学術賞審査委員	高知市文化振興事業団理事長
			重要文化財木村家住宅修理委員会委員長	三好市長
			史跡高松城跡整備会議委員	高松市教育委員会
			独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者	独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成第二課
			日本建築学会建築歴史・意匠委員会委員	日本建築学会建築歴史・意匠委員長
	教授	ヨース・ジョエル	高知県英文公文書アドバイザー	高知県文化生活スポーツ部国際交流課長
			高知市出版学術賞選考委員	高知市長
	准教授	飯高 伸五	高知県史編さん委員会民俗部会委員	高知県知事
			国立民族学博物館共同研究員	国立民族学博物館長
	准教授	梶原 太一	高知県社会貢献活動支援推進会議委員	高知県知事
			高知県社会貢献活動支援推進会議公募委員選考委員会委員	高知県知事
			高知市中小企業・小規模企業振興審議会委員	高知市長
			高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会委員	高知市長
			高知市雇用創出促進協議会構成員	高知市雇用創出促進協議会長
			高知市民の大学運営委員	高知市民の大学運営委員会委員長
	准教授	菊池 直人	高知県公立大学生生活協同組合副理事長	高知県公立大学生生活協同組合
			こうち生活協同組合有識者理事	こうち生活協同組合
			高知県LPガスお客様相談所相談委員会議委員	高知県LPガス協会 会長
			高知県消費生活審議会委員	高知県知事
			高知県公文書管理委員会委員	高知県知事
			高知市消費生活審議会委員	高知市長
			土佐市個人情報保護運営審議会会長	土佐市長
			高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
	准教授	清水 直樹	特別研究員等審査会委員	独立行政法人日本学術振興会理事長
准教授	根岸 忠	高知県地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員	高知地方裁判所 所長	
		高知県個人情報保護審査会委員	高知県知事	
		委嘱研究員	関西大学法学研究所 所長	
准教授	向井 真樹子	高知地方労働審議会臨時委員	高知労働局長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	教授	畦地 博子	精神保健看護学会編集委員会委員長	日本精神保健看護学会理事長
			学術集会部会委員	日本精神科看護協会会長
			大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)専門委員	文部科学省高等教育局長
	教授	池添 志乃	令和4年度高知県スクールヘルスリーダー連絡協議会委員	高知県教育委員会事務局 保健体育課長
			令和5年度(令和4年度実施)高知県公立学校教員採用候補者選考審査第1次審査筆記審査 研究員	高知県教育委員会事務局 教職員・福利課長
			令和5年度(令和4年度実施)高知県公立学校教員採用候補者選考審査 筆記審査問題調査研究 問題研究員	高知県教育長
			令和4年度保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員	高知県看護協会会長
			高知県衛生環境研究所倫理審査委員会委員	高知県衛生環境研究所長
	教授	池田 光徳	相模女子大学・相模女子大学短期大学部ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会外部委員	相模女子大学 相模女子大学短期大学部学長
			令和4年度高知県健康づくり推進協議会委員	高知県健康政策部 保健政策課長
			高知大学「地域医療を支える四国病院経営プログラム」評価委員会委員	国立大学法人 高知大学学長
			高知県地方薬事審議会委員	高知県健康政策部 薬務衛生課
	教授	内田 雅子	高知県糖尿病医療提供体制検討会議	高知県健康政策部保健政策課長
	教授	瓜生 浩子	日本家族看護学会教育促進委員会委員	日本家族看護学会理事長
	教授	大川 宣容	一般財団法人日本看護学教育評価機構 理事	一般財団法人日本看護学教育評価機構代表理事
	教授	木下 真里	令和4年度南海トラフ地震対策広報番組制作放送委託業務に関するプロポーザル審査委員会委員	高知県総務部 広報広聴課長
			令和4年度南海トラフ地震対策啓発推進事業委託業務プロポーザル審査委員会委員長	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
			日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
			高知市防災会議委員、高知市防災会議幹事会幹事	高知市長
			令和4年度高知県防災啓発動画制作委託業務プロポーザル審査委員会委員長	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
	教授	久保田 聡美	入院機能に応じた看護職員配置に関する調査検討委員会委員	公益社団法人日本看護協会 会長
高知県健康づくり推進協議会たばこ対策専門部会委員			高知県健康政策部 健康長寿政策課長	
日本災害看護学会第24回年次大会企画委員			日本災害看護学会第24回年次大会大会長	
評価調査者(看護サーベイヤー)			公益財団法人日本医療機能評価機構 代表理事 理事長	
第26回日本看護管理学会学術集会一般演題査読			一般社団法人日本看護管理学会理事長 第26回日本看護管理学会学術集会会長	
教授	竹崎 久美子	令和4年度災害看護委員会委員	高知県看護協会会長	
教授	長戸 和子	令和4年度新人看護職員研修検討会委員	高知県看護協会会長	
		日本看護系大学協議会 高度実践看護師教育課程認定委員会 家族看護専門分科会委員	一般社団法人日本看護系大学協議会 高度実践看護師教育課程認定委員会 委員長	
		高知県の看護を考える検討委員会委員	高知県健康政策部 医療政策課長	
教授	中野 綾美	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長	
		一般財団法人日本看護学教育評価機構 評価基準検討委員会委員	一般財団法人日本看護学教育評価機構代表理事	
		基準委員会委員	公益財団法人 大学基準協会 会長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	教授	藤田 佐和	日本看護系大学協議会 高度実践看護師教育課程認定委員会 がん看護専門分科会副委員長	日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会委員長
			独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
			令和4年度高知県ナースセンター運営協議会委員	高知県看護協会会長
			高知県・高知市病院企業団高知医療センター地域医療支援病院運営委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター病院長
			高知県国民健康保険運営協議会委員	高知県健康政策部長
			科学研究費委員会専門委員	独立行政法人 日本学術振興会 理事長
			博士學位論文審査委員会委員	北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科長
			高知県がん教育推進協議会委員	高知県教育委員会
			中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム理事	会長・協議会議長
			高知県ヘルスイノベーション推進協議会委員	高知県知事
			高知医療センター治験審査委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 企業超山本治
	教授	森下 安子	高知市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	高知市長
			高知市地域包括支援センター運営協議会委員	高知市長
			高知県訪問看護推進協議会委員	高知県健康政策部 在宅療養推進課長
			令和4年度高知県看護協会第1副会長、地域包括ケア検討委員会委員、在宅領域看護検討会委員	高知県看護協会会長
			高知県介護支援専門員研修等向上委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長寿社会課長
			高知市在宅医療・介護連携推進委員会委員	高知市長(高知市地域共生社会推進課)
			高知県高齢者保健福祉推進委員会委員	高知県知事
			高知県教育委員	高知県知事
			いの町地域包括支援センター運営協議会委員	いの町長
			いの町地域密着型サービス運営委員会委員	いの町長
			いの町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	いの町長
			日高村地域包括支援センター運営協議会委員	日高村村長
			日高村地域密着型サービス運営委員会委員	日高村村長
			日高村認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	日高村村長
	教授	山田 覚	令和4年度認定看護管理者教育運営委員会委員	高知県看護協会会長
			日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
	教授	渡邊 聡子	日本災害看護学会 編集委員会委員長 COIマネジメント委員会委員	日本災害看護学会理事長
			日本母性看護学会 評議員	日本母性看護学会理事長
			高知県性教育推進協議会委員	高知県教育委員会事務局 保健体育課長
	准教授	小澤 若菜	高知産業保健総合支援センター産業保健相談員	高知産業保健総合支援センター所長
			保健事業支援・評価委員会委員	高知県国民健康保険団体連合会理事長
			令和4年度保健師職能委員会委員、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
土佐市災害時要配慮者支援体制連絡協議会委員			土佐市長	
香南市自転車活用推進計画策定委員会委員			香南市長	
高知市地域保健推進協議会委員			高知市長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	准教授	川上 理子	「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」 ニーズ・シーズ マッチング支援事業 マッチングサポーター	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所先端技術戦略ユニット ユニット長
	准教授	嶋岡 暢希	令和4年度助産師職能理事、助産師職能委員会委員、地域包括ケア検討委員会委員、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
			高知県周産期医療協議会委員	高知県健康政策部長
	准教授	高谷 恭子	令和4年度高知県小児救急電話相談事業運営協議会委員	高知県看護協会会長
			日本小児看護学会誌専任査読者	日本小児看護学会理事長
			日本小児看護学会倫理委員会委員	日本小児看護学会理事長
			日本看護学会誌査読委員	日本看護協会会長
	准教授	藤代 知美	日本精神保健看護学会災害対策委員	日本精神保健看護学会理事長
			日本精神保健看護学会編集委員会査読委員	日本精神保健看護学会理事長
	准教授	森下 幸子	高知県訪問看護推進協議会委員	高知県健康政策部 在宅療養推進課長
			訪問看護ステーション運営委員会委員、在宅領域看護検討会委員委員	高知県看護協会会長
			高知県重症心身障害児者等支援体制整備協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			令和4年度日本一の健康長寿県構想広報番組制作放送委託業務に関するプロポーザル審査委員会委員	高知県総務部 広報広聴課長
			人生の最終段階における医療・ケア検討会議委員	高知県健康政策部在宅療養推進課長
	講師	有田 直子	一般社団法人日本小児看護学会 社員総会(評議員会)評議員	一般社団法人日本小児看護学会理事長
			一般社団法人日本小児看護学会編集委員会委員	一般社団法人日本小児看護学会理事長
			日本小児看護学会誌専任査読者	一般社団法人日本小児看護学会理事長
			高知市医療的ケア児および重度の障害のある子どもの支援検討会委員	高知市長
			日本小児がん看護学会 専任査読者	日本小児がん看護学会
	講師	岩崎 順子	令和4年度看護研究倫理審査委員会委員	高知県看護協会会長
	講師	小原 弘子	日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
			倫理委員会委員	社会医療法人 近森会 理事長
			日本看護シミュレーションラーニング学会 研修企画委員会委員	一般社団法人日本看護シミュレーションラーニング学会 理事長
助教	中井 美喜子	日本看護シミュレーションラーニング学会 委員会委員	一般社団法人日本看護シミュレーションラーニング学会 理事長	
		日本看護シミュレーションラーニング学会誌 専任査読者	一般社団法人日本看護シミュレーションラーニング学会 理事長	
特任助教	三浦 由紀子	令和4年度研究学会委員会委員、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長	
		日本専門看護師協議会 会則委員会委員	日本専門看護師協議会代表	
特任教授	野嶋 佐由美	高知県防災会議委員	高知県知事	
		こうち男女共同参画会議委員	高知県知事	
		公益財団法人高知県文化財団理事	公益財団法人高知県文化財団理事長	
		高知県国際交流協会理事	公益財団法人高知県国際交流協会 事務局長	
		高知県医療審議会委員	高知県知事	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
社会福祉学部	教授	杉原 俊二	令和4年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育長
			高知県児童福祉審議会委員	高知県子ども・福祉政策部 子ども家庭課長
			高知県社会福祉協議会理事選考委員	理事選考委員長(議長)
			高知市いじめ問題調査委員	高知市教育長
	教授	田中 きよむ	高知県高次脳機能障害支援委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミーユ高知」各第三者委員	社会福祉法人すずめ福祉会すずめ通所センター施設長
			令和5年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「中山間地域において災害時でも安心して住み続けられる地域づくり政策に関する調査研究事業」調査研究委員会委員長	厚生労働省 四国厚生支局
			高知県運営適正化委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知県地域年金事業運営調整会議委員長	高知東年金事務所長
			高知県青年農業士認定委員会委員長	高知県農業振興部環境農業推進課長
			高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員	高知弁護士会会長
			高知県介護ケア研究会会長	発令者なし(任意の会のため。代表は会員の互選)
			全国障害者問題研究会高知支部支部長	発令者なし(任意の会のため。代表は会員の互選)
			高知県社会保障推進協議会会長	発令者なし(任意の会のため。代表は会員の互選)
			高知県保育運動連絡会会長	発令者なし(任意の会のため。代表は会員の互選)
			高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長	高知市長
			高知市国民健康保険運営協議会委員	高知市長
			高知市福祉有償運送運営協議会委員	高知市長
			高知県内各市町村地域福祉(活動)計画アドバイザー	各市町村社会福祉協議会会長
			高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員	高知市社会福祉協議会会長
			公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策(森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策)委員会委員長	ひかり協会
			高知県リハビリテーション研究会理事	高知県リハビリテーション研究会理事会
			高知県居住支援協議会会長	公益社団法人高知県宅地建物取引業協会
			NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「みらい予想図」副理事長、NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事、NPO法人「高知ネットホップ」理事長	各法人理事会
	教授	長澤 紀美子	高知市人権尊重のまちづくり審議会委員	高知市長
			高知県第4次DV被害者支援計画策定委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			高知地方労働審議会委員	高知労働局長
			高知県社会福祉審議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			高知県人権尊重の社会づくり協議会委員	高知県知事
			「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会(委員長)	高知労働局長
			高知県男女共同参画センターソーレ広報番組(ジェンダーと防災)放送委託業務プロポーザル審査委員	公益財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団 理事長

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
社会福祉学部	教授	西内 章	高知県行政不服審査会委員	高知県知事
			高知県教育委員会高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー	高知県教育長
			高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長	高知県社会福祉協議会会長
			高知県地域福祉活動支援計画推進委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知県教育振興基本計画推進会議委員	高知県教育長
			高知市成年後見制度利用促進審議会会長	高知市長
			高知県成年後見制度利用促進協議会委員	高知市長
			高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長	高知市長
			高知市社会福祉協議会評議員	高知市社会福祉協議会会長
			高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長	高知市社会福祉協議会会長
			日常生活自立支援事業契約締結審査会委員	高知県社会福祉協議会
			これからあんしんサポート事業審査委員会委員長	高知市社会福祉協議会会長
			津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員	津野町長
			津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	津野町長
			津野町成年後見制度利用促進協議会委員	津野町長
	教授	宮上 多加子	高知県福祉活動支援基金運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知市民生委員推薦会委員	高知市長
			高知県社会福祉協議会理事	高知県社会福祉協議会会長
			高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員	高知県健康政策部医療政策課長
	准教授	河内 康文	いの町社会福祉協議会成年後見運営委員	いの町社会福祉協議会会長
			南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員	南国市長寿支援課長
			高知市障害者計画等推進協議会会長	高知市長
			高知県自立支援協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			高知県障害者施策推進協議会副会長	高知県子ども・福祉政策部長
			高知県自立支援協議会専門部会長	高知県子ども・福祉政策部障害福祉課長
	准教授	遠山 真世	高知県障害者計画策定委託業務公募型プロポーザル審査委員	高知県子ども・福祉政策部 障害福祉課長
			高知県障害者介護給付費等不服審査会委員	高知県地域福祉部長
			土佐あけぼの会評議員及び第三者委員	社会福祉法人土佐あけぼの会 理事長
	准教授	西梅 幸治	スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育長
			高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員長	高知県社会福祉協議会会長
			第三者委員	特定非営利活動法人 結人の袖 就労支援事業所 未来ドア 所長
			ヤングケアラー普及啓発事業委託業務に関するプロポーザルの審査委員	高知県子ども・福祉政策部 子ども家庭課長
	准教授	福間 隆康	大阪障害者雇用支援ネットワーク地域連携事業部委員	大阪障害者雇用支援ネットワーク理事長
一般社団法人四国ソーシャルインクルージョンセンター協力委員			四国ソーシャルインクルージョンセンター理事長	
南国市社会福祉協議会南国ネットワーク連絡会委員			南国市社会福祉協議会会長	
南国市社会福祉協議会あつたかにんにん運営委員会委員			南国市社会福祉協議会会長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
社会福祉学部	講師	加藤 由衣	高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業におけるチーフスクールソーシャルワーカー	高知県教育委員会
			高知県社会福祉士会理事	高知県社会福祉士会会長
			高知県子どもの環境づくり推進委員会委員	高知県知事
	講師	辻 真美	介護労働安定センター高知支部(ヘルスカウンセラー、雇用管理コンサルタント、介護人材育成コンサルタント)	介護労働安定センター支部所長
			高知県ホームヘルパー連絡協議会理事	高知県ホームヘルパー連絡協議会会長
			高知県介護福祉士会倫理委員会委員	高知県介護福祉士会会長
			高知市斎場運営協議会委員	高知市長
	講師	行貞 伸二	高知県共同募金会評議員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
			高知県共同募金会配分委員会委員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
			高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会委員	高知県知事
			高知市民生委員推薦会委員	高知市長
			高知市行政改革推進委員会委員	高知市長
	助教	稲垣 佳代	就労・雇用支援の在り方検討委員会委員	日本精神保健福祉士協会会長
			高知県精神医療審査会委員	高知県地域福祉部長
			特定非営利活動法人ブルースター理事	特定非営利活動法人ブルースター理事長
	助教	片岡 妙子	全国高校生介護福祉研究発表会四国地区予選審査員	全国福祉高等学校長会四国地区理事
	助教	田中 眞希	介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員	高知県介護福祉士会会長
			障害者支援施設アドレス・高知 第三者委員	社会福祉法人ミレニアム
			高知県地域救済対策委員	公益財団法人ひかり協会
	助教	玉利 麻紀	高知県精神医療審査会審査委員	高知県地域福祉部長
			高知県精神保健福祉協会研修委員	高知県精神保健福祉協会会長
			介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー	公益財団法人介護労働安定センター高知支部長
			高知県精神保健福祉士協会研修部会委員	高知県精神保健福祉士協会 会長
			社会福祉法人土佐あけぼの会 第三者委員	社会福祉法人土佐あけぼの会 理事長
県立野市総合公園再整備方針検討委員			高知県土木部公園下水道課長	
助教	福田 敏秀	高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合	
		高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長	高知市長	
		鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事	鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部長	
		公益財団法人介護労働安定センターヘルスカウンセラー・介護人材育成コンサルタント	公益財団法人介護労働安定センター高知支部長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
健康栄養学部	教授	荒牧 礼子	令和4年度高知県食育連携推進協議会委員	高知県健康政策部長
			和5年度(令和4年度実施)高知県公立学校教員採用候補者選考審査委員	高知県教育長
			令和4年度高知県新任期行政栄養士研修会	高知県健康政策部長保健政策課課長
	教授	渡邊 浩幸	高知県事業診査アドバイザー(委員長)	高知県知事
			こうち産業振興基金等事業審査員	高知県知事
			越知町まち・ひと・しごと創生推進会議(委員)	越知町長
			高知県食の安全・安心推進審議会委員(委員長)	高知県知事
			生産管理高度化情報共有会議委員	高知県産業振興部長
			IoTプロジェクト研究推進部会 高付加価値化大課題リーダー	IoT責任担当
			高知県産学官民連携センター コプラコーディネーター	高知県知事
			安芸市立学校給食センター運営委員会アドバイザー	安芸市長
	准教授	島田 郁子	高知県栄養士会理事	高知県栄養士会会長
			土佐市社会福祉事業団理事	土佐市社会福祉事業団理事長
			安芸市立学校給食センター運営委員会委員	安芸市教育長
			高知市学校給食調理業務プロポーザル選定委員会委員長	高知市教育長
	准教授	鈴木 麻希子	高知県栄養士会生涯教育委員	高知県栄養士会会長
	准教授	竹井 悠一郎	高知県アルコール健康障害対策連絡協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
	講師	廣内 智子	高知県栄養士会はちきん編集委員	高知県栄養士会会長
			高知県立大学同窓会しらさぎ会理事	高知県立大学同窓会しらさぎ会会長
	助教	竹本 和仁	高知県産学官民連携センター コプラコーディネーター	高知県知事
助手	彼末 富貴	高知市春野郷土資料館運営審議会委員	高知市長	
		高知市文化振興審議会委員	高知市長	
		高知市観光振興計画推進委員会委員	高知市長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
地域教育研究センター	教授	石山 貴章	高知県教科用図書選定審議会委員長	高知県教育委員会事務局特別支援教育課
	教授	一色 健司	渡川流域学識者会議委員	国土交通省四国地方整備局長
			仁淀川流域学識者会議委員	国土交通省四国地方整備局長
			物部川流域学識者会議委員	国土交通省四国地方整備局長
			四国地方ダム等管理フォローアップ委員会委員	国土交通省四国地方整備局長
			早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会委員	独立行政法人水資源機構池田総合管理所長
			高知県環境審議会会長	高知県知事
			高知県環境影響評価技術審査会委員	高知県知事
			高知県廃棄物処理施設設置審査会委員	高知県知事
			高知市産業廃棄物処理施設設置審議会委員	高知市長
			高知市地域学校協働本部事業推進委員会委員長	高知市教育長
			高知みらい科学館協議会委員長	高知市教育委員会高知市教育長
			高知市民の大学運営委員会委員	高知市民の大学運営委員会委員長
			新宇治川放水路地下水監視委員会委員	いの町長
	高知県公立大学生生活協同組合理事長	高知県公立大学生生活協同組合		
	教授	清原 泰治	高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員	高知市長
			高知放送番組審議会委員長	高知放送代表取締役社長
			香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会長	香美市長
			高知市地域公共交通あり方検討会委員	高知市長
			安芸市道の駅大山周辺観光振興計画検討委員会委員長	安芸市長
			津野町まち・ひと・しごと創生有識者会議会長	津野町長
	教授	鈴木 康郎	教師教育コンソーシアム高知運営協議会委員	教師教育コンソーシアム高知運営協議会
			教師教育コンソーシアム高知教員養成・育成事業部会委員	教師教育コンソーシアム高知運営協議会
			教師教育コンソーシアム高知共同研究事業部会委員	教師教育コンソーシアム高知運営協議会
	講師	秋谷 公博	土佐市創成有識者会議委員	高知市教育委員会教育長
			スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	高知市教育委員会教育長
			高知県市町村図書館等振興協議会委員	土佐市長
佐川町総合計画審議会委員			佐川町長	

(3) 他大学等非常勤講師応諾

学部	職名	氏名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
文化学部	教授	井上 次夫	高知大学	中等国語科指導法3	令和4年4月1日～令和5年9月30日
				中等国語科指導法2	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	教授	岩倉 秀樹	高知工科大学	日本国憲法	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	教授	宇都宮 千穂	高知大学人文社会学部	経済史	令和4年4月1日～令和4年9月30日
			高知リハビリテーション専門職大学	土佐地域資源論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	教授	大村 誠	高知リハビリテーション専門職大学	地域防災論	令和4年4月1日～令和4年9月15日
	教授	高西 成介	高知大学人文社会学部	中国文学概論Ⅱ	令和4年4月1日～令和5年2月28日
				中国古典文学論基礎論	
			鳴門教育大学	語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)	令和4年4月11日～令和5年3月31日
	教授	橋尾 直和	夜学・地域教育研究センター	再発見ゼヨ!!土佐ことば	令和4年5月19日
			高坂学園生涯大学	土佐ことばは生活語ゾネ!!	令和4年6月18日
			高坂学園生涯大学	土佐ことばは地域の宝ゼヨ!!	令和4年7月18日
			高知県文化財団	カンカンミンガク(館・官・民・学)一域学共生活動の取り組みー	令和4年10月8日
			高知シルバー大学	土佐ことば	令和4年11月4日
			安芸市シルバー短期大学	土佐ことばで生き生きゾネ!!	令和4年11月25日
	教授	ヨース・ジョエル	愛知県立大学	外国史各論	令和4年9月11日～令和4年9月14日
	准教授	飯高 伸五	近森病院附属看護学校	生活と文化	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	准教授	梶原 太一	高知工科大学	NPO論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	准教授	金澤 俊吾	高知大学	英文法基礎	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	准教授	菊池 直人	高知工業高等専門学校	法学	令和4年4月1日～令和4年9月30日
高知県消防学校			法学基礎	令和4年4月1日～令和4年5月31日	
准教授	清水 直樹	高知大学 教育学部	政治学概論	令和4年4月1日～令和4年9月1日	
准教授	白岩 英樹	放送大学高知学習センター	文学に見るアメリカ思想	令和4年5月7日～令和4年5月8日	
准教授	田中 裕也	放送大学高知学習センター	教養を深めるセミナー	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
准教授	吉川 孝	高知工科大学 経済・マネジメント学群	哲学	令和4年10月1日～令和5年3月31日	
			倫理学	令和4年10月1日～令和5年3月31日	
看護学部	教授	畦地 博子	愛媛県立医療技術大学	精神看護学特論Ⅱ	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	教授	池添 志乃	高知学園大学	家庭看護学	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	教授	池田 光徳	高知学園短期大学	治療援助学Ⅰ	令和4年10月1日～令和5年3月31日
			高知県立幡多けんみん病院	診療応援	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			高知県立幡多看護専門学校	身体のしくみとはたらきⅣ、疾病と回復過程Ⅳ	令和4年9月12日 (令和4年6月30日～令和5年3月31日)
			高知大学	皮膚科学	令和4年10月1日～令和5年3月31日
			三愛病院	皮膚科治療及び治療の教授	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	教授	瓜生 浩子	関西医科大学	家族看護学	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			愛知県立大学	家族看護援助論	令和4年11月21日～令和5年3月31日
	教授	木下 真里	兵庫県立大学	グローバルヘルス	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	教授	久保田 聡美	京都大学大学院医学研究科	生活習慣病看護学セミナー	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			愛媛県立医療技術大学	看護管理学特論	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			四国大学	看護管理学特論	令和4年4月3日～令和4年9月23日

学部	職名	氏名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
看護学部	教授	竹崎 久美子	九州大学	看護研究方法論Ⅱ	令和4年4月1日～令和4年9月30日
			高知リハビリテーション専門職大学	生命倫理	令和4年4月1日～令和4年9月15日
			高知学園短期大学	災害看護学	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	教授	長戸 和子	愛知県立大学大学院看護学研究科	家族看護論	令和4年11月21日～令和5年3月31日
			順天堂大学大学院看護学研究科	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	教授	森下 安子	高知学園大学	地域包括ケアシステム論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	教授	山田 覚	兵庫県立大学	保健統計学	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	教授	渡邊 聡子	高知リハビリテーション専門職大学	生命倫理	令和4年4月1日～令和4年9月15日
			兵庫県立大学	災害看護対象論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	准教授	小澤 若菜	高知大学	地域援助論	令和4年4月12日～令和4年8月31日
	准教授	川上 理子	高知リハビリテーション専門職大学	地域包括ケア論	令和4年9月16日～令和5年3月31日
	准教授	森下 幸子	高知病院附属看護学校	在宅看護方法論・演習	令和4年9月1日～令和4年12月31日
			高知リハビリテーション専門職大学	地域包括ケア論	令和4年9月16日～令和5年3月31日
	講師	有田 直子	徳島文理大学	コンサルテーション論	令和4年12月11日 令和4年12月18日 令和5年1月22日
	講師	川本 美香	高知大学	地域援助論	令和4年4月12日～令和4年8月31日
	特任助教	山本 かよ	高知学園短期大学	在宅看護援助論	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	助教	源田 美香	高知学園短期大学	在宅看護学概論、在宅看護援助論	令和4年4月1日～令和4年9月30日(前期) 令和4年10月1日～令和5年3月31日(後期)
	助教	塩見 理香	龍馬看護ふくし専門学校	精神看護援助論Ⅰ	令和4年11月1日～令和5年2月20日
	助教	竹中 英利子	高知学園短期大学	在宅看護学概論、在宅看護援助論	令和4年4月1日～令和4年9月30日(前期) 令和4年10月1日～令和5年3月31日(後期)
	助教	徳岡 麻由	高知学園短期大学	家族看護学	令和4年10月1日～令和5年3月31日
助教	中井 美喜子	高知学園短期大学	家族看護学	令和4年10月1日～令和5年3月31日	
助教	益 宏実	徳島文理大学	コンサルテーション論	令和4年12月11日 令和4年12月18日 令和5年1月22日	
助教	森本 紗磨美	龍馬看護ふくし専門学校	診療補助技術、看護技術の実際	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
特任助手	横川 奈知	高知学園短期大学	在宅看護援助論	令和4年10月1日～令和5年3月31日	
社会福祉学部	教授	杉原 俊二	九州保健福祉大学	社会福祉学特殊講義Ⅷ(児童・家族福祉論)	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	教授	田中 きよむ	高知大学	社会保障論	令和4年4月12日～令和4年7月31日
			龍馬看護ふくし専門学校	社会保障	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	教授	西内 章	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和4年4月1日～令和4年9月15日
	教授	横井 輝夫	吉備国際大学	運動発達学、障がい児理学療法学	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			吉備国際大学(通信教育)	臨床保健科学特論、生活機能障害理学療法学特論、生活機能障害理学療法学特論演習	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	准教授	遠山 真世	高知リハビリテーション専門職大学	障害者の社会環境と制度	令和4年4月1日～令和4年9月15日
准教授	西梅 幸治	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和4年4月1日～令和4年9月15日	
		四国中央医療福祉総合学院	地域福祉の理論と方法①②	令和4年4月1日～令和5年3月31日	

学部	職名	氏名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
社会福祉学部	講師	加藤 由衣	高知福祉専門学校	社会調査の基礎	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	講師	辻 真美	高知大学	介護等体験	令和4年4月13日～令和4年4月30日
	講師	行貞 伸二	高知学園短期大学	看護と福祉	令和4年4月1日～令和4年9月30日
	助教	稲垣 佳代	土佐リハビリテーションカレッジ	社会福祉学概論	令和4年10月1日～令和5年3月31日
			高知医療学院	社会福祉学	令和4年9月1日～令和4年9月30日
	助教	大熊 絵理菜	高知福祉専門学校	相談援助の理論と方法	令和4年4月1日～令和5年3月31日
	助教	福田 敏秀	龍馬看護ふくし専門学校	社会福祉の原理と政策	令和4年10月1日～令和5年2月28日
高知大学			健康福祉行政論	令和4年4月12日～令和4年8月31日	
健康栄養学部	教授	小林 淳	戸板女子短期大学	生化学実験	令和4年9月20日～令和5年3月3日
	教授	渡邊 浩幸	北見工業大学	食品機能化学	令和4年9月20日～令和4年9月22日
			北見工業大学	バイオ食品総合工学 I	令和4年6月7日
	特任教授	笠原 賀子	群馬大学	キャリア計画(食と健康)	前期2コマ
			新潟県立大学	栄養教育論実践	前期5コマ
			北陸学園	特別講義	後期4.5コマ
	准教授	島田 郁子	愛媛大学	子どもの食と栄養	令和4年4月8日～令和4年9月23日
			高知大学	食物学概論	令和4年10月1日～令和5年2月28日
			高知学園大学	災害と生活	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	准教授	鈴木 麻希子	高知開成専門学校	生化学	令和4年4月25日～令和4年6月20日
			高知大学	食生活論	令和4年9月1日～令和4年9月30日
	准教授	竹井 悠一郎	高知情報ビジネス&フード専門学校	食品学	令和4年4月11日～令和4年7月11日 令和5年1月17日
	助教	小山 智久	RKC調理製菓専門学校	衛生法規	令和4年4月～令和5年3月
助教	竹本 和仁	RKC調理製菓専門学校	食生活と健康	令和4年4月～令和5年3月	
助教	隅田 有公子	高知情報ビジネス&フード専門学校	食品学	令和4年8月23日～令和5年1月31日	
助教	生川 卓弘	高知情報ビジネス&フード専門学校	栄養学	令和4年4月15日～令和5年1月23日	
助手	彼末 富貴	高知学園大学	調理学実習Ⅰ(基礎)、調理学実習Ⅱ(応用)	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
地域教育研究センター	教授	石山 貴章	名古屋商科大学	特別支援教育論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
			高知職業リハビリテーション専門職大学	特別支援教育論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
			環太平洋大学	教育心理学 教育相談論 学校心理学	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			高知工科大学	特別支援教育概論	令和4年10月1日～令和5年3月31日
			就実大学大学院	障害者就労支援	令和4年10月1日～令和5年3月31日
	教授	一色 健司	高知大学	固体化学	令和4年10月1日～令和5年2月28日
	教授	清原 泰治	高知大学	スポーツ科学実技	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			高知工科大学	レクリエーション論	令和4年4月1日～令和4年9月30日
高知工科大学			体育理論	令和4年4月1日～令和5年3月31日	

3 学外提供用刊行物作成状況

担当部署	名 称
文化学部	高知県立大学文化学部 思索と実践(改訂版)
	高知県立大学 文化論叢
	文化の力 Vol. 07
	高知県立大学 文化学部 活動記録
	文化学課題研究ゼミナール 概要集
	Humanismus 第34号
看護学部	高知県立大学看護学部・看護学研究科活動報告書
	高知県立大学看護学部・看護学研究科年報
	高知県立大学看護学部看護実習要項
	看護学部パンフレット(受験生向けPR誌)
	看護学部ニューズレター学生生活通信『fure-fure』 8月・2月
	高知県立大学大学院看護学研究科
社会福祉学部	福祉で未来を探究！ 高校生のためのWeb EVENT(リーフレット) 6月・9月・1月
	高知県立大学 社会福祉学部(学部パンフレット)
	実習のてびき ―相談援助実習―
	実習のてびき ―精神・社会福祉コース編―
	実習のてびき ―介護福祉実習―
	社会福祉実習報告書(相談援助実習・精神保健福祉援助実習)
	介護福祉実習報告書
	高知県立大学 社会福祉学部報 第24号
健康栄養学部	健康栄養学部 学部報
総合情報センター	総合情報センター年報 令和3年度
	高知県立大学紀要 第72巻
地域教育研究センター	高知県立大学地域教育研究センター報 2021 第10号
	立志社中プロジェクト2022リーフレット
	立志社中 令和3年度活動報告書
	域学共生事業パンフレット
	高知県立大学地域教育研究センター10年のあゆみ
健康長寿センター	高知県立大学健康長寿センター活動報告書
	高知県立大学健康長寿センターパンフレット
	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座募集要項
	訪問看護スタートアップ研修 新卒パンフレット
	訪問看護スタートアップ研修 リーフレット
	訪問看護スタートアップ研修 I・Uターナーリーフレット
	入退院支援モニタリングシート活用マニュアルver.1
	血管病患者を支援する活動手順書 Ver.4
	2022年度高知県内における褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査

担当部署	名 称
健康長寿センター	おうちで健康長寿体験型セミナーYoutube公開
	第2弾「お口の健康は全身の健康 -肺炎を予防しよう-」 第3回 日々の生活に取り入れよう(1) -お口の体操の実演-
	第2弾「お口の健康は全身の健康 -肺炎を予防しよう-」 第4回 日々の生活に取り入れよう② -食べるときの姿勢のコツの実演-
	第3弾「高知家、認知症とのつき合い方」 地域におけるつながりの大切さ ～防災と認知症予防の視点から～
	第3弾「高知家、認知症とのつき合い方」 認知症の人とのかかわり方
	「災害が起きたとき～聴覚障がい者への支援～」 第1回 聴覚障がい者？手話？を知ろう！
	「脱水を予防しよう 一年間を通じて脱水予防のポイントを知ろう」 第1回 脱水症について知ろう
	「脱水を予防しよう 一年間を通じて脱水予防のポイントを知ろう」 第2回 冬も脱水症を予防しよう
	「脱水を予防しよう 一年間を通じて脱水予防のポイントを知ろう」 第3回 脱水症を予防しよう(夏編) 暑い夏を乗り切るために
	「災害が起きたとき～聴覚障がい者への支援～」 第2回 災害時に聴覚障がい者が困る事は？～自分にできることはあるかな？～
	「災害が起きたとき～聴覚障がい者への支援～」 第3回 実際に手話を体験してみよう！
「健康づくりのためのフットケア-これからも元気で歩く「足」のために-」 第1回 老化は足から！「知識編」	
健康管理センター	ヘルスパスポート(健康手帳)
総務課	全学広報誌「Pin+」vol.25～vol.26
	令和3年度学生による授業評価実施報告書
学生・就職支援課	就活ハンドブック2023
入試課	大学案内2023
	大学院案内2023
教務課	学生便覧(学部・大学院・補遺)
教育研究戦略課	令和3年度年報

XII 財務

1 はじめに

本法人は、平成23年4月1日に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今期が第2期中期計画の6年目にあたる第12期目の決算となる。

公立大学法人の会計基準は、企業会計を基本としながらも、主たる業務内容が教育・研究であり、利益の獲得を目的としないなどの特殊性を考慮した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成されるもので、県民をはじめとする利害関係者に、法人の財政状態や運営状況を明らかにするために、作成が義務付けられている。

第34条第1項では、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類等)を、設立団体の長に提出し、承認を得なければならないとされている。

令和4年度の財務諸表上の表記は下記のとおりである。

2 貸借対照表

貸借対照表は、令和5年3月31日現在の、全ての財産(資産、負債・純資産)の状況を示した。

令和4年度の資産総額は、

固定資産が 113億5千5百万円(95.3%)

流動資産が 5億6千0百万円(4.7%)

合計 119億1千5百万円(100.0%)となっている。

固定資産が資産の95.3%を占め、このうち県からの出資財産が、86億9千万円で資産全体の72.9%を占めている。

負債の総額は、15億1千7百万円となっている。

固定負債が 10億2千8百万円

(うち資産見返負債¹ 9億3千7百万円 負債全体の61.8%)

流動負債が 4億8千9百万円

(うち寄附金債務 7百万円 同 0.5%)

負債総額のうち、資産の見返として計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取り崩して収益化する資産見返負債が9億3千7百万円と負債全体の61.8%を占め、用途特定寄附金収入のうち来期以降に使用する予定の寄附金債務が、7百万円で0.5%となっている。

純資産の総額は、 103億9千8百万円で、内訳は

資本金(県からの出資金)が 109億6千5百万円、

資本剰余金が △5億8千4百万円

利益剰余金が 1千7百万円となっている。

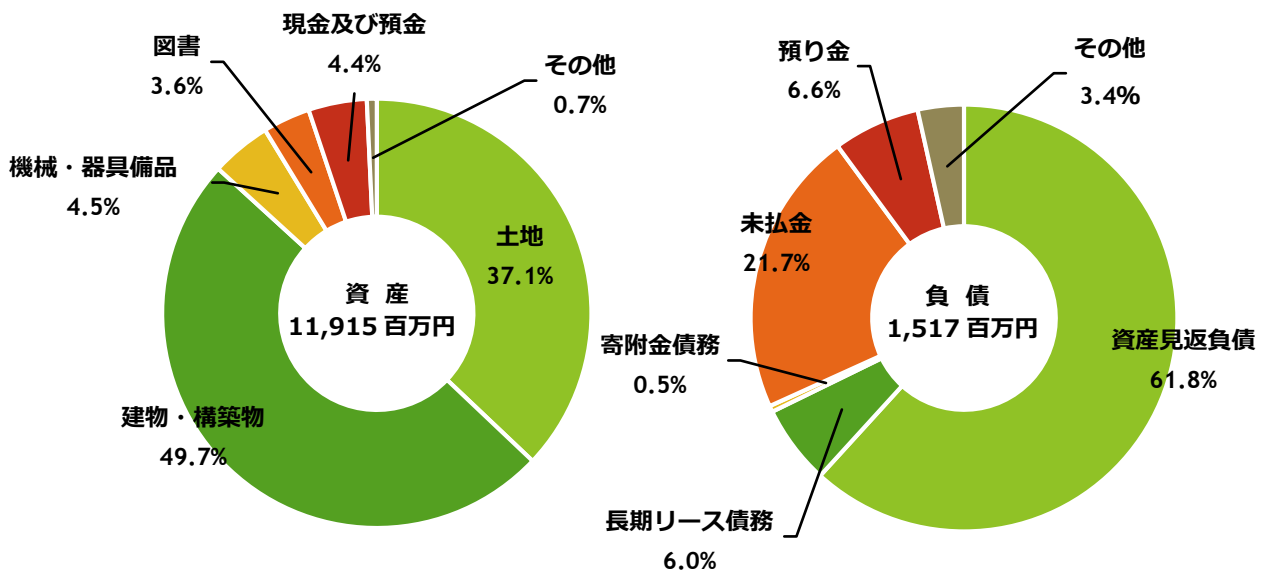
¹資産見返負債：運営費交付金・寄附金・無償譲与・補助金等の財源で取得した固定資産の見合いで負債に計上され、固定資産の減価償却に伴って、資産見返負債戻入という収益に振替られるもので、資産・負債を均衡させるために必要なものである。

貸借対照表の概要

(単位:百万円)

資産の部	固定資産	有形固定資産	土地	4,417	負債の部	固定負債	資産見返負債	937
			建物	5,732			長期リース債務	91
			構築物	189			小計	1,028
			機械装置	63		流動負債	寄附金債務	7
			工具器具備品	476			未払金	329
			図書	425			預り金	100
			車両運搬具	2			短期リース債務	52
			美術品・収蔵品	25			その他の流動負債	1
			小計	11,329			小計	489
		無形固定資産	24	合計③		1,517		
	投資その他の資産	2	純資産の部	資本金	10,965			
	合計①	11,355		資本剰余金	▲584			
	流動資産	現金及び預金		524	利益剰余金	17		
		その他の流動資産		36	合計④	10,398		
		合計②	560	負債純資産合計③+④				
資産合計①+②			11,915			11,915		

※計算後百万円未満四捨五入しているため合計金額が一致しない場合があります。



3 損益計算書

損益計算書は、当期に発生した目的別費用とそれに対応する収益構造を記載した計算書である。

経常費用の総額は、26億8千5百万円で、内訳は業務費が25億3千7百万円で、一般管理費が1億4千7百万円、支払利息等の財務費用が1百万円となっている。

業務費25億3千7百万円の内訳は、

教育研究経費	8億8千7百万円(対経常費用 33.0%)
教育経費	5億4千4百万円
研究経費	1億5千 百万円
教育研究支援経費	1億9千3百万円
受託研究等経費	2千3百万円(対経常費用 0.9%)
受託研究費	4百万円
受託事業費	1千9百万円
人件費	16億2千7百万円(対経常費用 60.6%)
	※受託研究・事業費に参入した人件費を除く

経常収益の総額は、26億5千8百万円で、内訳は

運営費交付金収益	15億1千4百万円(対経常収益 57.0%)
授業料等収益	7億8千9百万円(同 29.7%)
受託研究収益	4百万円(同 0.2%)
受託事業等収益	1千9百万円(同 0.7%)
寄附金収益	3千2百万円(同 1.2%)
補助金等収益	1億2千6百万円(同 4.7%)
資産見返負債戻入	1億1千6百万円(同 4.4%)
財務収益・雑益	5千8百万円(同 2.1%)

経常収益から経常費用を差し引いた経常損失は、2千7百万円となった。

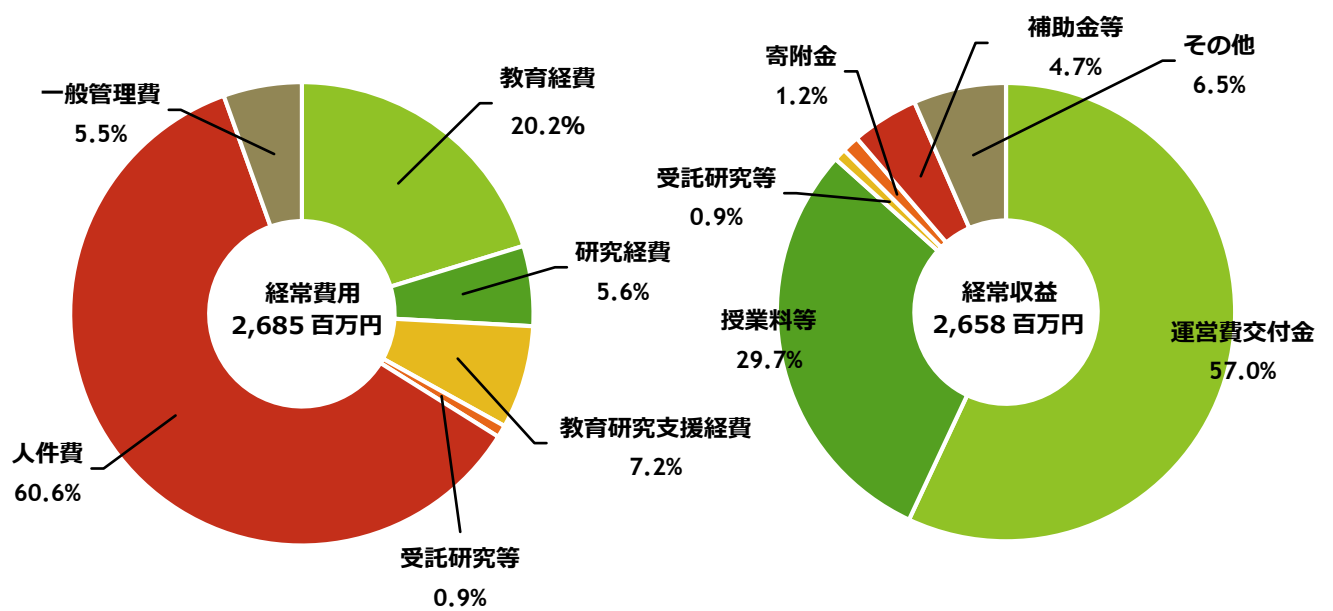
臨時損益は発生せず、目的積立金を4千4百万円取り崩したため、当期総利益は1千7百万円となっている。

損益計算書の概要

(単位:百万円)

経常費用	業務費	教育経費	544	経常収益	運営費交付金収益	1,514
		研究経費	150		授業料収益	688
		教育研究支援経費	193		入学料収益	80
		受託研究費	4		検定料収益	21
		受託事業費	19		受託研究収益	4
		教員人件費	1,201		受託事業等収益	19
		職員人件費	426		寄附金収益	32
		合 計	2,537		補助金等収益	126
	一般管理費	147	資産見返負債戻入		116	
	財務費用	1	雑益		58	
合 計	2,685	合 計	2,658			
当期総利益			17	目的積立金取崩額		44

※計算後百万円未満四捨五入しているため合計金額が一致しない場合があります。



4 外部資金導入の状況
 (1) 科学研究費助成事業交付状況
 【科学研究費助成事業交付実績】

研究種目	所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	新規継続の別	補助事業期間開始	補助事業期間終了	令和4年度の直接経費	令和4年度の間接経費	(参考)研究期間全体の直接経費	(参考)研究期間全体の間接経費
基盤研究(B)	文化学部	22H00807	准教授	清水 直樹	選挙対策としての政策変更:選挙の存在が政策に及ぼす影響の包括的分析	新規	2022	2025	2,700,000	810,000	13,100,000	3,930,000
	看護学部	20H03984	教授	藤田 佐和	外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発	継続	2020	2023	1,400,000	420,000	7,000,000	2,100,000
		20H04022	教授	山田 覚	災害に関連する専門職者・行政と住民とのリスクコミュニケーションガイドラインの提案	継続	2020	2023	1,100,000	330,000	6,100,000	1,830,000
		21H03237	教授	大川 宣容	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	継続	2021	2024	700,000	210,000	5,800,000	1,740,000
		21H03254	教授	中野 綾美	家族との協働型エンドオブライフケア実践能力を高める看護遠隔教育プログラムの開発	継続	2021	2024	2,800,000	840,000	11,900,000	3,570,000
	社会福祉学部	22H00931	教授	田中 きよむ	地方におけるホームレスの実態把握と支援方法の研究	新規	2022	2024	1,900,000	570,000	4,100,000	1,230,000
基盤研究(C)	文化学部	20K00040	准教授	吉川 孝	ポルノグラフィにおける性的モノ化の哲学的考察——現象学的倫理学からのアプローチ	継続	2020	2022	700,000	210,000	1,900,000	570,000
		20K00527	教授	高西 成介	「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究	継続	2020	2022	700,000	210,000	2,500,000	750,000
		21K00572	准教授	金澤 俊吾	英語の形容詞が関わる構文の変則的表現の創出と形成過程に関する実証的、理論的研究	継続	2021	2023	400,000	120,000	1,000,000	300,000
		21K02498	教授	井上 次夫	オンライン授業におけるICT活用指導技術の習得・運用・評価に関する基礎的研究	継続	2021	2023	1,200,000	360,000	2,800,000	840,000
		21K04455	教授	三浦 要一	国宝保存法時代の寺院建築の修理における当初復原に関する基礎的研究	継続	2021	2023	300,000	90,000	900,000	270,000
		22K00512	准教授	向井 真樹子	再帰複合語の分析	新規	2022	2024	300,000	90,000	1,600,000	480,000
		22K01952	准教授	根岸 忠	外国人労働者受入れ拡大に備えた社会保障制度の適用要件の再検討—日台比較をとおして	新規	2022	2024	800,000	240,000	2,400,000	720,000
	看護学部	19K10955	教授	内田 雅子	慢性病者中心のケア・コーディネーション:事例研究法による看護実践理論の構築	継続	2019	2022	400,000	120,000	3,300,000	990,000
		19K10987	講師	有田 直子	血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMを支援する高度実践看護師の教育プログラムの開発	継続	2019	2022	700,000	210,000	3,300,000	990,000
		19K11091	准教授	高谷 恭子	成人期に移行する先天性心疾患と共に生きる子どもと親の軌跡を説明できるモデルの構築	継続	2019	2022	700,000	210,000	3,300,000	990,000
		20K10610	教授	久保田 聡美	看護の質の向上に貢献する看護師のエンゲージメントモデル開発	継続	2020	2022	1,000,000	300,000	3,300,000	990,000
		20K10696	准教授	森下 幸子	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援モデル構築	継続	2020	2022	800,000	240,000	2,800,000	840,000
		20K10811	講師	山中 福子	心不全重症化予防に向けたアウトカム評価に基づく患者教育連携プログラム	継続	2020	2023	600,000	180,000	2,400,000	720,000
		20K10842	教授	池添 志乃	発達障害のある子どもと家族の移行を支える協働型看護ケアガイドラインの開発	継続	2020	2023	500,000	150,000	3,400,000	1,020,000
		20K10891	助教	源田 美香	学童期にある発達障害児の家族の家族ストレスを促進するケアプログラムの開発	継続	2020	2023	500,000	150,000	3,300,000	990,000
		20K10914	教授	瓜生 浩子	患者・家族と看護者間のコンフリクトの発生・悪化を予防する教育プログラムの開発	継続	2020	2022	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000
		20K10915	教授	長戸 和子	慢性心不全患者・家族のアドバンス・ケア・プランニング支援ガイドラインの開発	継続	2020	2022	900,000	270,000	3,200,000	960,000
		20K10944	助教	田之頭 恵里	生体肝移植を受けた子どもの心理・社会的フォローアップケアガイドラインの開発	継続	2020	2022	400,000	120,000	2,900,000	870,000
		20K10967	教授	畦地 博子	障害文化と健全文化を超えて共創する支援のパターンランゲージ	継続	2020	2023	800,000	240,000	3,300,000	990,000
		20K11079	講師	小澤 若菜	市町村保健師による医療保険者と連携型の高齢者心不全重症化予防プログラムの開発	継続	2020	2022	600,000	180,000	2,700,000	810,000
		20K11132	准教授	木下 真里	全被災者の健康状態把握を支援するモバイル・ツール開発研究	継続	2020	2022	900,000	270,000	3,300,000	990,000
		21K10550	助教	塩見 理香	自閉スペクトラム症者の地域生活を支えるための訪問看護ケアの教育プログラム	継続	2021	2024	500,000	150,000	2,700,000	810,000
		21K10634	教授	池田 光徳	ポータブルデバイスおよびAIアプリを用いたポスト・コロナにおける非対面型遠隔看護	継続	2021	2024	800,000	240,000	3,100,000	930,000
		21K10663	准教授	内川 洋子	遠隔参加型看護マネジメント・リフレクションの実践のための教育プログラムの開発	継続	2021	2023	600,000	180,000	1,700,000	510,000
		21K10695	助教	坂元 綾	2型糖尿病患者の足病変予防のセルフモニタリング促進看護支援ガイドラインの開発	継続	2021	2024	500,000	150,000	2,500,000	750,000
		21K10724	助教	益 宏実	脳卒中患者の主体的な療養行動を引き出す看護のわざモデルの開発	継続	2021	2023	300,000	90,000	1,000,000	300,000
		21K10921	准教授	嶋岡 暢希	周産期医療施設における両親を対象とした産婦健診ケアモデルの開発と検証	継続	2021	2023	400,000	120,000	2,860,000	660,000

4 外部資金導入の状況

(1) 科学研究費助成事業交付状況

【科学研究費助成事業交付実績】

研究種目	所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	新規継続の別	補助事業期間開始	補助事業期間終了	令和4年度の直接経費	令和4年度の間接経費	(参考)研究期間全体の直接経費	(参考)研究期間全体の間接経費	
基盤研究(C)	看護学部	21K11009	助教	竹中 英利子	慢性腎臓病患者のサインマネジメントを支援する外来看護師教育プログラムの開発	継続	2021	2024	600,000	180,000	1,700,000	510,000	
		21K11031	教授	田井 雅子	認知症の人と家族の家族の伴走を支援する家族看護援助モデルの開発	継続	2021	2024	1,100,000	330,000	3,100,000	930,000	
		22K10905	准教授	藤代 知美	精神科未治療・治療中断者の受療行動を促す地域協働型交渉スキル習得プログラムの開発	新規	2022	2025	500,000	150,000	3,200,000	960,000	
		22K10961	講師	岩崎 順子	FamilyConfidenceを高める乳児家族ハイブリット型看護介入モデル開発	新規	2022	2024	1,400,000	420,000	3,100,000	930,000	
		22K11122	助教	中井 あい	中山間地域の独居高齢者の食環境評価を用いた地域共生包括的食生活支援プログラム開発	新規	2022	2024	1,100,000	330,000	3,100,000	930,000	
		22K11151	助教	高橋 真紀子	後期高齢者が独居で暮らし続ける住民同士のケアリング	新規	2022	2024	800,000	240,000	1,700,000	510,000	
		22K11152	講師	小原 弘子	高齢在宅療養者の急変対応スキル獲得に向けた訪問看護師遠隔教育プログラムの開発	新規	2022	2024	700,000	210,000	2,300,000	690,000	
		22K11267	教授	森下 安子	慢性閉塞性肺疾患患者の再入院予防の地域病院多職種協働型入退院支援ガイドライン開発	新規	2022	2025	900,000	270,000	3,200,000	960,000	
	社会福祉学部	20K02212	准教授	西梅 幸治	エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築	継続	2020	2022	400,000	120,000	1,700,000	510,000	
		20K02267	教授	長澤 紀美子	クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発	継続	2020	2022	1,300,000	390,000	3,000,000	900,000	
		21K01950	助教	福田 敏秀	高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発	継続	2021	2023	600,000	180,000	1,950,000	450,000	
		22K02010	准教授	福間 隆康	障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究	新規	2022	2025	400,000	120,000	1,300,000	390,000	
		22K02186	助教	片岡 妙子	重度要介護高齢者の内在的能力に着目した生活継続のための指標に関する研究	新規	2022	2024	200,000	60,000	400,000	120,000	
		22K11208	教授	横井 輝夫	重度アルツハイマー病者のADL再生法の開発	新規	2022	2024	500,000	150,000	1,700,000	510,000	
	健康栄養学部	21K11680	講師	竹井 悠一郎	破骨細胞様細胞を標的とした炎症性腸疾患の新規栄養療法の開発	継続	2021	2023	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000	
		21K11704	助教	隅田 有公子	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討	継続	2021	2024	800,000	240,000	3,100,000	930,000	
		21K11680	講師	竹井 悠一郎	破骨細胞様細胞を標的とした炎症性腸疾患の新規栄養療法の開発	継続	2021	2023	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000	
		21K11704	助教	隅田 有公子	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討	継続	2021	2024	800,000	240,000	3,100,000	930,000	
	地域教育研究センター	20K02611	教授	鈴木 康郎	東南アジア諸国における「多様な価値の共存」を目指す道徳教育の比較研究	継続	2020	2022	1,000,000	300,000	3,300,000	990,000	
	若手研究	文化学部	20K12924	准教授	田中 裕也	三島由紀夫文学における思想系テキストの受容と実践に関する研究	継続	2020	2023	500,000	150,000	1,900,000	570,000
			21K12829	准教授	オバーグ アンドリュウ	An Image-Concept Phenomenological Analysis of Religion: Resituating Christianity within Judaism - Ontics and Ontology	継続	2021	2022	500,000	150,000	900,000	270,000
		看護学部	20K19063	助教	神家 ひとみ	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群予防のケアガイドライン開発	継続	2020	2023	200,000	60,000	1,600,000	480,000
		社会福祉学部	20K13673	講師	辻 真美	ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究	継続	2020	2022	300,000	90,000	900,000	270,000
	若手研究(B)	看護学部	17K17446	助教	田中 雅美	トランジションを基盤としたICU新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムの開発	継続	2017	2022	700,000	210,000	3,200,000	960,000
	研究活動スタート支援	看護学部	22K21091	助教	中井 有里	せん妄を誘発する環境要因と予防のための病棟環境整備ガイドラインに関する基礎的研究	新規	2022	2023	1,100,000	330,000	2,200,000	660,000
			22K21179	助教	池内 香	双極性障害をもつ人と家族へのメンタルヘルスリテラシー獲得・向上のための看護方略	新規	2022	2023	1,100,000	330,000	2,000,000	600,000
合計									41,800,000	12,540,000	157,310,000	46,860,000	

※令和4年度科研費に関し日本学術振興会へ実績報告書・実施状況報告書を提出した研究課題について、研究種目・学部・課題番号順に掲載(R4年度に繰越・延長された課題は除く)。なお、令和4年度の直接経費・間接経費は実際の入金額を(調整金は含まない)、研究期間全体の直接経費・間接経費は交付内定時の金額を、職名は実績報告書・実施状況報告書記載の職名を掲載。

(2) 奨学寄附金受入状況(過去5年間分)

平成30年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	看護学部	教授	神原 咲子	2,200,000	Yahoo!基金	誰も取り残さない減災ケアの地域化と社会化
2	看護学部	教授	山田 覚	2,000,000	Yahoo!基金	災害看護支援ネットワークの構築・維持と効率的な運用
3	看護学部	助教	小原 弘子	700,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命(いのち)の基金」	在宅療養に関わる医療・介護職への急変対応スキル向上に向けた取り組み
4	健康栄養学部	講師	竹井 悠一郎	1,000,000	公益財団法人 日本栄養・食糧学会	動脈瘤発症の予防と治療を目指した食品に関する基礎研究
合計		4件		5,900,000		

令和元年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	文化学部	准教授	根岸 忠	1,000,000	公益財団法人 ユニバーサル財団	公的扶助と私的扶助の関係をめぐる日台比較法研究
合計		1件		1,000,000		

令和2年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	看護学部	准教授	川上 理子	200,000	高銀地域経済振興財団	高齢者の在宅看取りに対する自己効力感と先行要因の明確化
合計		1件		200,000		

令和3年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	健康栄養学部	講師	島田 郁子	200,000	高銀地域経済振興財団	健康と減災を目指した持続可能な食とくらしの探求
2	健康栄養学部	准教授	鈴木 麻希子	100,000	コネル・ブラザーズ・ジャパン株式会社	縮合リン酸の分析等に関する専門的助言・指導
3	健康栄養学部	講師	竹井 悠一郎	900,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命(いのち)の基金」	破骨細胞様細胞を標的とした潰瘍性大腸炎患者の重症化に関連する腸内細菌および代謝産物の網羅的解析
合計		3件		1,200,000		

令和4年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	健康栄養学部	助教	竹本 和仁	200,000	高銀地域経済振興財団	高知県産イタドリ葉の食物アレルギー症状緩和による高付加価値化
2	健康栄養学部	助教	竹本 和仁	500,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命(いのち)の基金」	高知県産イタドリ葉の機能性を厳しく管理する成分品質管理法の確立
3	看護学部	助教	中井 あい	350,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命(いのち)の基金」	地域共生拠点を活用した独居高齢者の看取りを支える多職種連携
4	社会福祉学部	教授	田中 きよむ	300,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命(いのち)の基金」	高齢者の認知機能と運転時注意挙動との関係解析
合計		4件		1,350,000		

(3) 受託研究費受入状況(過去5年間分)

平成30年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	5,949,012	高知県	食用カンナの多分野活用の研究	平成30年4月1日-平成31年3月31日
2	地域教育研究センター 文化学部 文化学部	教授 准教授 准教授	清原 泰治 宇都宮千穂 清水 直樹	1,231,956	安芸市	「安芸市少子化対策強化基本計画策定のための調査・研究委託業務」	平成30年5月1日-平成31年3月29日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	605,715	株式会社アミノエース	イタドリ葉部含有ポリフェノールの機能性	平成31年1月22日-平成31年1月25日
合計		3件		7,786,683			

令和元年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学研究科 看護学部 看護学部	教授 教授 准教授	神原 咲子 山田 寛 木下 真里	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	平成31年4月1日-令和2年3月31日
2	文化学部	准教授	根岸 忠	1,000,000	公益財団法人 日本台湾交流協会	外国人労働者受入れをめぐる労働市場法政策の日台比較-外国人非熟練労働者に焦点をあてて	平成31年4月1日-令和2年3月31日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	1,940,000	株式会社 協和	生姜摂取後の血流に関する研究	令和元年11月1日-令和2年3月31日
合計		3件		5,440,000			

令和2年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学研究科	教授	神原 咲子	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	令和2年4月1日-平成3年3月31日
2	健康栄養学部	教授	稲井 玲子	495,880	高知県	令和2年度食生活実態調査事業	令和2年11月11日-平成3年3月31日
合計		2件		2,995,880			

令和3年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学研究科	教授	神原 咲子	1,560,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	SAWACHI型健康社会共創拠点	令和3年4月1日-令和5年3月31日
2	看護学研究科	教授	神原 咲子	400,000	公益財団法人 地球環境戦略研究機関	Case Study Research on COVID19	令和3年5月1日-令和4年6月30日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	600,000	高知大学	褐毛和種高知系の肉質・ブランド力強化事業	令和3年5月27日-令和6年3月31日
4	看護学部	准教授	佐東 美緒	858,000	一般社団法人 放送大学教育振興会	対面・遠隔ハイブリッド型看護学教育に向けた教育要件の検討-学生・教員双方の視点からの分析-	令和3年7月13日-令和4年3月31日
合計		4件		3,418,000			

令和4年度

(単位:円)

	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	特任教授	神原 咲子	1,200,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	SAWACHI型健康社会共創拠点に関する研究開発	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
2	社会福祉学部	助 教	玉利 麻紀	1,799,780	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和4年5月27日- 令和5年3月10日
3	健康栄養学部	教 授	渡邊 浩幸	150,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	食品中機能性成分の相乗効果を高感度に検出する生体中蓄積脂肪燃焼作用評価システムの構築	令和4年10月1日- 令和6年3月31日
4	健康栄養学部	教 授	渡邊 浩幸	279,000	ウシオ電機株式会社	食品成分研究	令和4年9月1日- 令和5年12月20日
合計		4件		3,428,780			

(4) 受託事業費受入状況(過去5年間分)

平成30年度

(単位:円)

No.	代表教員			金額	委託者	業務名	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	教授	森下 安子	13,950,000	高知県	退院支援事業	平成30年4月1日-平成31年3月31日
2	地域教育研究センター	教授	清原 泰治	1,231,956	安芸市	安芸市少子化対策強化基本計画策定のための調査・研究委託業務	平成30年5月1日-平成31年3月29日
3	社会福祉学部	講師	河内 康文	2,934,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	平成30年6月1日-平成31年3月31日
4	看護学部	教授	森下 安子	2,719,000	高知県	平成30年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	平成30年6月4日-平成31年3月31日
合計		4件		20,834,956			

令和元年度

(単位:円)

No.	代表教員			金額	委託者	業務名	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	教授	森下 安子	16,233,000	高知県	退院支援事業	平成31年4月1日-令和2年3月31日
2	看護学部	教授	内田 雅子	1,960,000	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	平成31年4月19日-令和2年3月31日
3	社会福祉学部	講師	河内 康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和元年5月13日-令和2年3月31日
4	看護学部	教授	森下 安子	2,719,000	高知県	令和元年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和元年6月25日-令和2年3月31日
合計		4件		24,424,000			

令和2年度

(単位:円)

No.	代表教員			金額	委託者	業務名	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	教授	森下 安子	13,749,000	高知県	退院支援事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
2	看護学部	教授	内田 雅子	4,492,020	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和2年4月6日-令和3年3月31日
3	看護学部	教授	森下 安子	2,100,000	高知県	令和2年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和2年8月11日-令和3年3月31日
合計		3件		20,341,020			

令和3年度

(単位:円)

No.	代表教員			金額	委託者	業務名	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	教授	森下 安子	13,979,000	高知県	退院支援事業	令和3年4月1日-令和4年3月31日
2	看護学部	教授	内田 雅子	5,472,038	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和3年4月1日-令和4年3月31日
3	看護学部	教授	森下 安子	2,770,000	高知県	令和3年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和3年6月24日-令和4年3月31日
合計		3件		22,221,038			

令和4年度

(単位:円)

	代表教員			金額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教授	森下 安子	8,946,154	高知県	退院支援事業	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
2	看護学部	教授	内田 雅子	3,833,475	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
3	看護学部	教授	森下 安子	2,130,769	高知県	令和4年度高知県介護職員喀痰吸引等 研修事業	令和4年6月22日- 令和5年3月31日
合計		3件		14,910,398			

(5) その他受入状況(過去5年間分)

平成30年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	森下 安子	20,000,000	高知県	平成30年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成30年4月1日-平成31年3月31日
合計		1件	20,000,000		

令和元年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	森下 安子	20,000,000	高知県	平成31年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成31年4月1日-令和2年3月31日
2	渡邊 浩幸	13,200,000	高知県	“IoP (Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	平成31年4月1日-令和2年3月31日
3	渡邊 浩幸	400,000	高知県牧野記念財団	牧野富太郎博士ゆかり植物の高度利用による食品・健康・観光産業の創出	平成31年4月1日-令和2年3月31日
4	渡邊 浩幸	500,000	株式会社ファンケル	コーン由来のASG含有抽出物の内臓脂肪増加と血中LDL上昇の抑制効果の検証	令和元年11月1日-令和2年3月31日
合計		4件	34,100,000		

令和2年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	渡邊 浩幸	13,200,000	高知県	“IoP (Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和2年4月1日-令和3年3月31日
2	清原 泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
3	藤田 佐和	3,858,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
4	森下 安子	20,000,000	高知県	令和2年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和2年4月1日-令和3年3月31日
5	河内 康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
合計		5件	42,387,000		

令和3年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	渡邊 浩幸	13,200,000	高知県	“IoP (Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和3年4月1日-令和4年3月31日
2	清原 泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和3年4月1日-令和4年3月31日
3	藤田 佐和	2,203,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和3年4月1日-令和4年3月31日
4	森下 安子	20,000,000	高知県	令和3年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和3年4月1日-令和4年3月31日
5	河内 康文	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和3年4月1日-令和4年3月31日
合計		5件	41,032,000		

令和4年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	渡邊 浩幸	12,000,000	高知県	“IoP (Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
2	清原 泰治	1,580,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
3	藤田 佐和	8,850,000	文部科学省	ウイズコロナ時代の医療人材養成事業	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
4	森下 安子	20,000,000	高知県	令和4年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和4年4月1日- 令和5年3月31日
5	河内 康文	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和4年5月26日- 令和5年3月31日
合計		5件	46,242,000		

5 学長助成事業等の状況

【学長助成事業実績】

(単位:千円)

事業名	助成費	備考
池 体育館棟 講義室 映像音響設備更新	6,930	
看護実践能力向上のための環境の充実	4,840	
表情解析ソフトウェアの調達	3,317	
多様なニーズに対応する支援技術獲得のための学部・大学院の教育環境整備	1,338	
健康栄養学部の教育機器の更新	373	
一般社団法人日本災害看護学会第24回年次大会	220	
合 計	17,018	

【戦略的研究推進プロジェクト事業実績】

(単位:千円)

事業内容	助成費	備考
高知県立大学の学術研究の充実及び高知県の課題解決を目指し、特に重点的に本学を特徴づけるテーマ1～5のいずれかにおいて、教育研究力を格段に高めようとする取り組みに対し、経費を補助することにより、教育・研究のイノベーションを促すことを目指す。	4,930	
合 計	4,930	

XIII キャンパス

1 土地

(単位: m²)

	区 分	所 在 地	面 積
1-1	校舎敷地(図書館、体育館、学生会館)	高知市永国寺町5番15号	11,313.47
1-2	校舎敷地(地域連携棟)	高知市永国寺町6番28号	3,116.30
1-3	校舎敷地(教育研究棟)	高知県高知市永国寺町91番	7,406.09
1-4	校舎敷地	高知市池2751-1	31,586.00
1-5	運動場敷地	高知市池2532-2	9,620.00
1-6	多目的広場・大学駐車場	高知市池2469-1	23,963.00
1-7	学生寮教職員宿舎敷地	高知市東石立町17番2号	2,653.72
1-8	池教員宿舎敷地	高知市池2160-1	3,226.00
1-9	朝倉教員宿舎敷地	高知市朝倉本町1丁目210-3	247.03
1-10	鴨部教員宿舎敷地	高知市鴨部字天神ノ前1258-1	568.51
1-11	幸町教員宿舎	高知県高知市幸町36番2、3	306.01
1-12	その他(法面等)	高知市池2155-1 ほか	10,947.70
	計		104,953.83

2 建 物

(単位: m²)

	区 分	所 在 地	面 積
2-1	南校舎(地域連携棟)	高知市永国寺町6番28号	3,135.89
2-2	教育研究棟	高知市永国寺町2番22号	14,821.49
2-3	図書館	高知市永国寺町5番15号	2,057.36
2-4	学生会館	〃	952.46
2-5	食堂兼体育館	〃	2,690.78
2-6	自転車置場	〃	134.00
2-7	校 舎	高知市池2751-1	12,565.89
2-8	体育館	〃	3,337.16
2-9	自転車置場	〃	262.50
2-10	グラウンド内トイレ等	高知市池2751-1	67.20
2-11	学生寮	高知市東石立町17番2号	1,173.02
2-12	東石立宿舎	〃	684.48
2-13	東城山宿舎	〃	746.76
2-14	朝倉教員宿舎	高知市朝倉本町1丁目210-3	134.02
2-15	鴨部教員宿舎	高知市鴨部字天神ノ前1258-1	278.60
2-16	幸町教員宿舎	高知県高知市幸町36、37番2	306.01
2-17	池教員宿舎	高知市池2160-10	1,116.19
	計		44,463.81